

第 2 章 知立市の公共施設の現状と課題

第2章 知立市の公共施設の現状と課題

1 公共施設の現状と課題

本市では、市民や地域のニーズに応じて建設されてきた大量の公共施設の老朽化が進んでおり、今後大規模な改修や建替えなどの必要性が見込まれる。

(1) 対象施設の整理

本調査研究の対象とする公共施設は、一般会計に区分される公共施設とし、特別会計に区分される施設、道路、橋りょうなどのインフラ施設、広域施設である消防（広域連合）及びごみ処理（一部事務組合）は非対象施設とした。

該当施設は 69 施設、213 棟、建物延床面積は 15.5 万㎡となっている。市民 1 人当たりの延床面積は 2.20 ㎡となっている。（平成 26 年 4 月 1 日現在の知立市人口：70,365 人）

図表 2－1 対象施設の施設数・棟数・延床面積・構成比率

大分類	中分類	施設数	棟数	延床面積	構成比率
市民文化系施設	集会施設	4	7	4,703.42 ㎡	3.0%
	文化施設	2	3	10,981.32 ㎡	7.1%
社会教育系施設	図書館	1	1	2,477.43 ㎡	1.6%
	博物館等	1	0	1,140.48 ㎡	0.7%
スポーツ・レクリエーション系施設	スポーツ施設	2	2	6,583.33 ㎡	4.2%
	保養施設	1	14	1,625.88 ㎡	1.0%
学校教育系施設	学校	10	96	74,482.18 ㎡	48.1%
	その他教育施設	1	1	3,522.88 ㎡	2.3%
子育て支援施設	幼稚園・保育園・こども園	10	10	10,506.97 ㎡	6.8%
	幼児・児童施設	11	8	4,453.44 ㎡	2.9%
保健・福祉施設	高齢福祉施設	3	2	2,068.26 ㎡	1.3%
	障がい福祉施設	2	2	3,667.42 ㎡	2.4%
	保健施設	2	1	2,543.04 ㎡	1.6%
	その他社会福祉施設	1	1	230.48 ㎡	0.1%
行政系施設	庁舎等	3	8	9,231.15 ㎡	6.0%
	消防施設	4	4	365.49 ㎡	0.2%
公営住宅	公営住宅	5	44	10,523.49 ㎡	6.8%
供給処理施設	供給処理施設	2	4	140.92 ㎡	0.1%
その他	その他	4	5	5,692.25 ㎡	3.7%
合 計		69	213	154,939.83 ㎡	100.0%

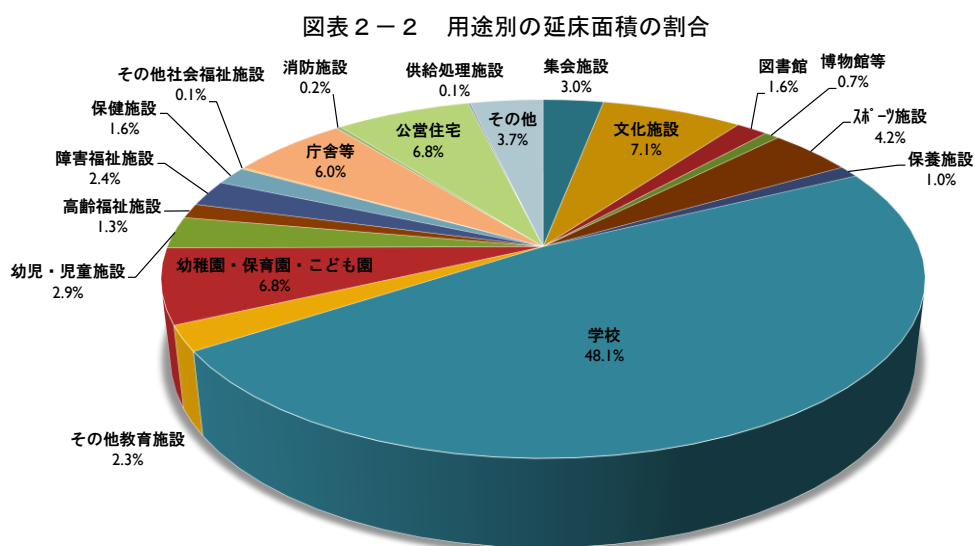
（注）四捨五入により、合計は 100%とにならない。

【用語の解説】

- **一般会計**：行政の基本的な経費（教育や福祉などのサービスの実施、公共施設や道路、公園などの整備、市役所の運営などに要する経費）を、市税などを主な財源として経理する会計。
- **特別会計**：事業目的を限定し、特定の歳入を特定の支出に充てて経理する会計。本市の場合は国民健康保険、公共下水道事業、土地取得、介護保険、後期高齢者医療がある。

(2) 用途別面積の整理

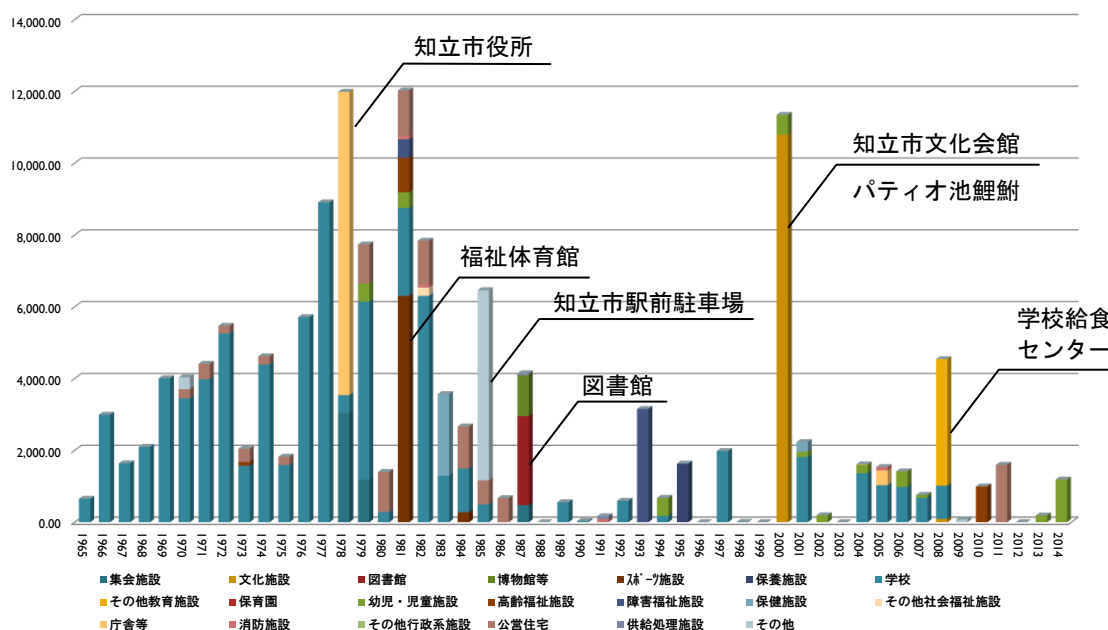
用途別（中分類）の公共施設の状況をみると、延床面積の構成比では、「学校」が 48.1%で最も多くなっている。次いで、文化施設 7.1%、公営住宅と幼稚園・保育園・こども園が 6.8%、庁舎等が 6.0%となっている。



(3) 建築年代の整理

建築年度による公共施設の延床面積の整理から、多くの施設は、1970～80年代に多く建設されている。また、学校については1980年代までに建築された建物が大半を占め、老朽化が進行している現状がうかがえる。

図表 2-3 築年別用途別延床面積



(4) 建築からの経過年数による整理

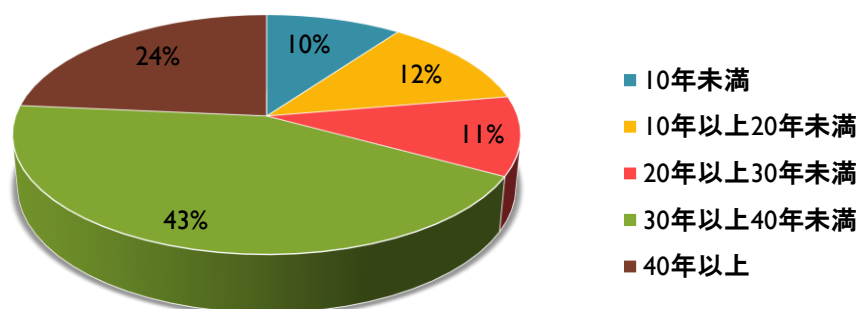
建築物は、30年を経過すると老朽化の進行により、大規模改修が必要となるため、建築年度からの経過年数を把握する必要がある。現時点で30年以上経過し、大規模改修が必要な公共施設は、全体の67%に達しており、老朽化が進行している。内訳は、30年以上40年未満が43%、40年以上が24%である。

図表2-4 公共施設の経過年数の割合（延床面積ベース）経過年数による公共施設の延床面積

経過年数	延床面積	構成比率
10年未満	15,449.93 m ²	10%
10年以上20年未満	19,006.19 m ²	12%
20年以上30年未満	16,467.75 m ²	11%
30年以上40年未満	67,172.20 m ²	43%
40年以上	36,389.11 m ²	24%
合計	154,485.18 m ²	100%

（注）市有公共施設以外の借用部分（454.65 m²分）は除く。

図表2-5 公共施設の経過年数の割合（延床面積ベース）



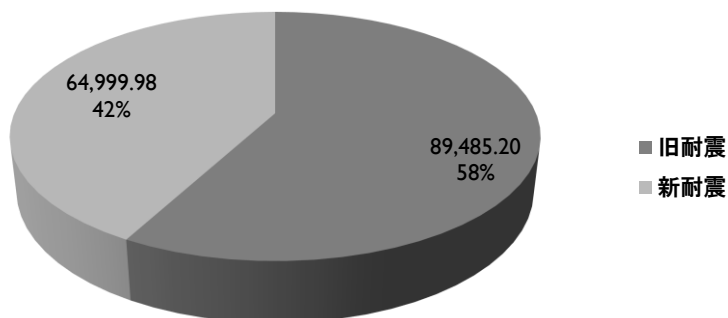
【用語の解説】

- **維持保全**：既存建築物の初期の性能及び機能を維持するために行う行為。
- **修繕**：劣化した部位・部材あるいは機器の性能・機能を建設当初の状態又は実用上支障のない状態まで回復させる行為。ただし、保守の範囲に含まれる定期的な小部品の取替え等は除く。
- **更新**：劣化した部位・部材や機器等を同性能・同仕様の新しい物に取り替える行為。
（例）建築部位：吹付けタイル（既存）→ 吹付けタイル（新規）、設備機器：空調機（既存）→ 空調機（新規）
- **改修**：劣化した建物等の性能・機能を建設当初の性能・機能以上に改善する行為。
（例）建築部位：吹付けタイル（既存）→ アルミカーテンウォール、設備機器：空調機（既存）→ ビルマルチエアコン
- **大規模改修**：建物の基本性能を維持するために定期的（30年程度）に実施される改修。

(5) 耐震基準への適合状況の整理

1981 年以前に建設された公共施設は、建築基準法の改正前の旧耐震基準によるもので、全体の 58% を占める。ただし、耐震診断を実施した上で新耐震基準に不適合と判断された施設については、耐震補強を実施しているため、現在の公共施設の耐震化率は 100% に達している。

図表 2-6 耐震基準による区分（延床面積ベース）



（注）市有建築物以外の借用部分は除く。

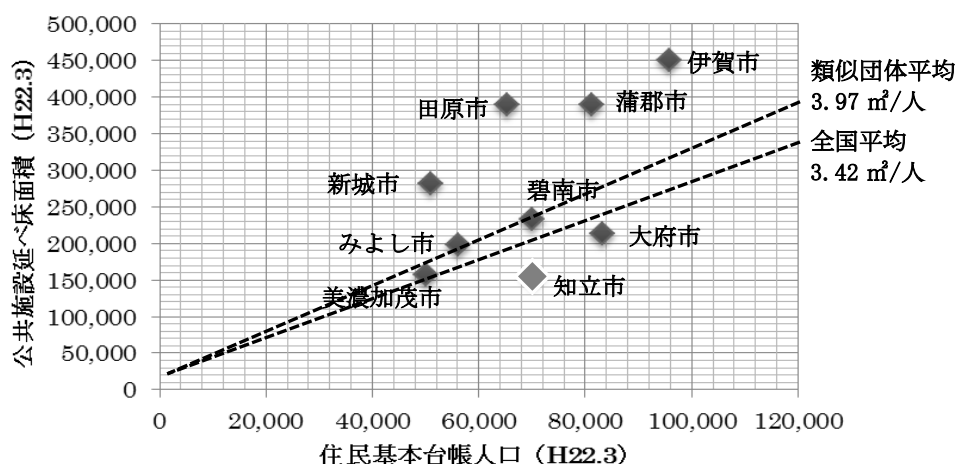
【用語の解説】

- **旧耐震基準**：建築基準法の昭和 55 年改正前の基準によるもので、昭和 56 年 6 月 1 日より前に着工した建築物に適用されている。震度 5 強程度の中規模地震に対して耐震性を有する。
- **新耐震基準**：建築基準法の昭和 55 年改正後の基準によるもので、昭和 56 年 6 月 1 日以降に着工した建築物に適用されている。震度 6 強～7 程度の大規模地震に対しても、倒壊（崩壊）して人命に危害を及ぼすことのない程度の耐震性を有する。

(6) 住民 1 人当たり公共施設延床面積の類似自治体との比較

本市の住民 1 人当たりの公共施設延床面積は 2.20 m² で、人口規模や産業構造による類似団体の平均 3.97 m² や全国平均 3.42 m² よりも少ない状況にある。しかし、全国の平均値より少なくとも、将来に渡って持続的に公共施設を維持していくため、財政状況と今後の維持管理費を踏まえた適正な施設保有量を検討する必要がある。

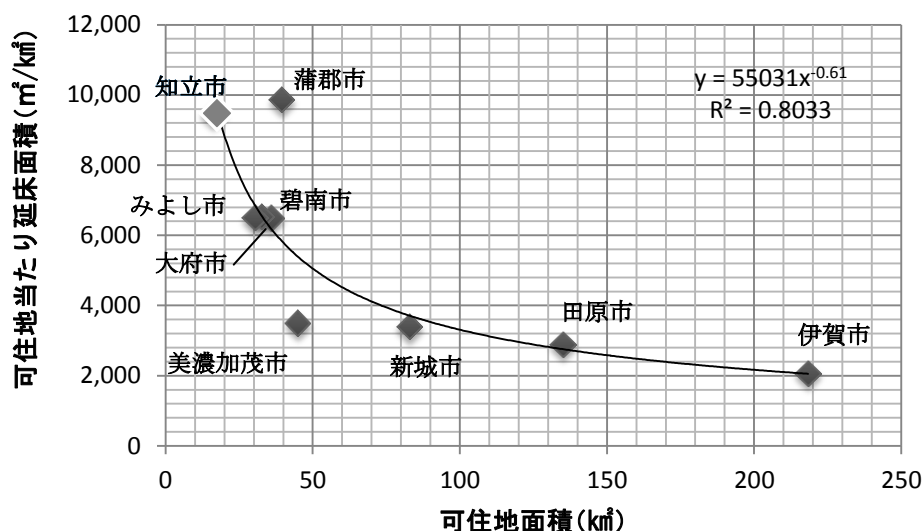
図表 2-7 市民 1 人当たり公共施設面積の類似自治体との比較



(7) 可住地当たり公共施設延床面積の類似団体との比較

人口規模や産業構造による類似団体と可住地面積（土地面積から林野面積及び湖沼面積を差し引いた実際に住むことが可能な面積）と公共施設の延床面積について比較した。その結果、可住地面積が狭いほど可住地当たりの延床面積が大きくなることが分かる。これは、本市においては、狭い市域の中に公共施設がコンパクトにまとまって配置されていることを示している。

図表 2－8 可住地当たり延床面積の類似自治体との比較



(注) 類似団体：総務省が定義する一般市Ⅱ-0（人口5万人以上10万人未満、産業構造Ⅱ次・Ⅲ次95%未満かつⅢ次55%未満）である42団体のうち愛知、岐阜、三重の地方自治体を抽出

資料：東洋大学「全国自治体公共施設延床面積データ」（平成24年1月）、総務省統計局「社会生活統計指標」

図表 2－9 可住地当たり延床面積

都道府県	地方自治体名	平成の大合併	可住地面積 (a)	公共施設延床面積 (b)	可住地当たり延床 (b)/(a)
三重県	伊賀市	○	218.39 km ²	450,368 m ²	2,062 m ² /km ²
愛知県	田原市	○	135.06 km ²	390,399 m ²	2,891 m ² /km ²
愛知県	新城市	○	82.87 km ²	281,796 m ²	3,400 m ² /km ²
岐阜県	美濃加茂市		45.01 km ²	157,457 m ²	3,498 m ² /km ²
愛知県	蒲郡市		39.51 km ²	389,945 m ²	9,870 m ² /km ²
愛知県	碧南市		35.86 km ²	232,828 m ²	6,493 m ² /km ²
愛知県	大府市		32.59 km ²	213,067 m ²	6,538 m ² /km ²
愛知県	みよし市		30.46 km ²	197,927 m ²	6,498 m ² /km ²
愛知県	知立市		16.34 km ²	155,194 m ²	9,498 m ² /km ²

(注) 可住地面積は平成24年現在、公共施設延床面積は平成22年現在の数値

資料：東洋大学「全国自治体公共施設延床面積データ」（平成24年1月）、総務省統計局「社会生活統計指標」

2 公共施設の維持更新費の見通し

(1) 公共施設の更新費用の推計

公共施設の面積及び設置年度の情報から総務省の更新投資試算ソフトを用いて、今後 40 年間に必要となるコストについてシミュレーションを行った。

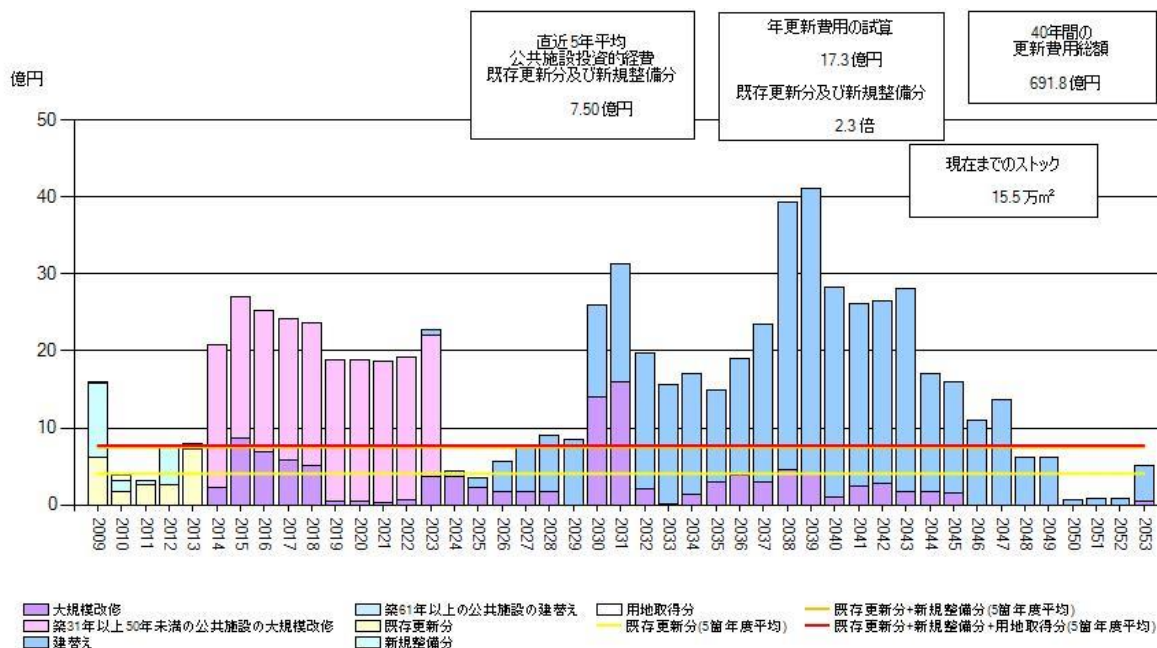
図表 2-10 維持更新費のシミュレーション条件

- 建設後60年で更新（建替え）を実施する。更新費は建設費と同額とする。単年度に負担が集中しないように建替え時は費用を3年間に分割する。
- 建設後30年で大規模改修を実施する。改修時の費用は2年間に分割する。
- 更新（建替え）費の単価は、「更新費用試算ソフト」を参考にして、28～34万円/㎡とする。
- 大規模改修の単価は、一般的な想定値である建設費（更新費）の6割とする。

区分	更新（建替え）	大規模改修
市民文化系、社会教育系、行政系施設等	40万円/㎡	25万円/㎡
スポーツ・レクリエーション系施設等	36万円/㎡	20万円/㎡
学校教育系、子育て支援施設等	33万円/㎡	17万円/㎡
公営住宅	28万円/㎡	17万円/㎡

過去5年間の支出額は年平均7.5億円であるが、シミュレーションの結果、今後40年間の支出総額は691.8億円、平均支出額は17.3億円に増加することが想定され、公共施設の総量縮減も含めたコスト縮減対策が求められる。

図表 2-11 公共施設の将来の更新費用の推計



【用語の解説】

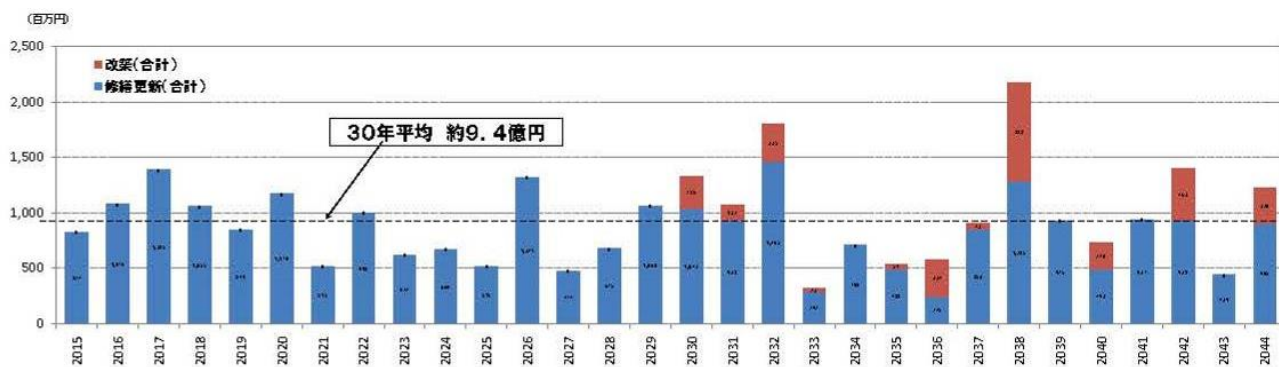
- 投資的経費：公共施設やインフラの建設などの社会資本の形成に投資する経費

(2) 保全計画における試算（参考）

「知立市公共施設保全計画（平成26年3月）」における公共施設（延床面積100㎡以上）を対象にした保全計画におけるシミュレーションでは、長寿命化の効果を加味した検討を行っている。

保全計画では、長寿命化改築年（RC（鉄筋コンクリート）造-80年、S（鉄骨）造-60年）の条件で、今後30年間の保全費用（修繕・更新・改築）を総額約283億円と予測しており、年平均では、約9.4億円/年となっている。

図表2-12 公共施設の保全費用（30年間）



資料：知立市「知立市公共施設保全計画」（平成26年3月）

3 公共施設の用途別の分析方法

(1) 用途別分析の内容

公共施設を用途別に分析する項目は、以下に示す内容とする。

図表 2-13 分析項目の整理

項 目	整 理	内 容
施 設 状 況	表	○ 所在地：施設が建っている住所 ○ 開設年度：施設を設置した年度 ○ 延床面積（㎡）：全ての階の床面積の合計
建 物	表	○ 代表建築年度：敷地内で最も面積の大きい施設が建設された年度 ○ 経過年数：建築されてから経過した年数 ○ 構造：建物の構造の種別（「RC造」：鉄筋コンクリート造、「SRC造」：鉄筋コンクリート造と鉄骨造との混合、「PC造」：プレキャストコンクリート造、「S造」：鉄骨造、「CB造」：コンクリートブロック造、「W造」：木造） ○ 耐震性：耐震基準への適合状況 ○ バリアフリー対応状況：「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）」（平成 18 年 12 月 20 日施行）に基づく、移動等円滑化基準 6 項目への適合状況（①車いす対応エレベーター、②障がい者用トイレ、③道路から入り口までの車イス対応スロープ、④自動ドア、⑤手すり、⑥点字ブロック）
利 用 者 数	グラフ	○平成 23 年度～25 年度の 3 か年の平均利用者数
運 営 状 況	表	○ 運営方法：施設の運営の種別（「直営」：次に掲げるもの以外、「指定管理（管理料）」：指定管理者を指定している施設のうち、利用料金制度を導入していない施設、「指定管理（利用料金）」：指定管理者を指定している施設のうち、利用料金制度を導入しており、管理料の支払いが無い施設、「指定管理（混合）」：指定管理者を指定している施設のうち、利用料金制度を導入しているものの管理料の支払いもある施設（実質の利用料金が 0 円である施設も含む）、「包括委託」：指定管理制度を導入していない施設のうち、市が直接に給与、賃金などを支給している職員が 1 人も常駐せず、日常業務の運営を全て業務委託により対応している施設） ○ 年間運営日数：1 年間の開館日数 ○ 開館時刻：施設の開館時刻 ○ 閉館時刻：施設の閉館時刻
コ ス ト 状 況	グラフ	○ 平成 24 年度～26 年度の 3 か年の各種平均コスト。ただし、平成 26 年度分については、当初予算による。 ○ 施設維持コスト：建物を維持するためのコスト（修繕費など） ○ 総コスト：施設維持コスト＋施設運営コスト（施設運営コスト：建物を使って公共サービスを提供するために必要なコスト（光熱費など）） ○ 利用者 1 人当たりの総コスト：総コストを利用者数で割った金額 ○ 工事請負費は大規模な改修工事の費用、償還金は建設時の費用の分割払いに該当する費用であるため、施設の現状を横並びで比較する際に含めることがそぐわないため、除外している。 ○ 人件費については、総コストに占める割合が大きく、純粋に物理的コストを把握するために除外した場合の比較も参考に掲載する。
公共施設の評価	グラフ 表	○ ポートフォリオ分析（3 施設以上の場合）※ ○ 施設カルテによる分析（2 施設以下の場合）

※ポートフォリオ分析については次頁で解説

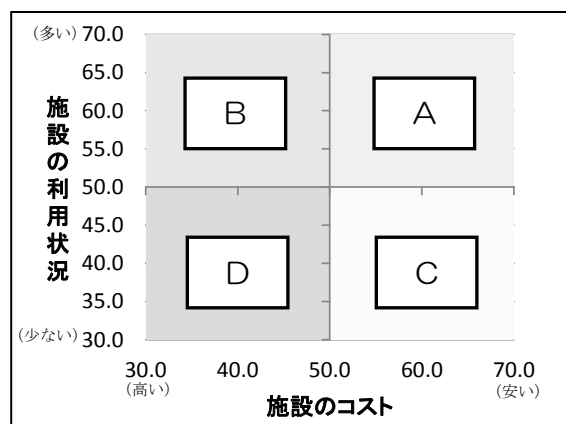
【用語の解説】

- 指定管理者制度：公の施設の管理に民間の能力を活用するため、管理の代行という形で指定された法人に委ねる制度

図表2-14 ポートフォリオ分析の考え方

【ポートフォリオ分析】

パターン① コストと利用状況による分析



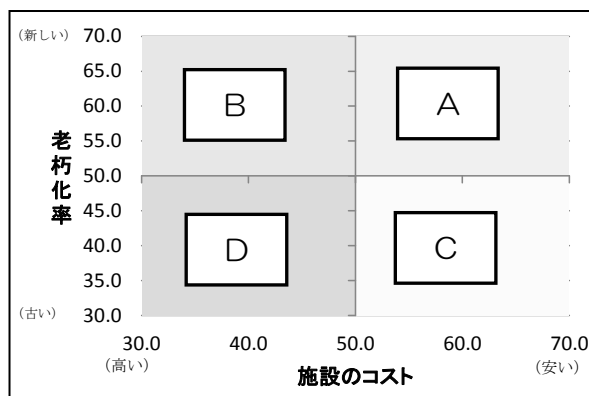
同じ用途分類施設内での比較を行うため、偏差値を求め、以下のとおり2軸にプロットし、ポートフォリオ分析を行った。

横軸：施設のコスト・・・延床面積1㎡当たりのコストの偏差値、大きいほど安い

縦軸：施設の利用状況・・・1日当たりの平均利用者数の偏差値、大きいほど多い

- 「A」：施設の利用状況が多く、コストが安い施設 ⇒ 現状維持
- 「B」：施設の利用状況は多いが、コストも高い施設 ⇒ コスト改善
- 「C」：施設の利用状況は少ないが、コストも安い施設 ⇒ 利用向上
- 「D」：施設の利用状況が少なく、コストが高い施設 ⇒ 要見直し

パターン② コストと老朽化率による分析



※標準耐用年数は、国が会計処理のため定めた年数であり、物理的に建物の寿命を示す指標ではないことに留意が必要である。

横軸：施設のコスト・・・延床面積1㎡当たりのコストの偏差値、大きいほど安い

縦軸：老朽化率・・・老朽化率（経過年数/標準耐用年数）の偏差値、大きいほど新しい

- 「A」：施設の老朽化率が低く、コストが安い施設 ⇒ 現状維持
- 「B」：施設の老朽化率は低いが、コストも高い施設 ⇒ コスト改善
- 「C」：施設の老朽化率が高いが、コストも安い施設 ⇒ 適宜修繕
- 「D」：施設の老朽化率が高く、コストが高い施設 ⇒ 要見直し

【用語の解説】

- ポートフォリオ：二つの指標を用いて領域に区分し、重要性の高い施設を抽出する手法

(2) 用途別分析の対象

用途別に分析する公共施設の対象は、以下に示す内容とする。

なお、学校（小学校、中学校）、保育園のポートフォリオ分析については、①人件費を含めた施設コスト、②人件費を除いたコストの2つを示した。これは、教員、保育士などの職員配置が学校や保育園の教育水準、サービス水準と密接な関係にあり、人件費を含めたコストの多寡が施設運営の効率性を示す指標とは必ずしも考えられないためである。

図表 2－15 用途区分

大分類	中分類	用途区分	ポートフォリオ
市民文化系施設	集会施設	大規模集会施設	－
		小規模集会・文化施設	利用状況
	文化施設	大規模文化施設	－
社会教育系施設	図書館	図書館	－
	博物館等	博物館	－
スポーツ・レクリエーション系施設	スポーツ施設	体育館	－
		運動場	－
	保養施設	保養施設	－
学校教育系施設	学校	小学校	老朽化率
		中学校	老朽化率
	その他教育施設	給食センター	－
子育て支援施設	保育園	保育園	老朽化率
	幼児・児童施設	児童センター・児童クラブ室	利用状況
		子育て支援センター	－
保健・福祉施設	高齢福祉施設	小規模福祉施設	利用状況
	障がい福祉施設	大規模福祉施設	－
	保健施設	大規模保健施設	－
		小規模保護作業所	－
	その他社会福祉施設	小規模福祉施設	利用状況
行政系施設	庁舎等	庁舎等	－
	消防施設	消防施設	老朽化率
公営住宅	公営住宅	公営住宅	老朽化率
供給処理施設	供給処理施設	不燃物処理場	－
その他	その他	その他	－

また、用途別の対象施設数は、以下に示すとおりである。

図表2-16 用途区分ごとの施設数

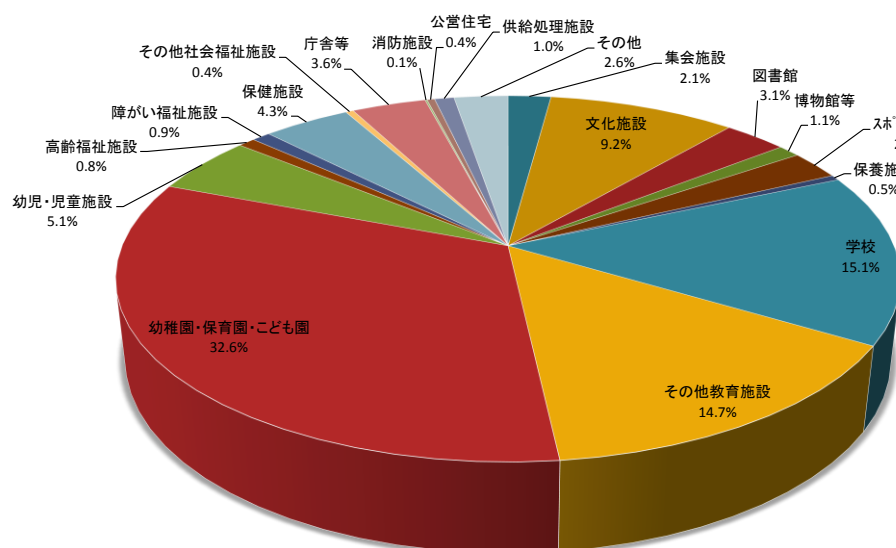
用途区分	施設数	施設名
大規模集会施設	1	中央公民館
小規模集会・文化施設	4	猿渡公民館、知立文化広場、西丘コミュニティセンター、もやいこハウス
大規模文化施設	1	知立市文化会館
図書館	1	図書館
博物館	1	歴史民俗資料館
体育館	1	市民体育館
運動場	1	昭和グラウンド
保養施設	1	知立市野外センター
小学校	7	知立小学校、猿渡小学校、来迎寺小学校、知立東小学校、知立西小学校、八ッ田小学校、知立南小学校
中学校	3	知立中学校、竜北中学校、知立南中学校
給食センター	1	学校給食センター
保育園	10	上重原保育園、知立南保育園、逢妻保育園、高根保育園、新林保育園、八橋保育園、宝保育園、上重原西保育園、知立保育園、来迎寺保育園
児童センター、クラブ室	8	来迎寺児童センター、昭和児童センター、西児童センター、花山児童センター、南児童センター、西児童クラブ室、八ッ田児童クラブ室、猿渡児童クラブ室
子育て支援センター	3	中央子育て支援センター、来迎寺子育て支援センター、南子育て支援センター
小規模福祉施設	5	老人福祉センター、いきがいセンター、身体障害者福祉センター、昭和老人憩いの家、西丘文化センター
大規模福祉施設	1	地域福祉センター
大規模保健施設	1	保健センター
小規模保護作業所	1	かとれあワークス
庁舎等	3	知立市役所、リリオ出張所、市街地整備事務所
消防施設	4	消防団第1分団詰所、第2分団詰所、第3分団詰所、第4分団詰所
公営住宅	5	中山市営住宅、八橋市営住宅、本田市営住宅、西丘改良住宅、高場市営住宅
不燃物処理場	2	不燃物処理場、第二不燃物処理場
その他	4	知立市駅前駐車場、逢妻浄苑、八橋史跡保存館、燕子庵
合計	69	—

(3) 全体コストの整理

用途別（中分類）の公共施設のコスト状況をみると、総コスト（工事請負費、償還金は除く）の構成比では、「幼稚園・保育園・こども園」が32.6%で最も多くなっている。次いで、「学校」が15.1%、「その他教育施設」が14.7%となっており、上位3つの分類で全体の約6割を占めている。

図表2-17 用途区分ごとのコスト・構成比率

大分類	中分類	施設数	総コスト（円） 工事費除く	構成比率
市民文化系施設	集会施設	4	73,543,234	2.1%
	文化施設	2	322,468,460	9.2%
社会教育系施設	図書館	1	108,540,810	3.1%
	博物館等	1	38,151,729	1.1%
スポーツ・レクリエーション系施設	スポーツ施設	2	88,920,804	2.5%
	保養施設	1	16,338,700	0.5%
学校教育系施設	学校	10	531,337,783	15.1%
	その他教育施設	1	514,660,480	14.7%
子育て支援施設	幼稚園・保育園・こども園	10	1,143,548,584	32.6%
	幼児・児童施設	11	178,935,423	5.1%
保健・福祉施設	高齢福祉施設	3	29,328,376	0.8%
	障がい福祉施設	2	31,934,804	0.9%
	保健施設	2	149,812,939	4.3%
	その他社会福祉施設	1	13,322,265	0.4%
行政系施設	庁舎等	3	127,685,452	3.6%
	消防施設	4	3,412,126	0.1%
公営住宅	公営住宅	5	13,229,082	0.4%
供給処理施設	供給処理施設	2	33,472,671	1.0%
その他	その他	4	92,776,601	2.6%
合 計		69	3,511,420,323	100.0%

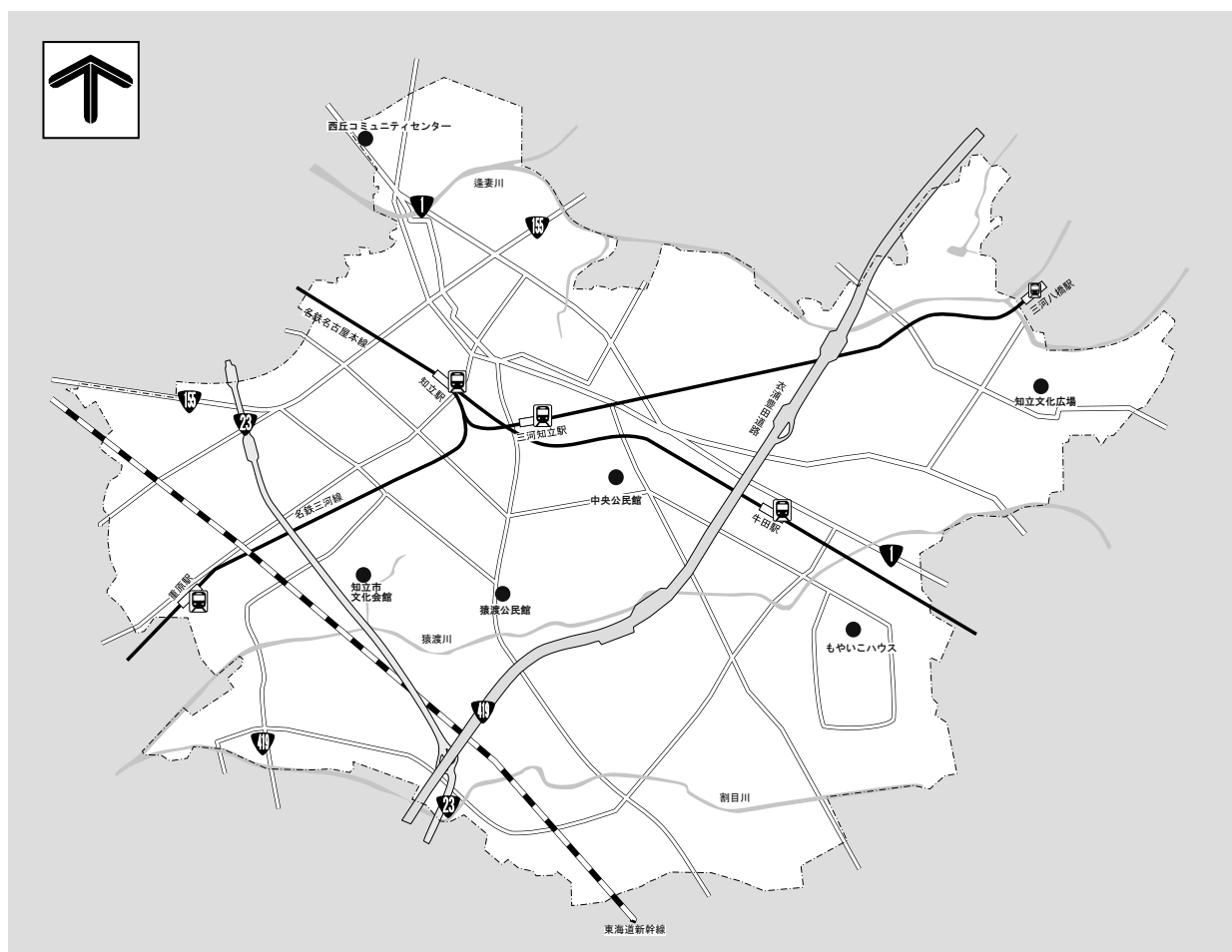


4 市民文化系施設

市民文化系施設のうち、集会施設については、大規模集会施設として中央公民館が整備されており、市役所に併設されている。また、小規模集会施設として、知立小学校区の北部に西丘コミュニティセンター、来迎寺小学校区の東部に知立文化広場、猿渡小学校区の南部に猿渡公民館が整備されている。

文化施設については、猿渡小学校区の西部で国道23号の近くに、大規模文化施設として知立市文化会館（パティオ池鯉鮒）が、また、小規模文化施設として、知立東小学校区内の知立団地の一室を利用して「もやいこハウス」が整備されている。

図表2-18 市民文化系施設の立地状況



(1) 大規模集会施設（中央公民館）

中央公民館（所在地：広見三丁目）は昭和 53 年度に開館し、建物の延床面積は 3,042 m²、鉄筋コンクリート造 3 階建てである。1 階は、展示ホール、会議室、講座室、視聴覚室、和室、実習室（陶芸、ダンス）、料理実習室、2 階は会議室、展示室、展示ホール、図書室、控室、2 階及び 3 階は講堂で構成されている。また、1 階には陶芸用電気炉が設置されている。

中央公民館は年間 13 万人程度の利用があり、会議室などの貸室としての利用が多くなっている。利用者 1 人当たりのコストは 405 円/人となっている。

図表 2－19 中央公民館の概要

施設名		中央公民館						
従たる施設の場合、主たる施設名		-						
大分類	市民文化系施設		中分類	集会施設	施設番号	1		
所管部課		生涯学習スポーツ課						
1 土地データ								
所在地 (小学校地区)		知立市広見三丁目1 (猿渡小学校)		敷地面積	10,810 ㎡			
				うち借地面積	- ㎡			
2 建物データ (複数棟の場合、建築年月・建築構造・階数は主な建物データによる。)								
構成施設		中央公民館						
複合・併設施設		市役所		建築年度	昭和53 年度			
建物構造		鉄筋コンクリート造	延床面積	3,042 ㎡	総取得費	407,806 千円		
階数		3 階	うち借用面積	- ㎡	避難所指定	指定避難所		
3 管理運営データ								
利用状況※1	H23年度		H24年度		H25年度			
	107,483 人		159,437 人		119,074 人			
		平均利用者数		128,665 人				
		管理形態		直営				
ファシリティ コスト (H24～26年度) (施設コスト) ①施設維持コスト 建物を良好に保つために要する経費 + ②施設運営コスト 公共サービスを提供するために要する経費	内 訳		金額 (円)		内 収			
	収 入	利用料等	5,571,537		①施設維持コスト ②施設運営コスト 支 出	人件費 (賃金含)	243,912	
		国 費	-			修繕料	750,129	
		県 費	-			火災保険料	-	
		その他	488,987			維持管理委託料	954,913	
		市費 (一般財源)	46,006,782			敷地借上料	-	
	合 計※2		52,067,306			工事請負費	598,333	
	施設外観					その他維持費	-	
						小 計※2	2,547,287	
						②施設運営コスト	人件費 (賃金含)	16,549,351
						光熱水費	5,998,557	
						その他委託料	19,923,391	
						その他運営費 (事業費)	7,048,720	
						小 計※2	49,520,019	
						合 計 (①+②)	52,067,306	
コスト計算※3	利用者 1 人当たり		市民 1 人当たり		延床面積 1 ㎡当たり			
	405 円/人		740 円/人		17,116 円/㎡			

(※1) 利用状況：人数は年間延利用人数。

(※2) ファシリティコストの収入合計、支出の各小計の欄の金額は、各内訳の 3 箇年の平均を合計しているため、各年度の小計を 3 箇年平均した金額とは異なる場合がある。

(※3) 利用者 1 人当たりコスト：ファシリティコスト÷利用者数（3 箇年平均）、市民 1 人当たりコスト：ファシリティコスト÷人口（平成 26 年 4 月 1 日現在の 70,365 人）、延床面積 1 m²当たりコスト：ファシリティコスト÷延床面積（m²）

(2) 小規模集会・文化施設

ア 施設状況

小規模の集会施設、文化施設は計4か所あり、総延床面積は1,756.38㎡となっている。

各施設の概要をみると、西丘コミュニティセンター（所在地：西丘町西丘）は、昭和62年に開館し、面積は476㎡、構造は鉄筋コンクリート2階建て、1階は集会所、娛樂室、2階は遊戯室で構成されており、貸室として利用されている。

もやいこハウス（所在地：昭和9丁目）は、外国人と交流する施設として、平成24年に開館し、面積は95㎡、構造は鉄筋コンクリート2階建て、外国人の子ども達の学習支援や遊びの場として利用されている。

猿渡公民館（所在地：上重原町小針）は、昭和54年に開館し、面積は468㎡、鉄筋コンクリート2階建て、1階は会議室、和室、図書室、2階は会議室、実習室で構成されており、貸室として利用されている。

知立文化広場（所在地：八橋町井戸尻）は、かきつばた会館、ソーラー棟、茶室、グラウンドを備えた施設である。主要施設であるかきつばた会館は、昭和54年に開館し、面積は718㎡、構造は鉄筋コンクリート1階建て、研修室、和室、展示ホールで構成されており、また、離れに茶室があり、貸室として利用されている。ソーラー棟は倉庫として使用しており、グラウンドは面積6,200㎡で、様々な用途で利用されている。

上記のとおり、もやいこハウスを除く3施設は、昭和50年代中頃から昭和60年代前半に開設されている。（小規模集会・文化施設のうち、もやいこハウスについては、知立団地内の一室を借用して運営しており、他施設に比較して非常に小規模であることから、分析グラフなどの比較対象からは除外する。）

図表2-20 小規模集会・文化施設の状況

施設名	所在地	開設年度	延床面積
猿渡公民館	知立市上重原町小針 118-6	昭和54年度	468.05㎡
知立文化広場	知立市八橋町井戸尻 28-1	昭和54年度	717.87㎡
西丘コミュニティセンター	知立市西丘町西丘 13-97	昭和62年度	475.96㎡
もやいこハウス	知立市昭和9丁目2番地 知立団地74棟003号室	平成24年度	94.50㎡
合 計			1,756.38㎡

イ 建物状況

猿渡公民館と知立文化広場が最も古く、経過年数は 35 年である。最も新しい施設は、もやいこハウスで、開設後の経過年数は 2 年であるが、知立団地の一室を利用しており、築 40 年以上経過している。

構造は全ての建物において R C 造（鉄筋コンクリート造）であり、耐震性能を有している。

バリアフリーへの対応について、もやいこハウスは賃借施設であり、全ての項目で非対応である。自動ドアの整備は、その他の全施設で対応済である。それ以外の障がい者用トイレは 1 施設が対応済、道路から入り口までの車イス対応スロープは 2 施設が対応済であるが、車イス対応エレベータ、手すり、点字ブロックについては全ての施設において非対応となっている。

図表 2－2 1 小規模集会・文化施設の建物状況

施設名	代表建築年度	経過年数	構造	耐震性
猿 渡 公 民 館	昭和 54 年度	35 年	R C 造	有
知 立 文 化 広 場	昭和 54 年度	35 年	R C 造	有
西丘コミュニティセンター	昭和 62 年度	27 年	R C 造	有
も や い こ ハ ウ ス	－	－	R C 造	有

図表 2－2 2 小規模集会・文化施設のバリアフリーの状況

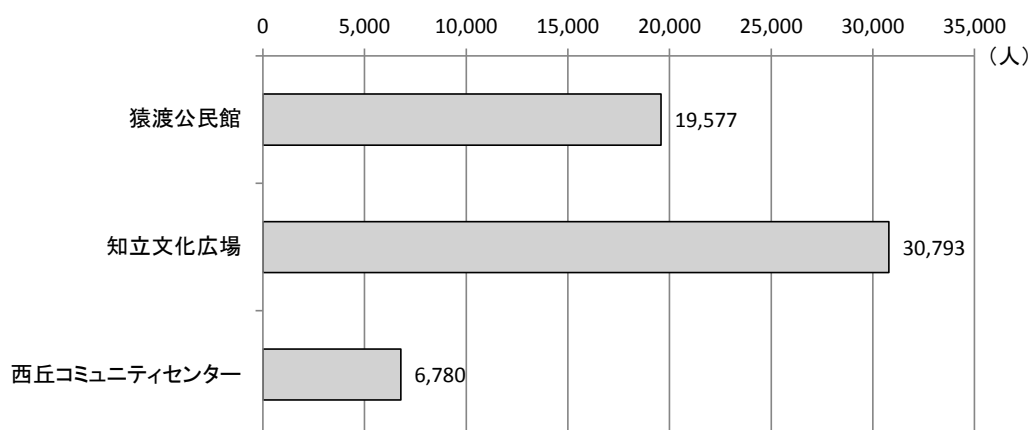
施設名	車イス対応エレベータ	障がい者用トイレ	車イス対応スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック
猿 渡 公 民 館	非対応	非対応	非対応	対 応	非対応	非対応
知 立 文 化 広 場	－	対 応	対 応	対 応	非対応	非対応
西丘コミュニティセンター	非対応	非対応	対 応	対 応	非対応	非対応
も や い こ ハ ウ ス	－	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応

(注) 車イス対応エレベータの「－」は、平屋のため対象外を意味する。

ウ 利用者数

平成 23～25 年度の 3 か年の平均利用者数が最も多い施設は知立文化広場の 3 万 793 人、最も少ない施設は西丘文化コミュニティセンターの 6,780 人となっている。

図表 2－2 3 小規模集会・文化施設の利用者数



エ 運営状況

運営方法は猿渡公民館、知立文化広場は直営、西丘コミュニティセンターは指定管理（混合）となっている。また、年間運営日数は、猿渡公民館、知立文化広場は307日、西丘コミュニティセンターは302日となっている。運営時間は、猿渡公民館、知立文化広場は午前9時から午後9時30分、西丘コミュニティセンターは午前9時から午後9時となっている。

図表2-24 小規模集会・文化施設の運営状況

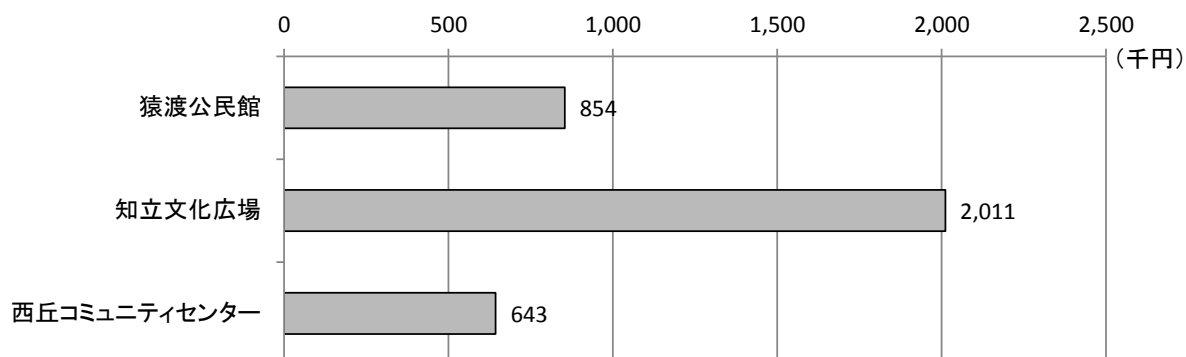
施設名	運営方法	年間運営日数	開館時刻	閉館時刻
猿 渡 公 民 館	直営	307	9:00	21:30
知 立 文 化 広 場	直営	307	9:00	21:30
西丘コミュニティセンター	指定管理（混合）	302	9:00	21:00

オ コスト状況

① 施設維持コスト

1年当たりの施設維持コストが最も高い施設は知立文化広場の201万円、最も低い施設は西丘コミュニティセンターの64万円となっている。知立文化広場では、維持管理担当職員が配置されているため、施設維持コストが高くなっている。

図表2-25 小規模集会・文化施設の施設維持コスト（平成24～26年度平均）



【用語の解説】

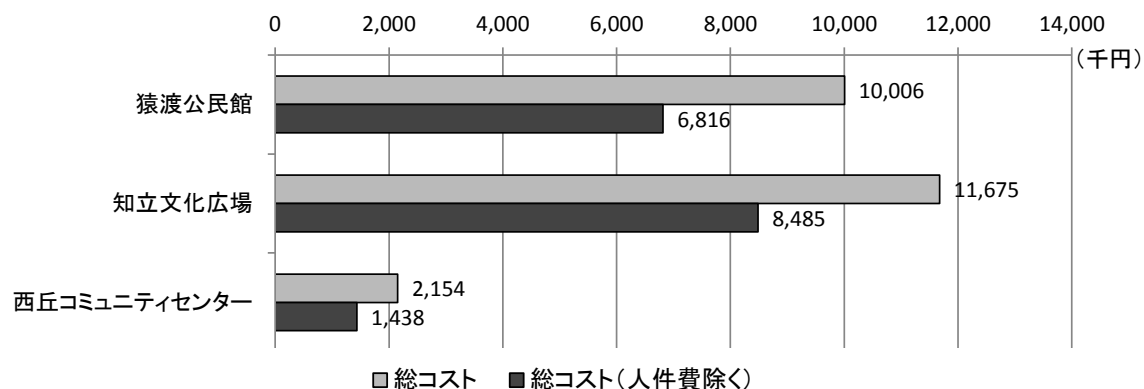
- 施設維持コスト：建物の状態を良好に保つために要する経費。
- 施設運営コスト：建物を使って公共サービスを提供するために要する経費。

② 総コスト（施設維持コスト＋施設運営コスト）

1年当たりの総コストが最も高い施設は1,168万円の知立文化広場である。最も低い施設は215万円の西丘コミュニティセンターとなっている。

なお、1年当たりの人件費を除く総コストが最も高い施設は849万円の知立文化広場、最も低い施設は144万円の西丘コミュニティセンターとなっている。

図表2-26 小規模集会・文化施設の総コスト（平成24～26年度平均）

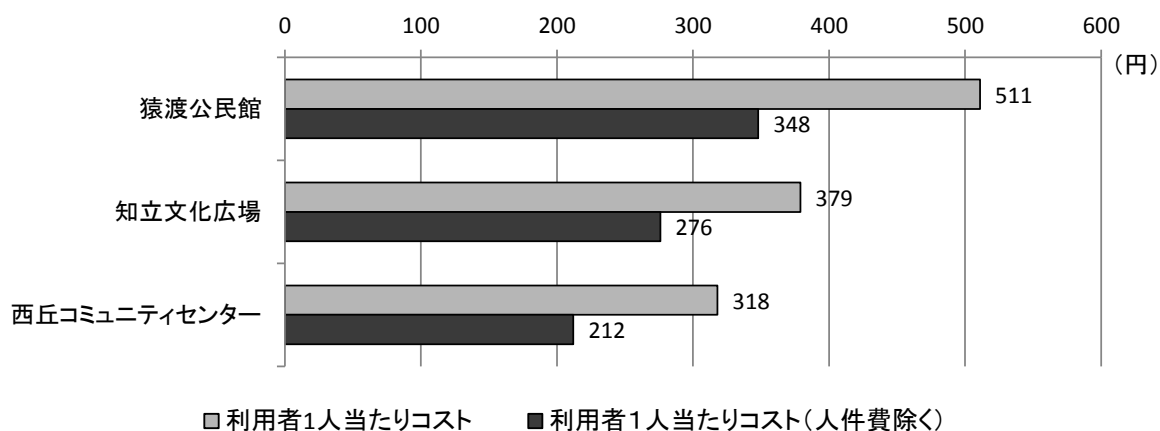


③ 利用者1人当たりのコスト

利用者1人当たりのコストが最も高い施設は511円の猿渡公民館、最も低い施設は318円の西丘コミュニティセンターとなっている。

なお、利用者1人当たりの人件費を除いたコストが最も高い施設は348円の猿渡公民館、最も低い施設は212円の西丘コミュニティセンターとなっている。

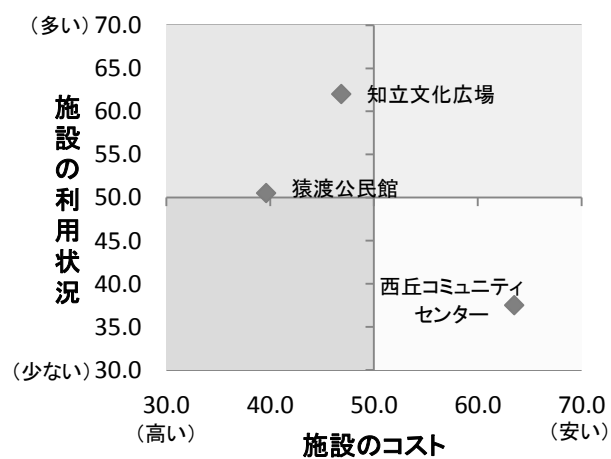
図表2-27 小規模集会・文化施設の利用者1人当たりコスト（平成24～26年度平均）



カ 分野別の公共施設の評価

猿渡公民館は、同種施設の中で比較するとコストの偏差値が低く、また、西丘コミュニティセンターは利用状況の偏差値が低い施設であると評価されるため、各施設にコスト縮減対策や利用率向上のための利用促進策が必要である。

図表2-28 小規模集会・文化施設の評価



(3) 大規模文化施設（知立市文化会館）

知立市文化会館（パティオ池鯉鮒）（所在地：上重原町間瀬口）は平成12年度に開館し、建物の延床面積は10,887㎡、構造は鉄骨鉄筋コンクリート造（一部除く）地上4階地下1階建てである。

2つのホール（かきつばたホール：客席数1,004席、花しょうぶホール：客席数293席）とギャラリー、4つのリハーサル室（演劇、ダンス、音楽等）、3つのワークショップ室、講座室、和室、茶室、工芸室などで構成されている。

知立市文化会館は、年間17万人程度の利用があり、利用者1人当たりのコストは3,968円/人となっている。

図表2-29 知立市文化会館の状況

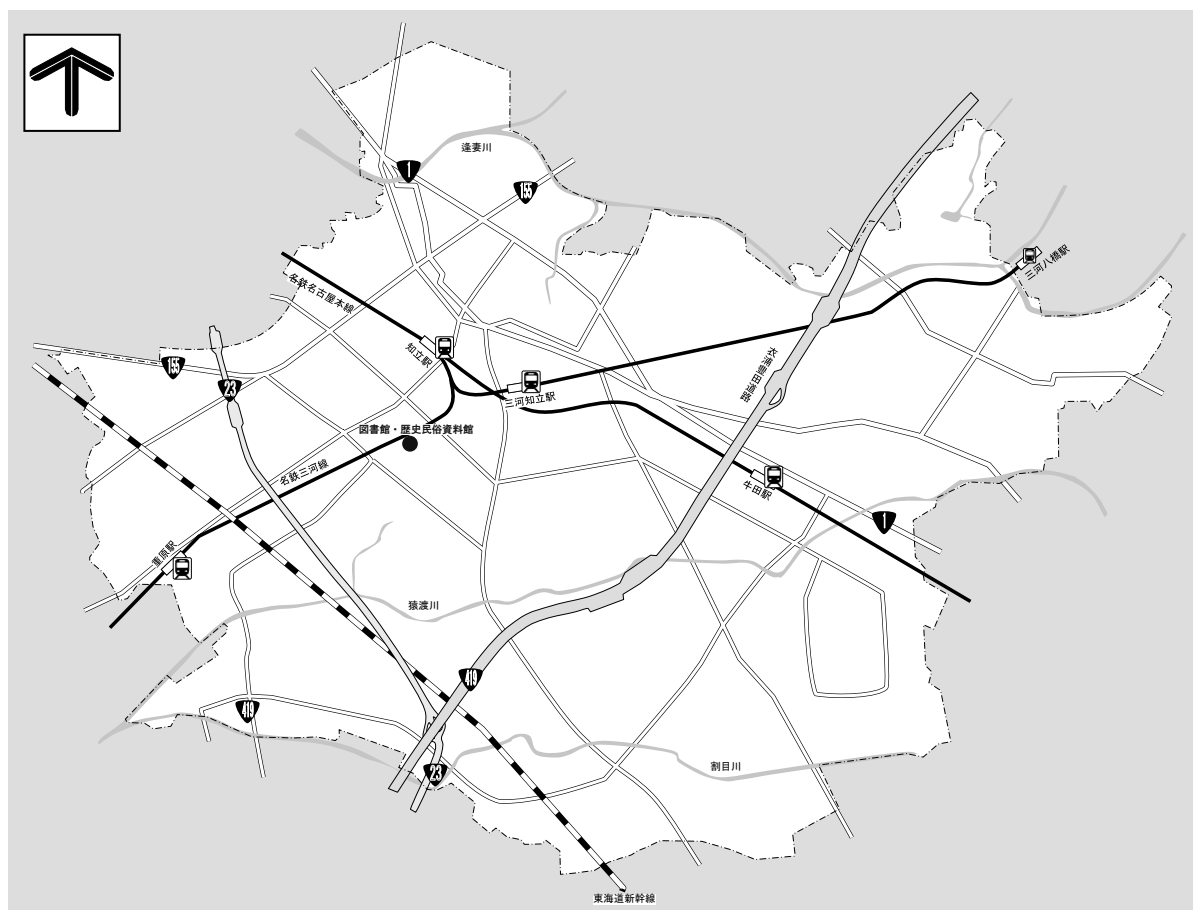
施 設 名		知立市文化会館							
従たる施設の場合、主たる施設名		-							
大分類	市民文化系施設		中分類	文化施設	施設番号	6			
所管部課		文化課							
1 土地データ									
所 在 地 (小学校地区)		知立市上重原町間瀬口116 (猿渡小学校)			敷 地 面 積	23,870 ㎡			
					うち借地面積	- ㎡			
2 建物データ (複数棟の場合、建築年月・建築構造・階数は主な建物データによる。)									
構 成 施 設		文化会館、茶室							
複 合 ・ 併 設 施 設		-			建 築 年 度	平成12 年度			
建 物 構 造		鉄骨鉄筋コンクリート造＋ 鉄骨造＋鉄筋コンクリート造	延 床 面 積	10,887 ㎡	総 取 得 費	6,213,234 千円			
階 数		4(1) 階	うち借用面積	- ㎡	避 難 所 指 定	指定無し			
3 管理運営データ									
利用状況※1		H23年度	H24年度	H25年度	平均利用者数	管理形態			
		170,701 人	181,355 人	158,250 人	170,102 人	指定管理(混合)			
ファシリティ コスト (H24～26年度) (施設コスト) ①施設維持コスト 建物を良好に保つために要する経費 ＋ ②施設運営コスト 公共サービスを 提供するために 要する経費		内 訳		金額(円)	内 訳		金額(円)		
		収 入	利用料等	41,234,187		支 出	人件費(賃金含)	43,933,232	
			国 費	11,313,262			修繕料	3,787,635	
			県 費	-			火災保険料	1,883,037	
			その他	3,729,315			維持管理委託料	141,396,430	
			市費(一般財源)	618,641,355			敷地借上料	-	
		合 計※2		674,918,119			工事請負費	19,360,299	
		施設外観					その他維持費	2,411,885	
							小 計※2	212,772,518	
							②施設運営コスト	人件費(賃金含)	25,074,997
							光熱水費	30,986,996	
						その他委託料	32,645,582		
						その他運営費(事業費)	373,438,026		
						小 計※2	462,145,601		
				合 計(①＋②)		674,918,119			
コスト計算※3		利用者1人当たり		市民1人当たり		延床面積1㎡当たり			
		3,968 円/人		9,592 円/人		61,993 円/㎡			

(注)※1、2、3は図表2-19の注と同じ

5 社会教育系施設

社会教育系施設としては、図書館と博物館に分類される歴史民俗資料館があり、市の中心部の知立駅から約1kmの位置に、この2施設が複合施設として整備されている。

図表 2-30 社会教育系施設の立地状況



(1) 図書館

図書館（所在地：南新地二丁目）は昭和 62 年度に開館し、建物の延床面積は 2,477 ㎡、構造は鉄筋コンクリート 2 階建てで、1 階は図書コーナー（受付、開架・閉架書庫）、展示コーナー、2 階は閲覧室、視聴覚室、事務室などで構成されている。平成 26 年現在の蔵書数は約 22 万点となっている。

年間 10 万人程度の利用があり、利用者 1 人当たりのコストは 1,211 円/人となっている。支出の内訳をみると、総支出に占める人件費の割合が半分近くを占めている。

また、歴史民俗資料館が複合施設として同じ建物内に設置されている。

図表 2-31 図書館の状況

施設名		図書館						
従たる施設の場合、主たる施設名		-						
大分類	社会教育系施設		中分類	図書館	施設番号	7		
所管部課		文化課						
1 土地データ								
所在地 (小学校地区)		知立市南新地二丁目3-3 (知立西小学校)		敷地面積	4,951 ㎡			
				うち借地面積	- ㎡			
2 建物データ (複数棟の場合、建築年月・建築構造・階数は主な建物データによる。)								
構成施設		図書館						
複合・併設施設		歴史民俗資料館(56)		建築年度	昭和62 年度			
建物構造		鉄筋コンクリート造	延床面積	2,477 ㎡	総取得費	608,256 千円		
階数		2 階	うち借用面積	- ㎡	避難所指定	指定避難所		
3 管理運営データ								
利用状況※1		H23年度	H24年度	H25年度	平均利用者数	管理形態		
		101,373 人	99,009 人	101,512 人	100,631 人	直営		
ファシリティコスト (H24～26年度) (施設コスト) ①施設維持コスト 建物を良好に保つために要する経費 + ②施設運営コスト 公共サービスを 提供するために 要する経費	収入	内 訳		金額 (円)	内 訳		金額 (円)	
		利用料等			-	施設維持 コスト 支出	人件費 (賃金含)	2,107,719
			国 費		10,606,057		修繕料	1,116,066
			県 費		-		火災保険料	27,328
			その他		128,717		維持管理委託料	3,689,500
			市費 (一般財源)		111,092,036		敷地借上料	2,454,428
		合 計※2		121,826,810	工事請負費		13,286,000	
		施設外観					その他維持費	67,129
					小 計※2		22,748,170	
		施設外観 				施設運営 コスト	人件費 (賃金含)	57,480,094
							光熱水費	4,355,927
							その他委託料	11,330,244
							その他運営費 (事業費)	25,912,375
							小 計※2	99,078,640
							合 計 (①+②)	121,826,810
	コスト計算※3		利用者 1 人当たり		市民 1 人当たり		延床面積 1 ㎡当たり	
		1,211 円/人		1,731 円/人		49,183 円/㎡		

(注)※1、2、3 は図表 2-19 の注と同じ

(2) 博物館等（歴史民俗資料館）

歴史民俗資料館は、図書館の建物内に設置されており、東海道の宿場町「池鯉鮒宿」関連資料など、本市の歴史と文化を知る貴重な資料を展示している。

歴史民俗資料館は、年間2万人程度の利用があり、利用者1人当たりのコストは1,755円/人となっている。支出の内訳をみると、総支出に占める人件費の割合が7割近くを占め、併設されている図書館と同様に高コストの運営状況となっている。

図表2-32 歴史民俗資料館の状況

施設名		歴史民俗資料館						
従たる施設の場合、主たる施設名		図書館（7）						
大分類	社会教育系施設		中分類	博物館等	施設番号	8		
所管部課		文化課						
1 土地データ								
所在地 (小学校地区)	知立市南新地二丁目3-3 (知立西小学校)			敷地面積	㎡			
				うち借地面積	- ㎡			
2 建物データ（複数棟の場合、建築年月・建築構造・階数は主な建物データによる。）								
構成施設	歴史民俗資料館							
複合・併設施設	図書館(55)			建築年度	昭和62 年度			
建物構造	鉄筋コンクリート造	延床面積	1,140 ㎡	総取得費	289,744 千円			
階数	2 階	うち借用面積	- ㎡	避難所指定	指定避難所			
3 管理運営データ								
利用状況※1	H23年度		H24年度		H25年度			
	21,582 人		21,834 人		21,787 人			
	平均利用者数		21,734 人		管理形態			
	直営							
ファシリティコスト (H24～26年度) (施設コスト) ①施設維持コスト 建物を良好に保つために要する経費 + ②施設運営コスト 公共サービスを 提供するために 要する経費	内 訳		金額（円）		内 訳			
	収 入	利用料等			支 出	人件費（賃金含）	1,405,146	
		国 費				修繕料	193,468	
		県 費				火災保険料	46,996	
		その他				維持管理委託料	3,781,853	
		市費（一般財源）	38,151,729			敷地借上料	-	
	合 計※2		38,151,729			工事請負費	-	
	施設外観					その他維持費	893,513	
						小 計※2	6,320,976	
						②施設運営コスト	人件費（賃金含）	26,578,611
							光熱水費	1,866,733
							その他委託料	1,331,667
			その他運営費（事業費）	2,053,742				
			小 計※2	31,830,753				
		合 計（①+②）		38,151,729				
コスト計算※3	利用者1人当たり		市民1人当たり			延床面積1㎡当たり		
	1,755 円/人		542 円/人			33,466 円/㎡		

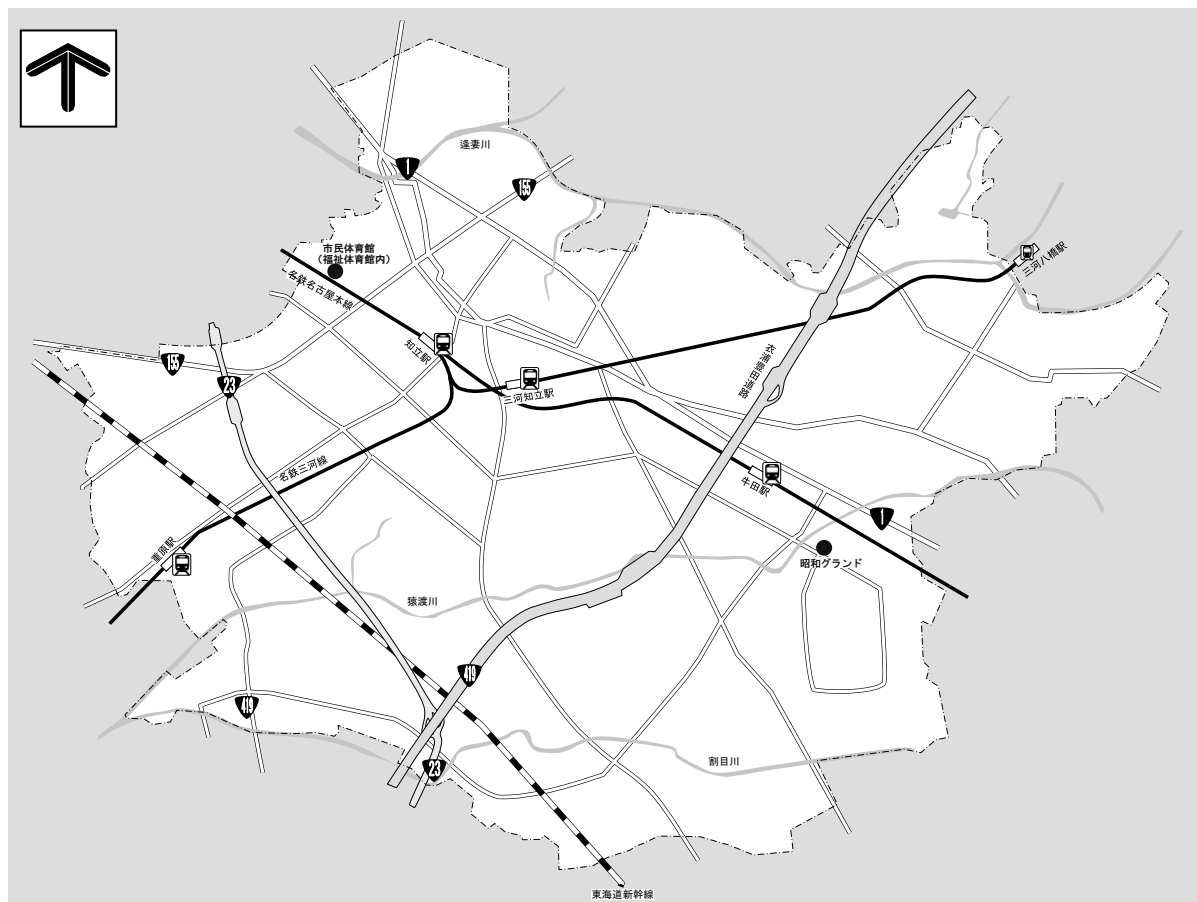
(注)※1、2、3は図表2-19の注と同じ

6 スポーツ・レクリエーション系施設

スポーツ施設としては、体育館が1か所（市民体育館）、グラウンドが1か所（昭和グラウンド）ある。市民体育館は市の北西部に位置し、知立西小学校区の知立駅から約0.8kmの距離にある。昭和グラウンドは市の南東部に位置し、八ツ田小学校区の牛田駅から約0.6kmの距離にある。

レクリエーション施設としては、長野県伊那市に、宿泊施設を有し、バーベキューなどのレクリエーションができる保養施設として野外活動センターが整備されている。

図表2-33 スポーツ・レクリエーション系施設の立地状況



(1) 体育館（市民体育館）

市民体育館（所在地：西町草刈）は昭和56年度に開館し、建物の延床面積は6,304㎡、構造は鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）、地上4階地下1階建てである。

1階は、会議室、2階は主競技場（アリーナ）、3階は卓球場（観覧席兼用）、4階は弓道場、ランニングコース、地下は剣道場、柔道場、トレーニング場で構成されている。

市民体育館は年間10万人程度の利用があり、利用者1人当たりのコストは861円/人となっている。老人福祉センター、身体障害者福祉センター、西児童センターが同一施設内に複合施設として設置されている。

図表2-34 市民体育館の状況

施 設 名		市民体育館					
従たる施設の場合、主たる施設名		-					
大分類	スポーツ・レクリエーション系施設	中分類	スポーツ施設	施設番号	9		
所管部課		生涯学習スポーツ課					
1 土地データ							
所 在 地 (小学校地区)	知立市西町草刈10-5 (知立西小学校)			敷 地 面 積	3,850 ㎡		
				うち借地面積	- ㎡		
2 建物データ (複数棟の場合、建築年月・建築構造・階数は主な建物データによる。)							
構 成 施 設	市民体育館			建 築 年 度	昭和56 年度		
複 合 ・ 併 設 施 設	老人福祉センター(40)、身体障害者福祉センター(41)、西児童センター(42)			建 築 年 度	昭和56 年度		
建 物 構 造	鉄筋コンクリート造+鉄骨造	延 床 面 積	6,304 ㎡	総 取 得 費	1,241,520 千円		
階 数	4(1) 階	うち借用面積	- ㎡	避 難 所 指 定	指定避難所		
3 管理運営データ							
利用状況※1	H23年度	H24年度	H25年度	平均利用者数	管理形態		
	95,597 人	94,126 人	101,610 人	97,111 人	直営		
ファシリティ コスト (H24～26年度) (施設コスト) ①施設維持コスト 建物を良好に保つために要する経費 + ②施設運営コスト 公共サービスを 提供するために 要する経費	内 訳		金額(円)	内 訳			
	収 入	利用料等	8,369,667	支 出	人件費(賃金含)	16,576,073	
		国 費	-		修繕料	1,544,163	
		県 費	-		火災保険料	52,339	
		その他	783,754		維持管理委託料	13,297,512	
		市費(一般財源)	74,432,728		敷地借上料	2,433,609	
	合 計※2		83,586,149		工事請負費	6,464,562	
	施設外観				その他維持費	1,049,667	
					小 計※2	41,417,925	
					人件費(賃金含)	24,399,512	
					光熱水費	9,819,319	
					その他委託料	2,083,405	
					その他運営費(事業費)	5,865,988	
					小 計※2	42,168,224	
					合 計(①+②)	83,586,149	
コスト計算※3	利用者1人当たり		市民1人当たり		延床面積1㎡当たり		
	861 円/人		1,188 円/人		13,259 円/㎡		

(注)※1、2、3は図表2-19の注と同じ

(2) 運動場（昭和グラウンド）

昭和グラウンドは、2面の野球、ソフトボール用グラウンド、人工芝4面のテニスコート、管理棟から構成されている。年間9万人程度の利用があり、利用者1人当たりのコストは215円/人となっている。

利用料金は、グラウンドが1面1時間につき240円、テニスコートが1面1時間につき200円～370円となっている。

図表2-35 昭和グラウンドの状況

施設名		昭和グラウンド						
従たる施設の場合、主たる施設名		-						
大分類	スポーツ・レクリエーション系施設	中分類	スポーツ施設	施設番号	10			
所管部課		生涯学習スポーツ課						
1 土地データ								
所在地 (小学校地区)	知立市昭和二丁目7 (知立東小学校)			敷地面積	17,404 ㎡			
				うち借地面積	- ㎡			
2 建物データ (複数棟の場合、建築年月・建築構造・階数は主な建物データによる。)								
構成施設		グラウンド						
複合・併設施設		-		建築年度	昭和59 年度			
建物構造	鉄骨造	延床面積	279 ㎡	総取得費	22,984 千円			
階数	1 階	うち借用面積	- ㎡	避難所指定	指定無し			
3 管理運営データ								
利用状況※1	H23年度		H24年度		H25年度	平均利用者数	管理形態	
	89,384 人		93,782 人		75,145 人	86,104 人	直営	
ファシリティ コスト (H24～26年度) (施設コスト) ①施設維持コスト 建物を良好に保つために要する経費 + ②施設運営コスト 公共サービスを 提供するために 要する経費	内 訳		金額 (円)		内 収		金額 (円)	
	収 入	利用料等	3,456,370		支 出	人件費 (賃金含)	702,573	
		国 費	-			修繕料	491,034	
		県 費	-			火災保険料	1,888	
		その他	34,226			維持管理委託料	4,983,833	
		市費 (一般財源)	15,040,190			敷地借上料	-	
	合 計※2		18,530,786			工事請負費	4,631,133	
	施設外観					その他維持費	-	
						小 計※2	10,810,461	
						②施設運営コスト	人件費 (賃金含)	1,551,000
							光熱水費	780,773
					その他委託料		3,343,483	
					その他運営費 (事業費)		2,045,069	
					小 計※2	7,720,325		
					合 計 (①+②)		18,530,786	
コスト計算※3	利用者 1 人当たり		市民 1 人当たり		延床面積 1 ㎡当たり			
	215 円/人		263 円/人		66,419 円/㎡			

(注)※1、2、3は図表2-19の注と同じ

(3) 保養施設（知立市野外センター）

知立市野外センター（所在地：長野県伊那市）は平成7年に開館し、テント（56張）、宿泊棟（5棟）、管理棟（1棟）で構成された宿泊施設である。

知立市野外センターは、年間3千人程度の利用があり、利用者1人当たりのコストは15,980円/人となっている。利用者数が少ないため、利用者1人当たりのコストが高くなっている。

図表2-36 知立市野外センターの状況

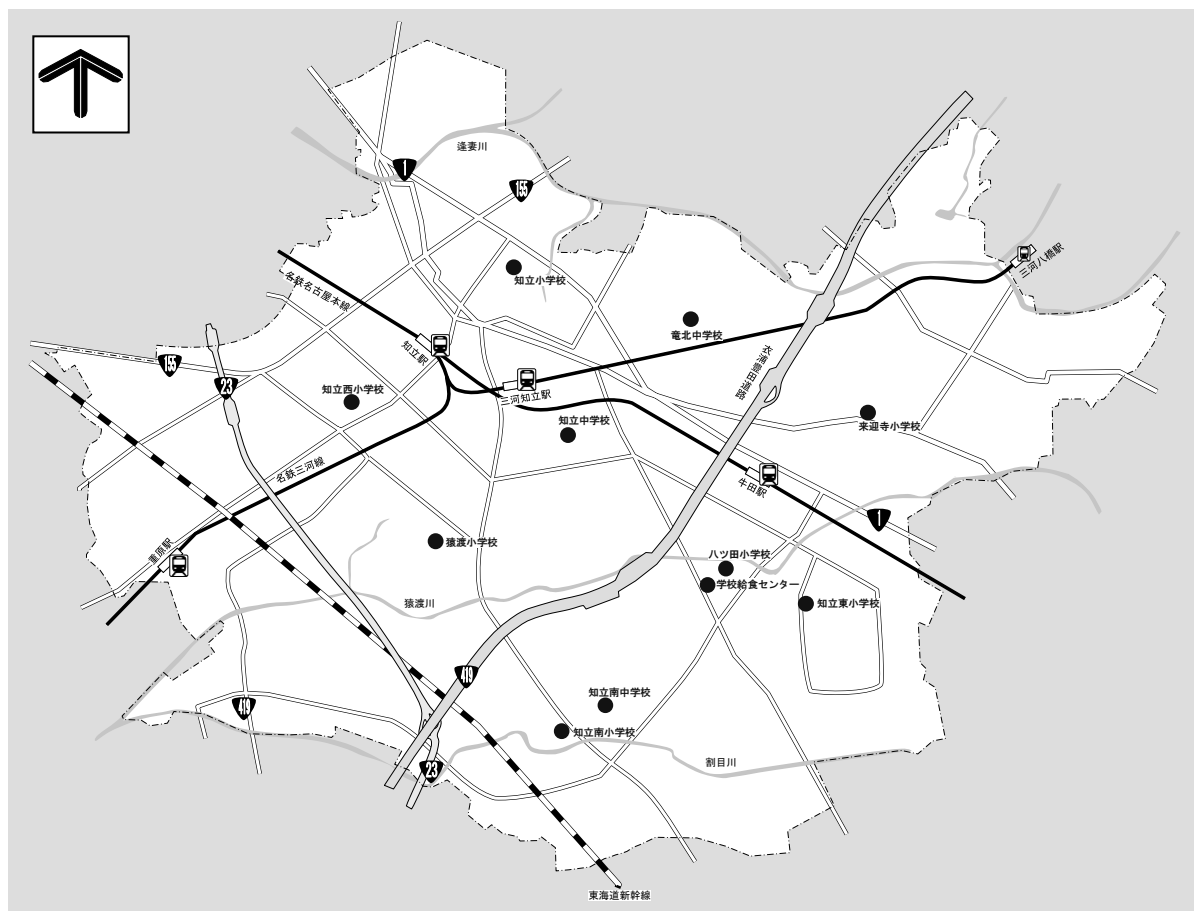
施設名		知立市野外センター						
従たる施設の場合、主たる施設名		-						
大分類	スポーツ・レクリエーション系施設	中分類	保養施設	施設番号	11			
所管部課		生涯学習スポーツ課						
1 土地データ								
所在地 (小学校地区)	伊那市西春近細ヶ谷3390-384 ()			敷地面積	43,998 ㎡			
				うち借地面積	- ㎡			
2 建物データ (複数棟の場合、建築年月・建築構造・階数は主な建物データによる。)								
構成施設		管理等、ケビンA、ケビンB-1、ケビンB-2、ケビンC-1、ケビンC-2、屋外灯事棟1、屋外灯事棟2、屋外トイレA-1、屋外トイレA-2、屋外トイレB、屋外倉庫1、屋外倉庫2、東屋						
複合・併設施設		-		建築年度	平成7 年度			
建物構造		鉄筋コンクリート造	延床面積	1,626 ㎡	総取得費	458,070 千円		
階数		2 階	うち借用面積	- ㎡	避難所指定	指定無し		
3 管理運営データ								
利用状況※1	H23年度		H24年度		H25年度		平均利用者数	管理形態
	3,503 人		3,916 人		2,306 人		3,242 人	包括委託
ファシリティ コスト (H24～26年度) (施設コスト) ①施設維持コスト 建物を良好に保つために要する経費 + ②施設運営コスト 公共サービスを 提供するために 要する経費	内 訳		金額(円)		内 収		金額(円)	
	収 入	利用料等	1,288,408		支 出	①施設維持コスト	人件費(賃金含)	255,789
		国 費	-			修繕料	947,274	
		県 費	-			火災保険料	47,296	
		その他	15,100			維持管理委託料	-	
		市費(一般財源)	50,502,268			敷地借上料	-	
	合 計※2		51,805,776			工事請負費	181,650	
	施設外観					その他維持費	-	
						小 計※2	1,432,009	
						②施設運営コスト	人件費(賃金含)	511,577
						光熱水費	1,460,425	
					その他委託料	10,620,046		
				その他運営費(事業費)	37,781,719			
				小 計※2	50,373,767			
				合 計(①+②)	51,805,776			
コスト計算※3	利用者1人当たり		市民1人当たり		延床面積1㎡当たり			
	15,980 円/人		736 円/人		31,861 円/㎡			

(注)※1、2、3は図表2-19の注と同じ

7 学校教育系施設

学校教育系施設としては、市内には学校として7つの小学校と3つの中学校があり、その他教育施設として全10校の給食を調理するための学校給食センターがある。小学校は、市の北部に知立小学校、北西部に知立西小学校、中西部に猿渡小学校、東部に来迎寺小学校、南東部に八ツ田小学校と知立東小学校、南部に知立南小学校がある。中学校は、北東部に竜北中学校、中央部に知立中学校、南部に知立南中学校がある。また、学校給食センターは、八ツ田小学校に隣接して設置されている。

図表 2－3 7 学校教育系施設の立地状況



(1) 小学校

ア 施設状況

小学校は計7校あり、総延床面積は46,074.68㎡となっている。知立小学校は特に歴史が古く、前身も含めると明治6年度に開校されている。

図表2-38 小学校の施設状況

施設名	所在地	開校年度	延床面積	敷地面積
知立小学校	知立市中町花山70	明治6年度	8,254.00㎡	26,529㎡
猿渡小学校	知立市上重原町小針115	明治41年度	6,061.76㎡	20,077㎡
来迎寺小学校	知立市来迎寺町外山5-1	大正3年度	6,551.05㎡	21,979㎡
知立東小学校	知立市昭和九丁目1	昭和42年度	5,607.03㎡	17,121㎡
知立西小学校	知立市鳥居一丁目13-2	昭和49年度	7,375.01㎡	20,882㎡
八ツ田小学校	知立市八ツ田町川畔45	昭和51年度	5,483.96㎡	20,740㎡
知立南小学校	知立市新林町新林55-1	昭和54年度	6,741.87㎡	20,242㎡
合 計			46,074.68㎡	147,570㎡

イ 建物状況

知立東小学校が最も古く、経過年数は48年となっている。最も新しい施設は知立南小学校で、経過年数は35年となっている。また、構造は全ての建物がRC造（鉄筋コンクリート造）で、耐震性能を有している。

バリアフリーへの対応状況として、全ての小学校で対応済のものは障がい者用トイレとなっている。それ以外の道路から入り口までの車イス対応スロープ、手すりは全ての小学校で一部対応となっているが、車イス対応エレベータ、自動ドア、点字ブロックは全ての小学校において非対応となっている。

図表2-39 小学校の建物状況

施設名	代表建築年度	経過年数	構造	耐震性
知立小学校	昭和46年度	43年	RC造	有
猿渡小学校	昭和46年度	43年	RC造	有
来迎寺小学校	昭和45年度	44年	RC造	有
知立東小学校	昭和41年度	48年	RC造	有
知立西小学校	昭和49年度	40年	RC造	有
八ツ田小学校	昭和51年度	38年	RC造	有
知立南小学校	昭和54年度	35年	RC造	有

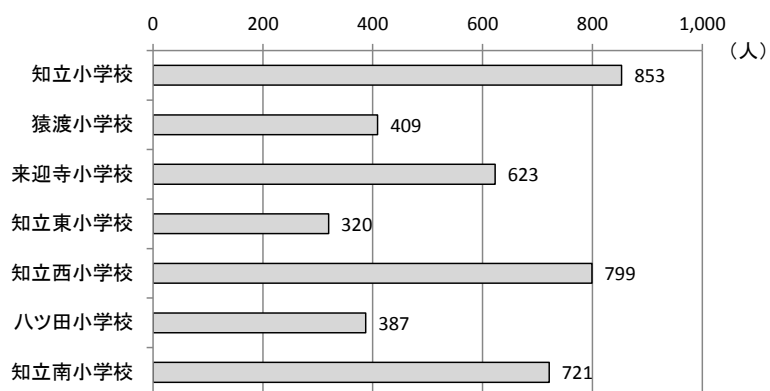
図表2-40 小学校のバリアフリーの状況

施設名	車イス対応エレベータ	障がい者用トイレ	車イス対応スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック
知立小学校	非対応	対応	一部対応	非対応	一部対応	非対応
猿渡小学校	非対応	対応	一部対応	非対応	一部対応	非対応
来迎寺小学校	非対応	対応	一部対応	非対応	一部対応	非対応
知立東小学校	非対応	対応	一部対応	非対応	一部対応	非対応
知立西小学校	非対応	対応	一部対応	非対応	一部対応	非対応
八ツ田小学校	非対応	対応	一部対応	非対応	一部対応	非対応
知立南小学校	非対応	対応	一部対応	非対応	一部対応	非対応

ウ 児童数

平成 23～25 年度の 3 か年の平均児童数は、7 校の平均が 588 人で、最も児童数が多い施設は知立小学校の 853 人、最も児童数が少ない施設は知立東小学校の 320 人となっている。また、知立東小学校と距離が近い八ツ田小学校も二番目に少ない 387 人となっている。

図表 2－4 1 小学校の児童数



エ 運営状況

小学校の施設管理業務などの委託は実施しておらず、全て直営にて実施している。

小学校の始業時間は 7 時 50 分で、児童が下校した後も屋内運動場、屋外運動場などの一般への開放を実施しているため、閉門時間は 21 時 30 分となっている。

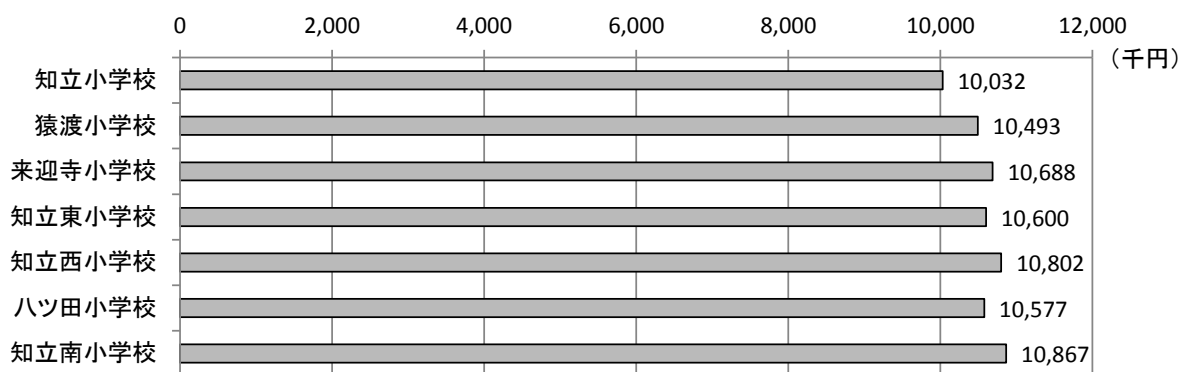
一般への学校開放の状況については、屋内運動場（体育館）、武道場は、平日の 18 時～21 時 30 分、土曜日・日曜日・祝日の 9 時～21 時 30 分、屋外運動場（グラウンド）は、平日・土曜日・祝日の 18 時 30 分～21 時 30 分、日曜日の 9 時～日没となっている。

オ コスト状況

① 施設維持コスト

1年当たりの施設維持コストは全体で7,406万円、平均は1,058万円となっており、1校当たりの維持コストは、ほぼ同程度である。

図表2-42 小学校の施設維持コスト（平成24～26年度平均）

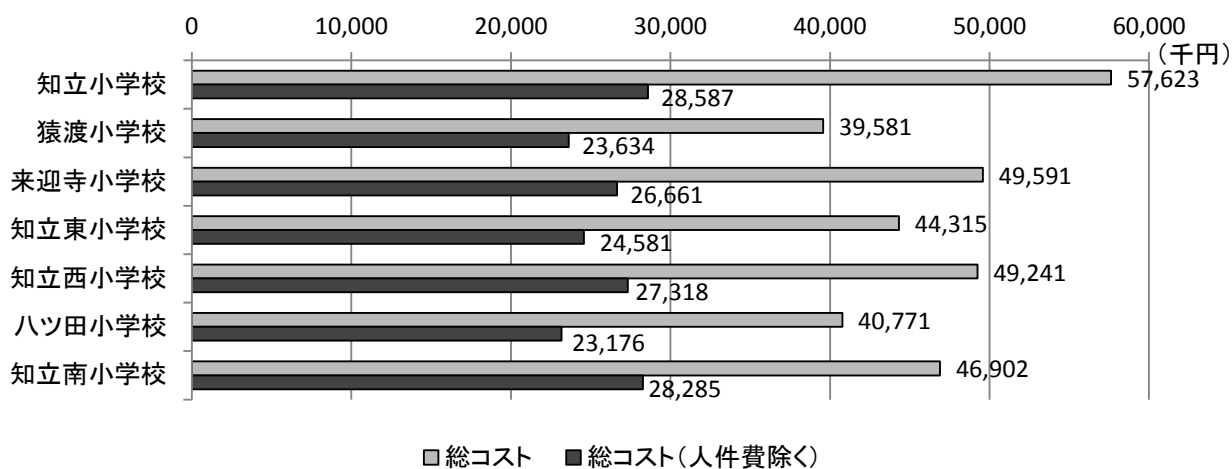


② 総コスト（施設維持コスト＋施設運営コスト）

1年当たりの総コストは全体で3.3億円、平均して1校当たり0.5億円となっている。また、コストが最も高い施設は0.6億円の知立小学校、最も低い施設は0.4億円の猿渡小学校となっている。

なお、1年当たりの人件費を除く総コストは全体で1.8億円、平均して1校当たり0.3億円となっている。また、コストが最も高い施設は2,859万円の知立小学校、最も低い施設は2,318万円の八ツ田小学校となっている。

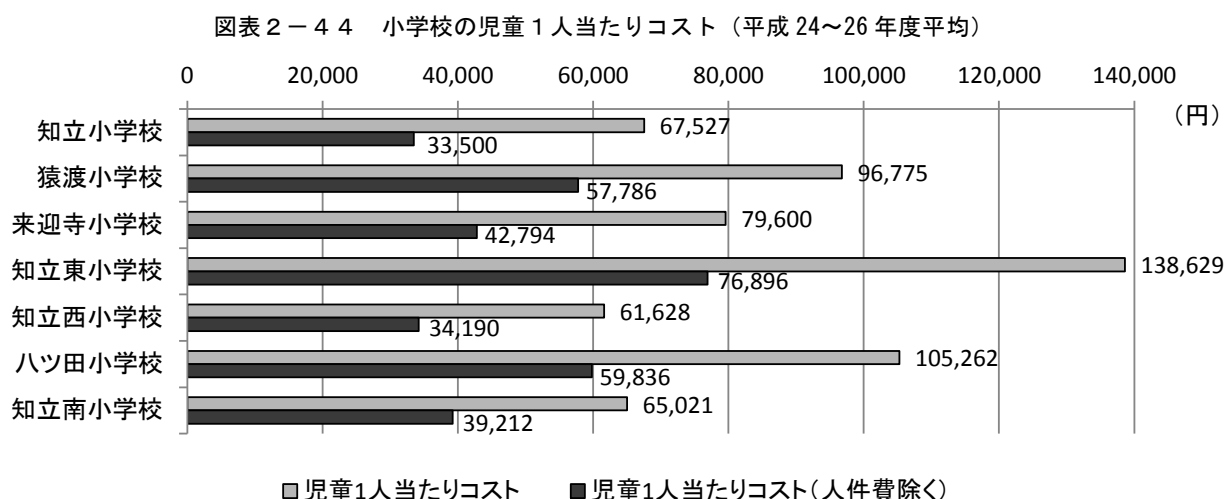
図表2-43 小学校の総コスト（平成24～26年度平均）



③ 児童 1 人当たりコスト

児童 1 人当たりのコストの平均は、8.8 万円となっている。また、コストが最も高い施設は 14 万円の知立東小学校、最も低い施設は 6.1 万円の知立西小学校となっている。

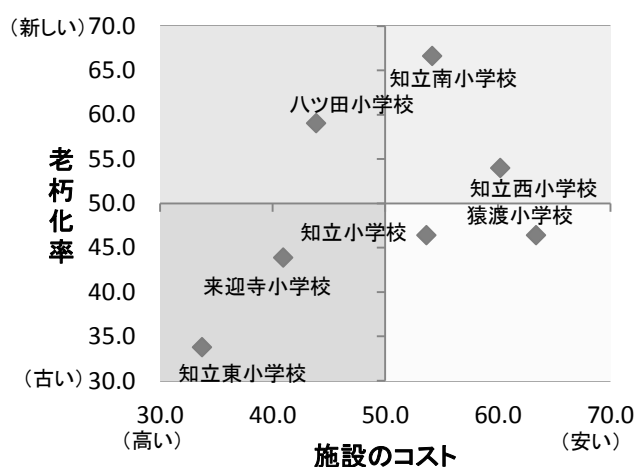
なお、児童 1 人当たりの人件費を除いたコストの平均は 4.9 万円となっている。また、コストが最も高い施設は 7.7 万円の知立東小学校、最も低い施設は 3.4 万円の知立小学校となっている。



カ 分野別の公共施設の評価

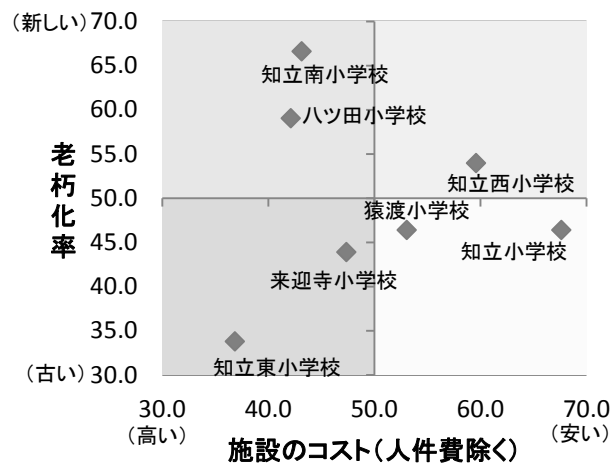
知立東小学校は、同種施設の中で比較するとコストの偏差値が低く、老朽化の偏差値も低い施設であると評価されるため、老朽化対策とコスト縮減対策が必要である。

図表 2-4-5 小学校の評価



人件費を除いた場合も、知立東小学校のコストの偏差値が同種施設の中で比較すると低く、老朽化の偏差値も低い施設であると評価される。ただし、知立小学校は人件費を含む場合よりもコストの偏差値が高く、逆に知立南小学校と猿渡小学校は偏差値が低くなっている。

図表2-46 小学校の評価（人件費除く）



(2) 中学校

ア 施設状況

中学校は市内に計3校あり、総延床面積は28,407.50㎡となっている。

図表2-47 中学校の施設状況

施設名	所在地	開設年度	延床面積	敷地面積
知立中学校	知立市広見二丁目4	昭和22年度	10,291.95㎡	27,652㎡
竜北中学校	知立市山屋敷町東山2-2	昭和52年度	8,866.23㎡	31,425㎡
知立南中学校	知立市新林町本林20-1	昭和57年度	9,249.32㎡	28,224㎡
合 計			28,407.50㎡	87,301㎡

イ 建物状況

知立中学校が最も古く、経過年数は45年となっている。最も新しい施設は知立南中学校で、経過年数は32年となっている。また、構造は全ての建物においてRC造（鉄筋コンクリート造）であり、耐震性能を有している。

バリアフリーへの対応状況として、障がい者用トイレは全ての中学校で対応済となっている。それ以外の道路から入り口までの車イス対応スロープ、手すりなどの中学校でも一部の対応はされているが、車イス対応エレベータ、自動ドア、点字ブロックは全ての中学校において非対応となっている。

図表2-48 中学校の建物状況

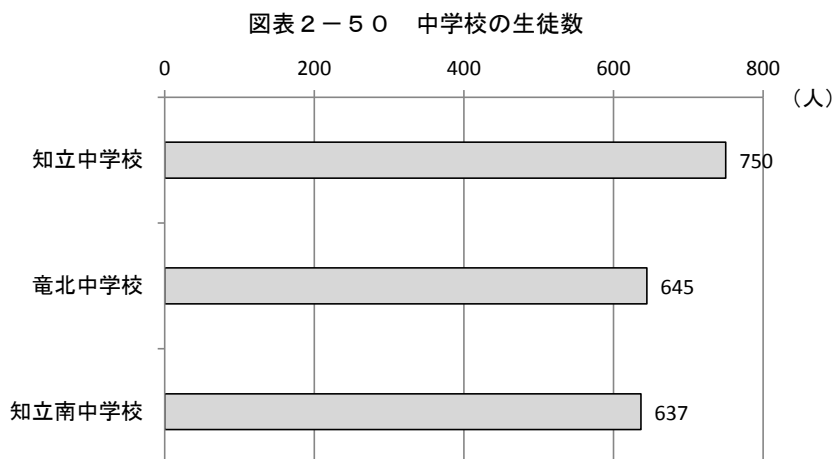
施設名	代表建築年度	経過年数	構造	耐震性
知立中学校	昭和44年度	45年	RC造	有
竜北中学校	昭和52年度	37年	RC造	有
知立南中学校	昭和57年度	32年	RC造	有

図表2-49 中学校のバリアフリーの状況

施設名	車イス対応エレベータ	障がい者用トイレ	車イス対応スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック
知立中学校	非対応	対応	一部対応	非対応	一部対応	非対応
竜北中学校	非対応	対応	一部対応	非対応	一部対応	非対応
知立南中学校	非対応	対応	一部対応	非対応	一部対応	非対応

ウ 生徒数

平成 23～25 年度の 3 か年の平均生徒数は、3 校の平均で 677 人となっている。生徒数が最も多い施設は知立中学校の 750 人、最も少ない施設は知立南中学校の 637 人となっている。



エ 運営状況

中学校の施設管理業務などの委託は実施しておらず、全て直営にて実施している。

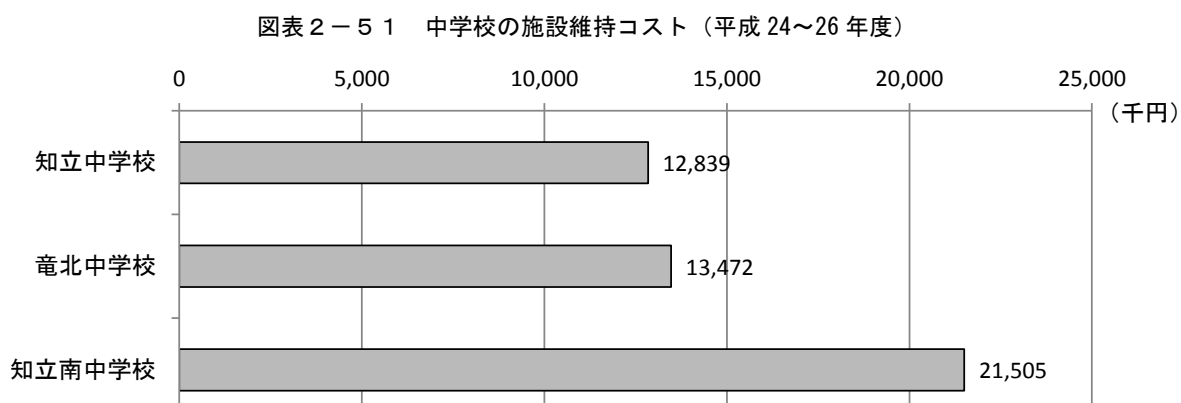
中学校の始業時間は 7 時 50 分で、生徒が下校した後も屋内運動場、屋外運動場などの一般への開放を実施しているため、閉門時間は 21 時 30 分となっている。

一般への学校開放の状況については、屋内運動場（体育館）、武道場は、平日・土曜日・祝日の 18 時 30 分～21 時 30 分、日曜日の 9 時～21 時 30 分、屋外運動場（グラウンド）は、平日・土曜日・祝日の 18 時 30 分～21 時 30 分、日曜日の 9 時～日没となっている。

オ コスト状況

① 施設維持コスト

中学校の施設維持コストは全体で 4,782 万円、平均は 1,594 万円となっている。また、施設維持コストが最も高い施設は 2,151 万円の知立南中学校、最も低い施設は 1,284 万円の知立中学校となっている。

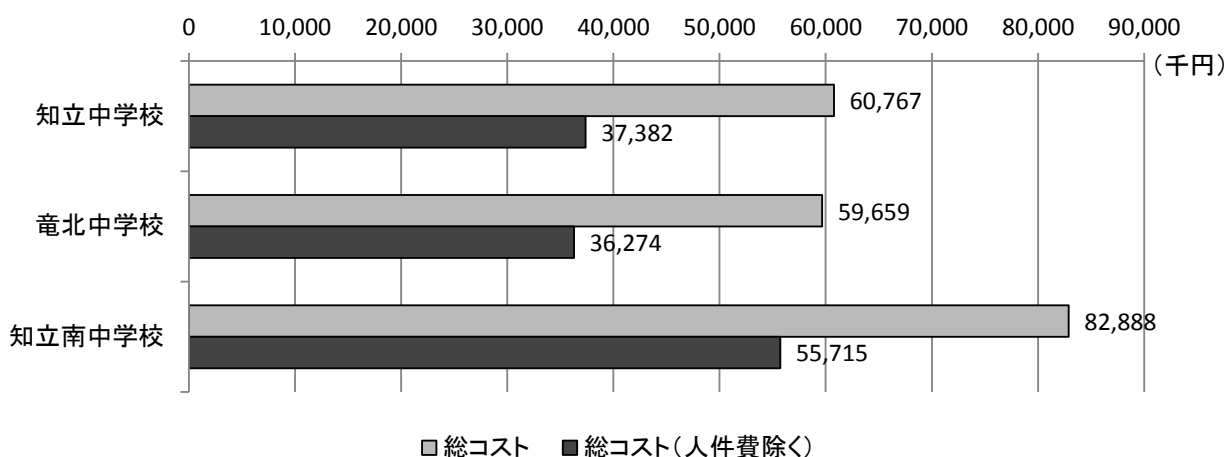


② 総コスト（施設維持コスト＋施設運営コスト）

中学校の総コストは全体で 2.0 億円、平均にして 1 校当たり 0.7 億円となっている。また、コストが最も高い施設は 8,289 万円の知立南中学校、その他 2 校は同じ規模のコストがかかっている。

なお、1 年当たりの人件費を除いた総コストは 1.3 億円、平均して 1 校当たり 0.4 億円となっている。また、コストが最も高い施設は 5,572 万円の知立南中学校、最も低い施設は 3,627 万円の竜北中学校となっている。

図表 2－5 2 中学校の総コスト（平成 24～26 年度平均）

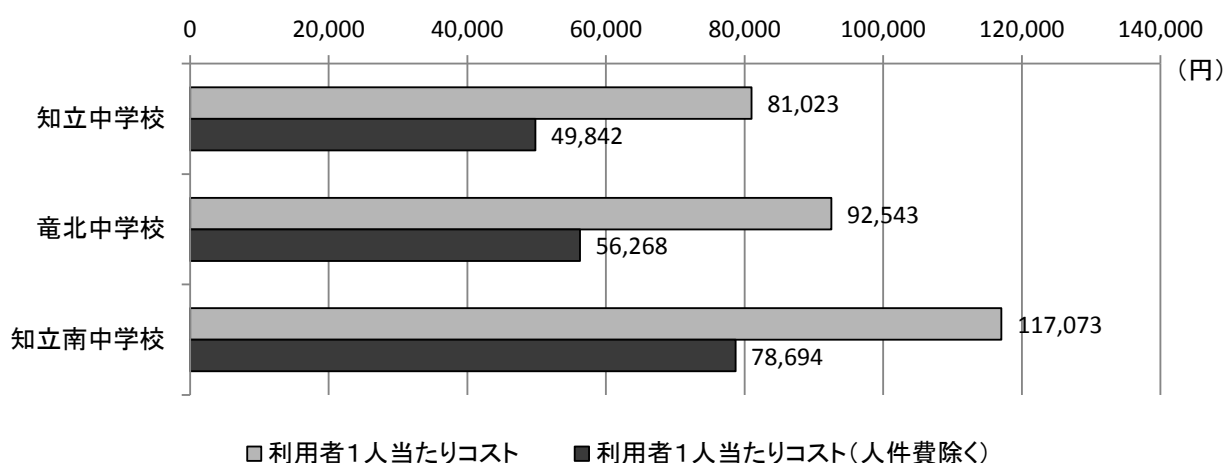


③ 生徒 1 人当たりコスト

生徒 1 人当たりのコストの平均は 9.7 万円となっている。コストが最も高い施設は 11.7 万円の知立南中学校、最も低い施設は 8.1 万円の知立中学校となっている。

なお、生徒 1 人当たりの人件費を除いたコストの平均は 6.2 万円となっている。また、コストが最も高い施設は 7.9 万円の知立南中学校、最も低い施設は 5.0 万円の知立中学校となっている。

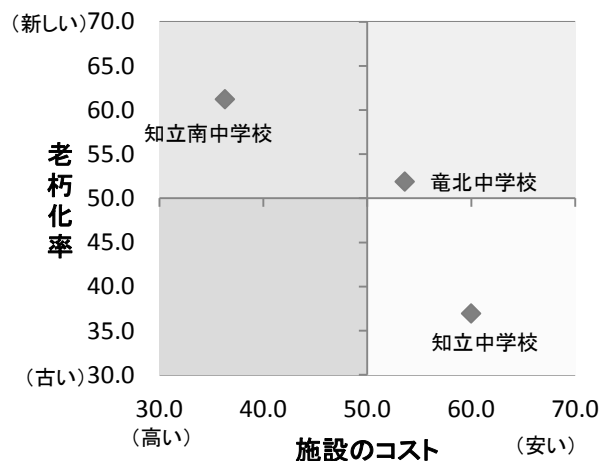
図表 2－5 3 中学校の生徒 1 人当たりコスト（平成 24～26 年度平均）



カ 分野別の公共施設の評価

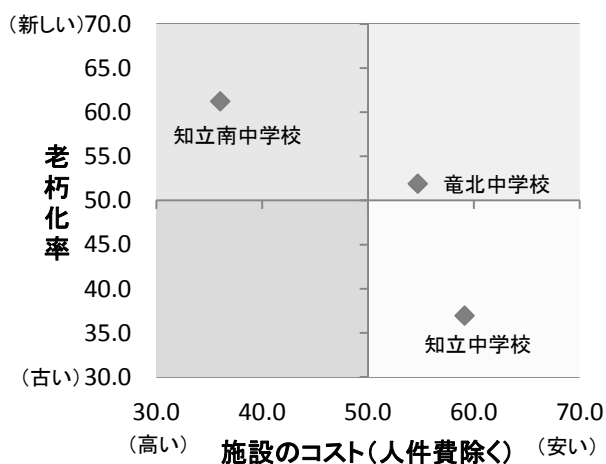
同種施設の中で比較すると老朽化率の偏差値が高い施設ほどコストの偏差値が低く、老朽化率の偏差値が低い施設ほどコストの偏差値が高い傾向にある。

図表2-54 中学校の評価



人件費を除いた場合、竜北中学校の施設のコストが安くなるが、中学校全体の評価としては、人件費を除かない場合とほぼ同様の傾向にある。

図表2-55 中学校の評価（人件費除く）



(3) 学校給食センター

学校給食センターは、市内の小・中学校計 10 校に配食している施設である。市民 1 人当たりのコストは 8,279 円/人となっている。

図表 2-56 学校給食センターの状況

施設名		学校給食センター						
従たる施設の場合、主たる施設名		-						
大分類	学校教育系施設	中分類	その他教育施設	施設番号	22			
所管部課		教育庶務課						
1 土地データ								
所在地 (小学校地区)	知立市知立市八ツ田町川畔123-1 外11 (八ツ田小学校)			敷地面積	6,131 ㎡			
				うち借地面積	- ㎡			
2 建物データ (複数棟の場合、建築年月・建築構造・階数は主な建物データによる。)								
構成施設	学校給食センター							
複合・併設施設	-			建築年度	平成20 年度			
建物構造	鉄筋コンクリート造	延床面積	3,523 ㎡	総取得費	1,244,600 千円			
階数	2 階	うち借用面積	- ㎡	避難所指定	指定無し			
3 管理運営データ								
利用状況※1	H23年度	H24年度	H25年度	平均利用者数	管理形態			
	- 人	- 人	- 人	- 人	包括委託			
ファシリティ コスト (H24～26年度) (施設コスト) ①施設維持コスト 建物を良好に保 つために要する 経費 + ②施設運営コスト 公共サービスを 提供するために 要する経費	内 訳		金額 (円)	内 訳				
	収 入	利用料等	-	支 出	人件費 (賃金含)	702,573		
		国 費	-		修繕料	1,652,897		
		県 費	-		火災保険料	198,827		
		その他	2,600		維持管理委託料	13,915,830		
		市費 (一般財源)	582,520,239		敷地借上料	-		
	合 計※2		582,522,839		工事請負費	651,000		
	施設外観				その他維持費	-		
					小 計※2	17,121,127		
					②施設運営コスト	人件費 (賃金含)	42,803,398	
					光熱水費	42,195,368		
				その他委託料	126,132,504			
				その他運営費 (事業費)	354,270,442			
				小 計※2	565,401,712			
				合 計 (①+②)	582,522,839			
コスト計算※3	利用者 1 人当たり		市民 1 人当たり		延床面積 1 ㎡当たり			
	- 円/人		8,279 円/人		165,349 円/㎡			

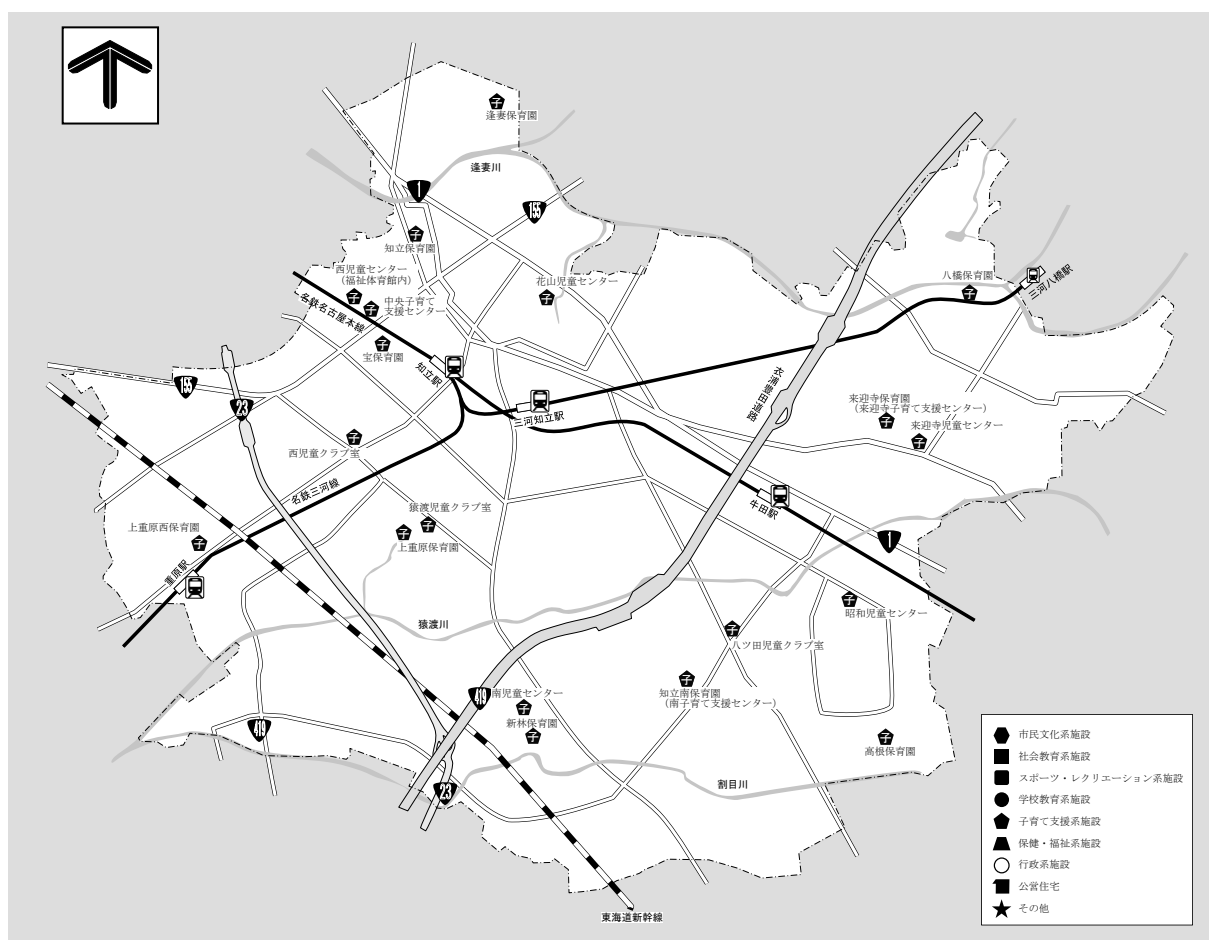
(注)※1、2、3 は図表 2-19 の注と同じ

8 子育て支援施設

子育て支援施設としては、市内には 10 か所の保育園と幼児・児童施設として 8 か所の児童センター・児童クラブ室、3 か所の子育て支援センターがある。保育園は就学前の子どもたちを預かる施設、児童センターは子どもたちに遊びの場を提供する施設、児童クラブは保護者の就労などで下校後留守家庭となる子どもを預かる施設、子育て支援センターは親子で一緒に遊ぶ施設と区分されている。

保育園は、各小学校区に 1～2 か所ずつ設置されており、知立西小・知立小・来迎寺小学校区が 2 か所ずつで、他は 1 か所ずつとなっている。児童施設についても、各小学校区に 1～2 か所ずつ設置されており、知立西小学校区のみ 2 か所で、他は 1 か所ずつとなっている。子育て支援センターは、2 か所が保育園に併設されており、市の南部に位置する南保育園と東部に位置する来迎寺保育園である。残る 1 か所の中央子育て支援センターは平成 27 年度に開設予定であり、廃園となった中央保育園の跡地を利用した単独施設である。

図表 2－57 子育て支援系施設の立地状況



(2) 保育園

ア 施設状況

保育園は計 10 か所あり、総延床面積は 10,506.97 ㎡となっている。

図表 2-58 保育園施設状況

施設名	所在地	開設年度	延床面積	敷地面積
知立保育園	知立市西町新川 3	昭和 30 年度	823.70 ㎡	1,636 ㎡
来迎寺保育園	知立市八橋町前畑 166	昭和 32 年度	1,378.09 ㎡	2,998 ㎡
上重原保育園	知立市上重原町蔵福寺 167	昭和 39 年度	1,296.34 ㎡	5,064 ㎡
知立南保育園	知立市八ツ田町神明 35	昭和 43 年度	1,777.00 ㎡	4,274 ㎡
逢妻保育園	知立市逢妻町錦 8	昭和 47 年度	741.14 ㎡	3,345 ㎡
高根保育園	知立市牛田町高根 218	昭和 48 年度	663.94 ㎡	3,137 ㎡
新林保育園	知立市新林町新林 18-5	昭和 49 年度	851.65 ㎡	2,444 ㎡
八橋保育園	知立市八橋町城下 8-1	昭和 50 年度	770.73 ㎡	8,556 ㎡
宝保育園	知立市宝二丁目 3-9 外 2	昭和 51 年度	960.36 ㎡	2,720 ㎡
上重原西保育園	知立市上重原町城後 60-4	昭和 53 年度	1,244.02 ㎡	3,776 ㎡
合 計			10,506.97 ㎡	37,950 ㎡

イ 建物状況

知立保育園が最も古く、経過年数は 44 年であり、最も新しい施設は知立南保育園で経過年数は 2 年となっている。構造は、ほとんどが R C 造（鉄筋コンクリート造）であるが、逢妻保育園、高根保育園は S 造（鉄骨造）となっており、全ての保育園において耐震性能を有している。

バリアフリーへの対応状況としては、車イス対応エレベータは知立南保育園のみ対応しており、障がい者用トイレ、道路から入り口までの車イス対応スロープ、手すり、点字ブロックは一部の保育園において対応、一部対応している。また、自動ドアは全ての保育園において非対応となっている。

図表 2-59 保育園の建物状況

施設名	代表建築年度	経過年数	構造	耐震性
知立保育園	昭和 45 年度	44 年	R C 造	有
来迎寺保育園	平成 18 年度	8 年	R C 造	有
上重原保育園	昭和 53 年度	36 年	R C 造	有
知立南保育園	平成 24 年度	2 年	R C 造	有
逢妻保育園	昭和 46 年度	43 年	S 造	有
高根保育園	昭和 47 年度	42 年	S 造	有
新林保育園	昭和 48 年度	41 年	R C 造	有
八橋保育園	昭和 49 年度	40 年	R C 造	有
宝保育園	昭和 50 年度	39 年	R C 造	有
上重原西保育園	昭和 52 年度	37 年	R C 造	有

図表2-60 保育園のバリアフリーの状況

施設名	車イス対応エレベータ	障がい者用トイレ	車イス対応スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック
知立保育園	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
来迎寺保育園	－	対応	対応	非対応	非対応	非対応
上重原保育園	非対応	一部対応	一部対応	非対応	一部対応	非対応
知立南保育園	対応	対応	対応	非対応	非対応	一部対応
逢妻保育園	－	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
高根保育園	－	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
新林保育園	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
八橋保育園	－	非対応	一部対応	非対応	一部対応	非対応
宝保育園	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
上重原西保育園	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応

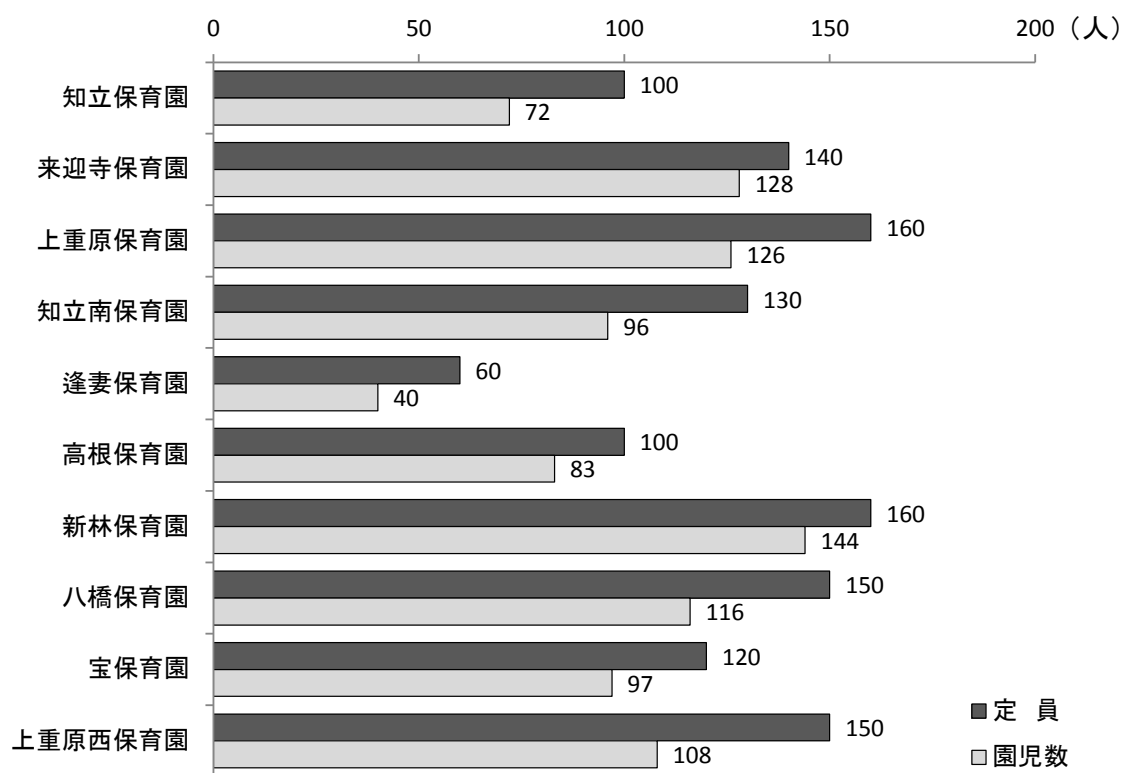
(注) 車イス対応エレベータの「－」は、平屋のため対象外を意味する。

ウ 園児数

平成23～25年度の3か年の平均園児数は、10か所の平均で101人であり、園児数が最も多い施設は新林保育園の144人、最も少ない施設は逢妻保育園の40人となっている。過去3年間の園児数を定員と比較すると、上重原西保育園は園児が7割程度であり、受入の余裕がある。

全体的に定員に余裕があるため、小規模な園や老朽化が進行した園など統廃合の余地があるといえるが、3歳未満児の保育需要が増えていることを考慮する必要がある。

図表2-61 保育園の定員数・園児数



(注) 知立南保育園の現在の定員は200人

エ 運営状況

運営方法は全ての保育園で直営、開園日数は、毎週日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）を除く294日となっている。一方で、開園時間は7時30分又は8時、閉園時間は16時～19時となっており、園によってばらつきがある。

図表 2-62 保育園の運営状況

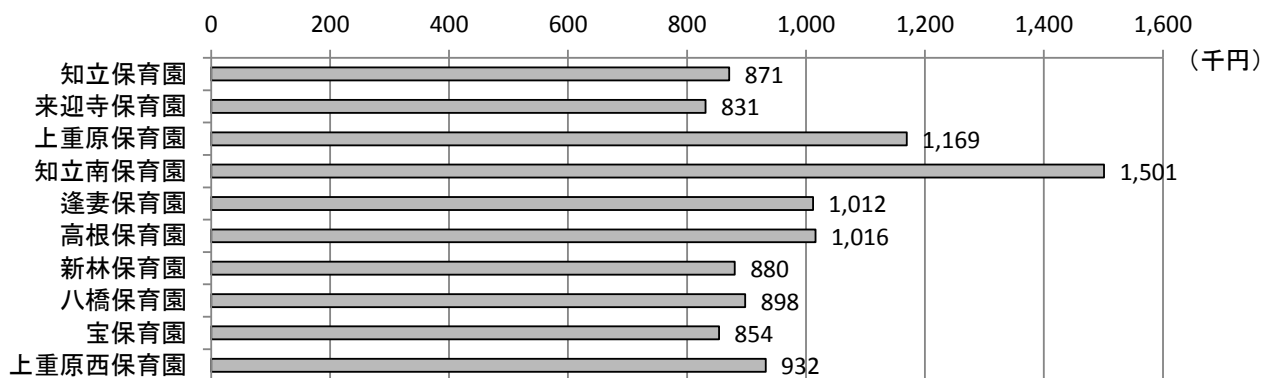
施設名	運営方法	定員	開園日数	開園時刻	閉園時刻
知立保育園	直営	100人	294日	7:30	18:00
来迎寺保育園	直営	140人	294日	7:30	19:00
上重原保育園	直営	160人	294日	7:30	18:00
知立南保育園	直営	200人	294日	7:30	19:00
逢妻保育園	直営	60人	294日	8:00	16:00
高根保育園	直営	100人	294日	7:30	18:00
新林保育園	直営	160人	294日	7:30	19:00
八橋保育園	直営	150人	294日	7:30	18:00
宝保育園	直営	120人	294日	7:30	19:00
上重原西保育園	直営	150人	294日	7:30	18:00

オ コスト状況

① 施設維持コスト

保育園全体の施設維持コストは997万円、平均は100万円となっている。また、施設維持コストが最も高い施設は150万円の知立南保育園、最も低い施設は83万円の来迎寺保育園となっている。

図表 2-63 保育園の施設維持コスト（平成24～26年度平均）

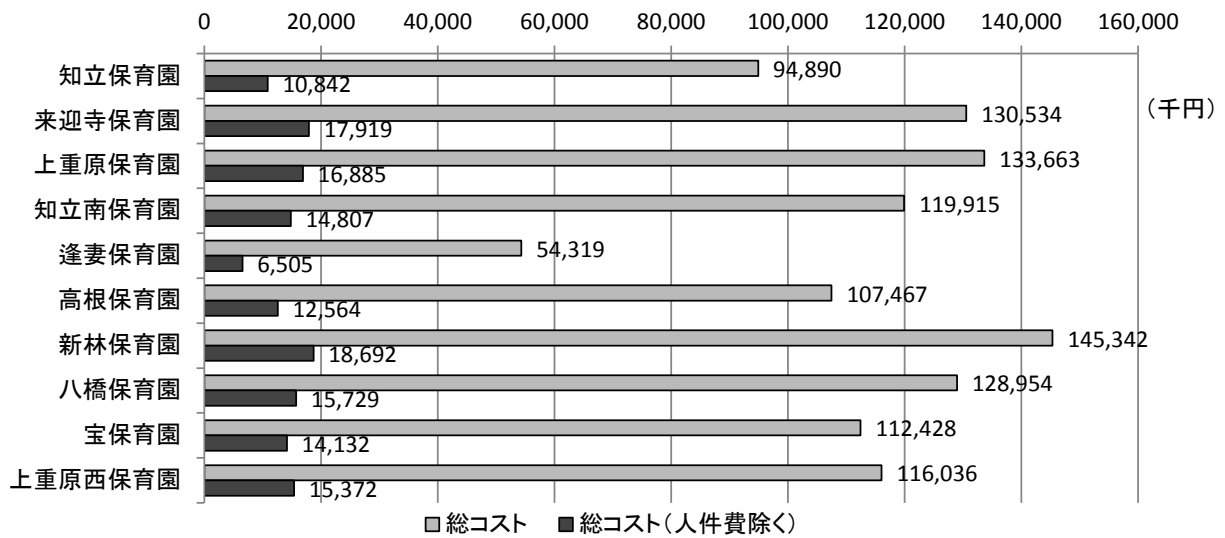


② 総コスト（施設維持コスト＋施設運営コスト）

保育園全体の総コストは11.4億円、平均にして1か所当たり1.1億円となっている。また、コストが最も高い施設は1.5億円の知立南保育園、最も低い施設は0.5億円の逢妻保育園となっている。

なお、1年当たりの人件費を除いた総コストは1.4億円、平均して1か所当たり0.1億円となっている。コストが最も高い施設は1,869万円の知立南保育園、最も低い施設は651万円の逢妻保育園となっている。

図表2-64 保育園の総コスト（平成24～26年度平均）



① 園児1人当たりコスト

園児1人当たりのコストの平均は、116万円であり、コストが最も高い施設は逢妻保育園の135万円、最も低い施設は新林保育園の101万円となっている。

なお、園児1人当たりの人件費を除いたコストの平均は14万円であり、全体的におおむね同程度であると言える。

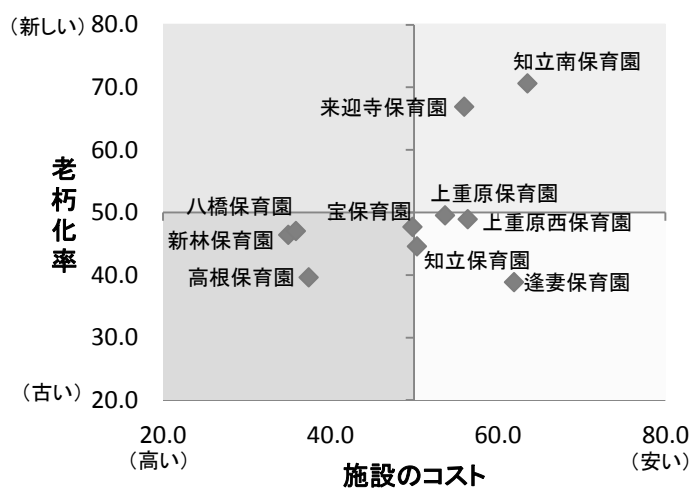
図表2-65 園児1人当たりコスト（平成24～26年度平均）



カ 分野別の公共施設の評価

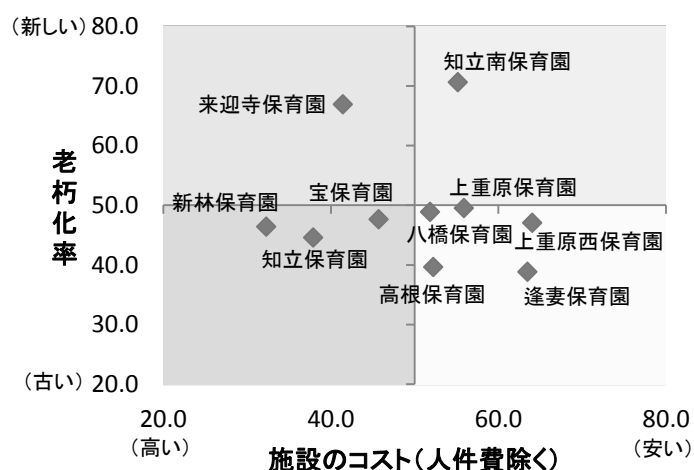
高根保育園、新林保育園、八橋保育園は、同種施設の中で比較するとコストの偏差値が低く、老朽化の偏差値が低い施設であると評価されるため、老朽化対策とコスト縮減対策が必要である。

図表 2－6 6 保育園の評価



人件費を除いた場合、新林保育園、知立保育園のコストの偏差値が低く、老朽化の偏差値も低い施設であると評価されるため、コスト縮減対策が必要である。

図表 2－6 7 保育園の評価（人件費除く）



(3) 児童センター・児童クラブ室

ア 施設状況

児童センター・児童クラブ室は計8か所あり、総延床面積は2,997.14㎡となっている。

図表2-68 児童センター・児童クラブ室の施設状況

施設名	所在地	開設年度	延床面積
来迎寺児童センター	知立市来迎寺町外山5	平成18年度	433.28㎡
昭和児童センター	知立市昭和7丁目1	昭和55年度	507.12㎡
西児童センター	知立市西町草刈10-5	昭和56年度	432.72㎡
花山児童センター	知立市中山町東狭間35	平成7年度	495.33㎡
南児童センター	知立市新林町新林18-6	平成13年度	551.05㎡
八ツ田児童クラブ室	知立市八ツ田町川畔62	平成14年度	148.04㎡
猿渡児童クラブ室	知立市上重原町蔵福寺168	平成15年度	192.82㎡
西児童クラブ室	知立市鳥居一丁目13-2	平成17年度	236.78㎡
合 計			2,997.14㎡

イ 建物状況

昭和児童センターが最も古く、経過年数は35年となっている。最も新しい施設は来迎寺児童センターで、経過年数は8年となっている。

また、構造は来迎寺児童センター、八ツ田児童クラブ室、猿渡児童クラブ室及び西児童クラブ室は、S造（鉄骨造）、南児童センターはRC+S造（鉄筋コンクリート造+鉄骨造）、その他の施設においてはRC造（鉄筋コンクリート造）となっており、全ての施設において耐震性能を有している。

バリアフリーへの対応状況は、児童センターにおいては、施設によってまちまちの状況であるが、車いす対応エレベータは、2階建ての昭和児童センターと花山児童センターで非対応となっている。また、児童クラブ室においては、共通して障がい者用トイレ、道路から入り口までの車イス対応スロープの整備は全ての施設で対応しており、自動ドア、点字ブロックについては非対応となっている。手すりについては、八ツ田児童クラブ室を除き、対応している。

図表2-69 児童センターの建物状況

施設名	代表建築年度	経過年数	構造	耐震性
来迎寺児童センター	平成18年度	8年	S造	有
昭和児童センター	昭和54年度	35年	RC造	有
西児童センター	昭和56年度	33年	RC造	有
花山児童センター	平成6年度	20年	RC造	有
南児童センター	平成12年度	14年	RC造+S造	有
八ツ田児童クラブ室	平成13年度	13年	S造	有
猿渡児童クラブ室	平成14年度	12年	S造	有
西児童クラブ室	平成16年度	10年	S造	有

図表 2-70 児童センターの建物状況

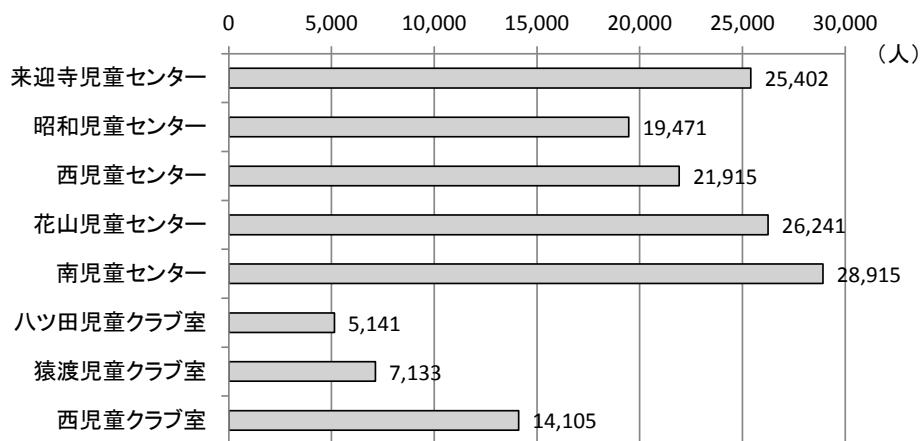
施設名	車イス対応 エレベータ	障がい者用 トイレ	車イス対応 スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック
来迎寺児童センター	-	対 応	-	対 応	非対応	非対応
昭和児童センター	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
西児童センター	-	非対応	対応	非対応	非対応	対応
花山児童センター	非対応	対 応	対応	非対応	対応	非対応
南児童センター	-	対 応	-	対応	非対応	非対応
八ツ田児童クラブ室	-	対 応	対 応	非対応	非対応	非対応
猿渡児童クラブ室	-	対 応	対 応	非対応	対応	非対応
西児童クラブ室	-	対 応	対 応	非対応	対応	非対応

(注) 車イス対応エレベータの「-」は、平屋のため対象外を意味する。

ウ 利用者数

平成 23～25 年度の 3 か年の平均利用者数は、8 か所の平均が 18,540 人で、最も利用者数が多い施設は南児童センターの 28,915 人、最も利用者数が少ない施設は八ツ田児童クラブ室の 5,141 人となっている。

図表 2-71 児童センター・児童クラブ室の利用者



エ 運営状況

運営状況として、運営方法は直営、年間運営日数は 294 日となっており、運営時間は児童センターが 10 時～18 時、児童クラブ室が 7 時 30 分～18 時 30 分となっている。

図表 2-72 児童センターの運営状況

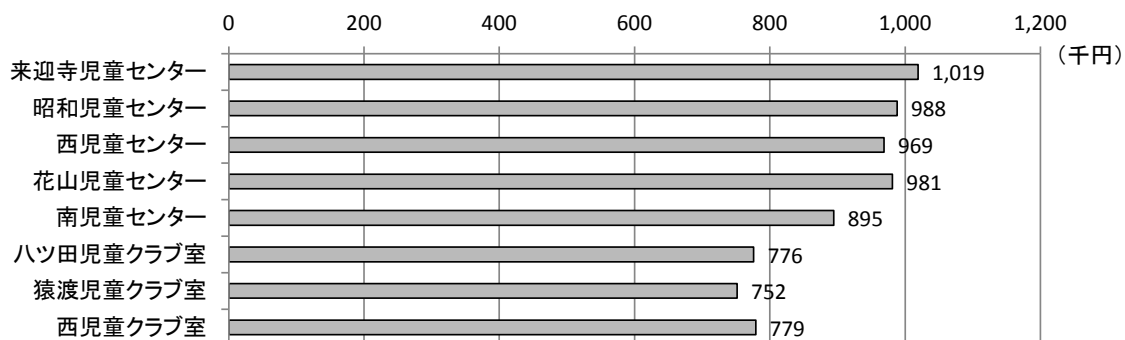
施設名	運営方法	年間運営日数	開所時刻	閉所時刻
来迎寺児童センター	直営	294	10:00	18:00
昭和児童センター	直営	294	10:00	18:00
南児童センター	直営	294	10:00	18:00
花山児童センター	直営	294	10:00	18:00
西児童センター	直営	294	10:00	18:00
八ツ田児童クラブ室	直営	294	7:30	18:30
猿渡児童クラブ室	直営	294	7:30	18:30
西児童クラブ室	直営	294	7:30	18:30

オ コスト状況

① 施設維持コスト

1年当たりの施設維持コストは全体で716万円、平均は90万円となっている。また、施設維持コストが最も高い施設は102万円の来迎寺児童センター、最も低い施設は75万円の猿渡児童クラブ室となっている。

図表2-73 児童センターの施設維持コスト（平成24～26年度平均）

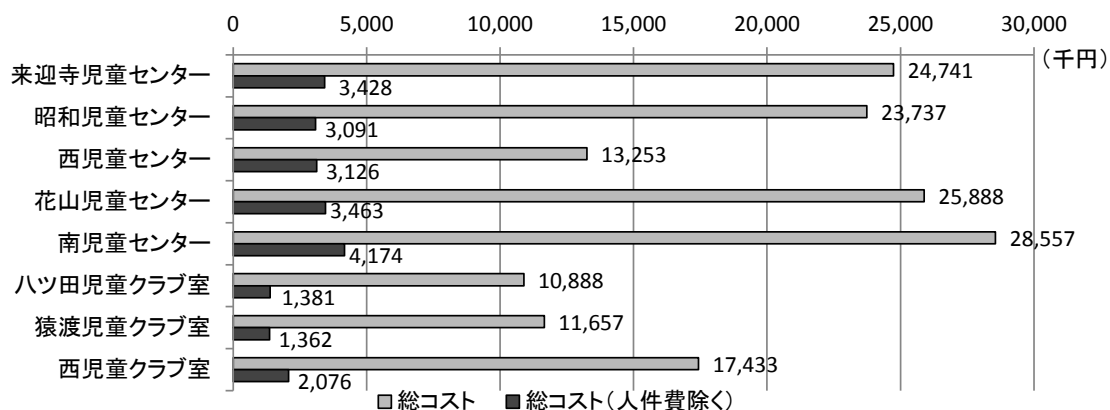


② 総コスト（施設維持コスト＋施設運営コスト）

1年当たりの総コストは全体で1.6億円、平均して1か所当たり0.2億円となっている。また、コストが最も高い施設は2,856万円の南児童センター、最も低い施設は1,089万円の八ツ田児童クラブ室となっている。

なお、1年当たりの人件費を除く総コストは全体で2,210万円、平均して1か所当たり276万円となっている。また、コストが最も高い施設は417万円の南児童センター、最も低い施設は136万円の猿渡児童クラブ室となっている。

図表2-74 児童センターの総コスト（平成24～26年度平均）

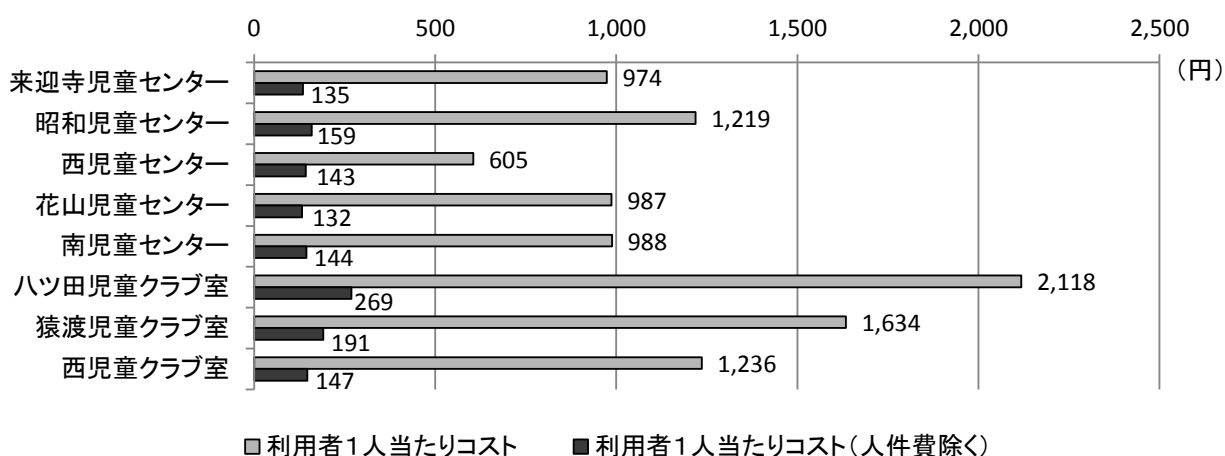


③ 利用者1人当たりコスト

利用者1人当たりのコストの平均は、1,220円となっている。また、コストが最も高い施設は2,118円のハツ田児童クラブ室、最も低い施設は605円の西児童センターとなっている。

なお、利用者1人当たりの人件費を除いたコストの平均は、165円となっている。また、コストが最も高い施設は269円のハツ田児童クラブ室、最も低い施設は132円の花山児童センターとなっている。

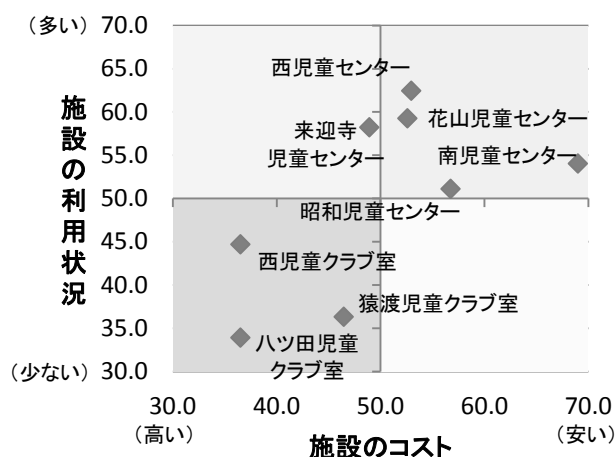
図表2-75 児童センターの1人当たりコスト（平成24～26年度平均）



カ 分野別の公共施設の評価

同種施設の中で比較すると、傾向として児童クラブ室3か所はコストの偏差値が低く、利用状況の偏差値が低い施設、児童センター5か所は、コストの偏差値が高く、利用状況の偏差値が高い施設であると評価されるため、それぞれの状況に合った対策が必要となる。

図表2-76 児童センターの評価



(4) 子育て支援センター

3つの子育て支援センターのうち、中央子育て支援センターは開設前であるため、利用者、運営状況、コスト状況の3つの分析では除外した。

ア 施設状況

子育て支援センターは計3か所あり、総延床面積は1,456.30㎡となっている。子育て支援センターは、中央子育て支援センター、来迎寺子育て支援センター、南子育て支援センターの3施設が存在する。

図表2-77 子育て支援センターの施設状況

施設名	所在地	開設年度	延床面積
中央子育て支援センター	知立市東栄一丁目45	平成27年度	1,188.47㎡
来迎寺子育て支援センター	知立市八橋町前畑166	平成19年度	81.53㎡
南子育て支援センター	知立市八ツ田町神明35	平成25年度	186.30㎡
合 計			1,456.30㎡

イ 建物状況

来迎寺子育て支援センターは経過年数7年、南子育て支援センターは経過年数1年といずれも新しい施設となっている。また、構造は、全ての建物においてRC造（鉄筋コンクリート造）であり、全ての施設において耐震性能を有している。

バリアフリーへの対応状況は、中央子育て支援センターは、全ての項目において対応している。自動ドア、手すり、点字ブロックは中央子育て支援センターを除き非対応である。

図表2-78 子育て支援センターの建物状況

施設名	代表建築年度	経過年数	構造	耐震性
中央子育て支援センター	平成26年度	0年	RC造	有
来迎寺子育て支援センター	平成19年度	7年	RC造	有
南子育て支援センター	平成25年度	1年	RC造	有

図表2-79 子育て支援センターのバリアフリーの状況

施設名	車イス対応エレベータ	障がい者用トイレ	車イス対応スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック
中央子育て支援センター	対 応	対 応	対 応	対 応	対 応	対 応
来迎寺子育て支援センター	-	対 応	対 応	非対応	非対応	非対応
南子育て支援センター	対 応	対 応	対 応	非対応	非対応	非対応

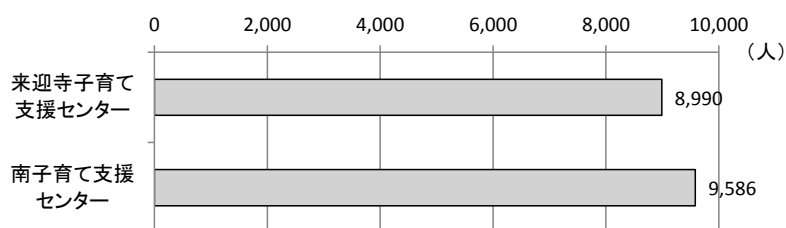
(注) 車イス対応エレベータの「-」は、平屋のため対象外を意味する。

ウ 利用者数

現在、利用者のいる2つのセンター（来迎寺子育て支援センター、南子育て支援センター）の状況についてみる。

来迎寺子育て支援センターの平成23～25年度の3か年の平均利用者数は8,990人である。南子育て支援センターは平成25年度から開設され、利用者数は9,586人となっている。

図表2-80 子育て支援センターの利用者数



エ 運営状況

運営状況は全て統一されており、運営方法は直営、年間運営日数294日、運営時間は9時から17時となっている。

図表2-81 子育て支援センターの運営状況

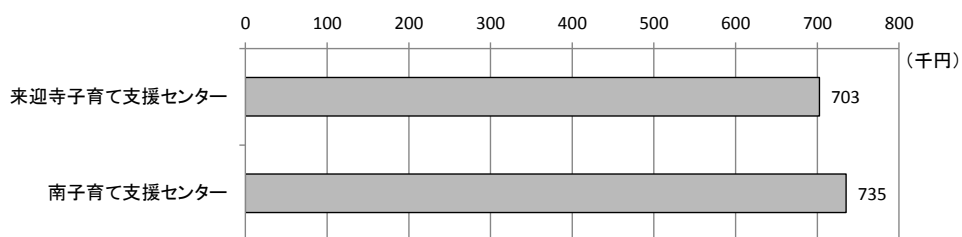
施設名	運営方法	年間運営日数	開所時刻	閉所時刻
来迎寺子育て支援センター	直営	294	9:00	17:00
南子育て支援センター	直営	294	9:00	17:00

オ コスト状況

① 施設維持コスト

1年当たりの施設維持コストは全体で144万円、平均は72万円となっている。施設維持コストは、それぞれ来迎寺子育て支援センターが70万円、南子育て支援センターが74万円となっており、ほぼ同程度である。

図表2-82 子育て支援センターの施設維持コスト（平成24～26年度平均）

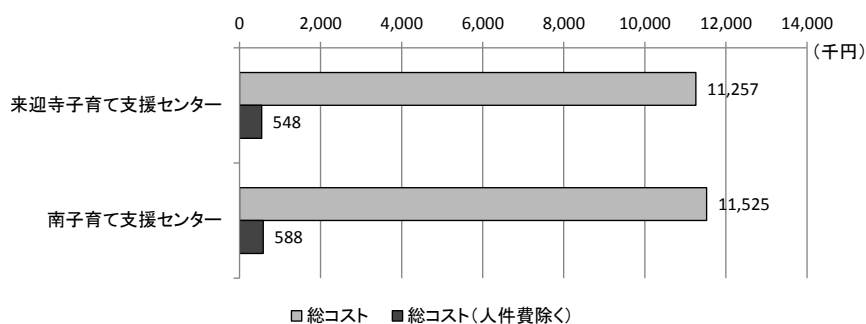


② 総コスト（施設維持コスト＋施設運営コスト）

1年当たりの総コストは全体で2,278万円、平均して1か所当たり1,139万円となっている。コストは、それぞれ来迎寺子育て支援センターが1,126万円、南子育て支援センターは1,153万円となっており、ほぼ同程度である。

なお、1年当たりの人件費を除く総コストは全体で114万円、平均して1か所当たり57万円となっている。また、コストはそれぞれ、来迎寺子育て支援センターが55万円、南子育て支援センターが59万円となっており、ほぼ同程度である。

図表2-83 子育て支援センターの総コスト（平成24～26年度平均）

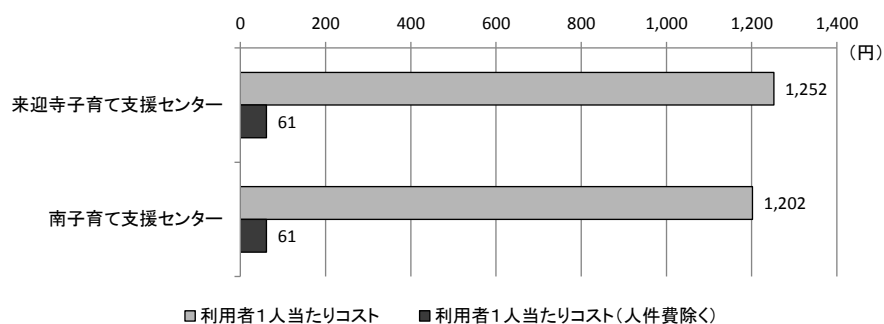


③ 利用者1人当たりコスト

利用者1人当たりのコストの平均は、1,227円となっている。コストはそれぞれ来迎寺子育て支援センターが1,252円、南子育て支援センターが1,202円となっている。

なお、利用者1人当たりの人件費を除いたコストは、どちらも61円となっている。

図表2-84 子育て支援センターの1人当たりコスト（平成24～26年度平均）



【来迎寺子育て支援センター】

来迎寺子育て支援センターは、年間9千人程度の利用があり、利用者1人当たりのコストは1,252円/人となっている。複合施設として来迎寺保育園内に設置されている。

図表2-85 来迎寺子育て支援センターの状況

施 設 名		来迎寺子育て支援センター					
従たる施設の場合、主たる施設名		来迎寺保育園 (24)					
大分類	子育て支援施設		中分類	幼児・児童施設	施設番号	42	
所管部課		子ども課					
1 土地データ							
所 在 地 (小学校地区)	知立市八橋町前畑166 (来迎寺小学校)			敷 地 面 積	m ²		
				うち借地面積	- m ²		
2 建物データ (複数棟の場合、建築年月・建築構造・階数は主な建物データによる。)							
構 成 施 設	来迎寺子育て支援センター						
複 合 ・ 併 設 施 設	来迎寺保育園 (62)			建 築 年 度	平成19 年度		
建 物 構 造	鉄筋コンクリート造	延 床 面 積	82 m ²	総 取 得 費	16,288 千円		
階 数	1 階	うち借用面積	- m ²	避 難 所 指 定	指定無し		
3 管理運営データ							
利用状況※1	H23年度	H24年度	H25年度	平均利用者数	管理形態		
	9,366 人	8,838 人	8,766 人	8,990 人	直営		
ファシリティ コスト (H24～26年度) (施設コスト) ①施設維持コスト 建物を良好に保 つために要する 経費 ＋ ②施設運営コスト 公共サービスを 提供するために 要する経費	内 訳		金額 (円)	内 訳		金額 (円)	
	収 入	利用料等	-	支 出	①施設維持コスト	人件費 (賃金含)	702,573
		国 費	-		修繕料	-	
		県 費	-		火災保険料	-	
		その他	-		維持管理委託料	-	
		市費 (一般財源)	11,256,874		敷地借上料	-	
	合 計※2		11,256,874		工事請負費	-	
	施設外観				その他維持費	-	
			小 計※2		702,573		
			②施設運営コスト		人件費 (賃金含)	10,006,627	
			光熱水費		-		
			その他委託料	28,333			
			その他運営費 (事業費)	519,341			
小 計※2		10,554,301	合 計 (①＋②)		11,256,874		
コスト計算※3	利用者1人当たり		市民1人当たり		延床面積1㎡当たり		
	1,252 円/人		160 円/人		137,279 円/㎡		

(注)※1、2、3は図表2-19の注と同じ

【南子育て支援センター】

南子育て支援センターは、平成25年度に開設され、年間1万人程度の利用があり、利用者1人当たりのコストは1,202円/人となっている。複合施設として南保育園内に設置されている。

図表2-86 南子育て支援センターの状況

施設名		南子育て支援センター					
従たる施設の場合、主たる施設名		知立南保育園（26）					
大分類	子育て支援施設	中分類	幼児・児童施設	施設番号	43		
所管部課		子ども課					
1 土地データ							
所在地 （小学校地区）	知立市ハツ田町神明35 （ハツ田小学校）			敷地面積	㎡		
				うち借地面積	- ㎡		
2 建物データ（複数棟の場合、建築年月・建築構造・階数は主な建物データによる。）							
構成施設	南子育て支援センター						
複合・併設施設	南保育園（63）			建築年度	平成25 年度		
建物構造	鉄筋コンクリート造	延床面積	186 ㎡	総取得費	42,308 千円		
階数	2 階	うち借用面積	- ㎡	避難所指定	指定無し		
3 管理運営データ							
利用状況※1	H23年度	H24年度	H25年度	平均利用者数	管理形態		
	- 人	- 人	9,586 人	9,586 人	直営		
ファシリティ コスト （H24～26年度） （施設コスト） ①施設維持コスト 建物を良好に保つために要する経費 + ②施設運営コスト 公共サービスを 提供するために 要する経費	内 訳		金額（円）	内 訳			
	収 入	利用料等	-	支 出	① 施設維持コスト	人件費（賃金含）	702,573
		国 費	-		修繕料	32,665	
		県 費	-		火災保険料	-	
		その他	-		維持管理委託料	-	
		市費（一般財源）	11,524,940		敷地借上料	-	
	合 計※2		11,524,940		工事請負費	-	
	施設外観				その他維持費	-	
					小 計※2	735,238	
					② 施設運営コスト	人件費（賃金含）	10,234,371
					光熱水費	-	
					その他委託料	42,000	
					その他運営費（事業費）	513,331	
					小 計※2	10,789,702	
			合 計（①+②）		11,524,940		
コスト計算※3	利用者1人当たり		市民1人当たり		延床面積1㎡当たり		
	1,202 円/人		164 円/人		61,962 円/㎡		

(注)※1、2、3は図表2-19の注と同じ

保健・福祉施設として、3か所の高齢福祉施設、2か所の障がい福祉施設、2か所の保健施設、1か所のその他社会福祉施設がある。このうち、高齢者、障がい者の福祉施設は2か所で隣接して設置されている。1つは市の北部に位置する福祉体育館に併設されている、老人福祉センターと身体障害者福祉センターである。2つ目は市の南部にあるいきがいセンターと地域福祉センターであり、同一敷地内に立地している。残る1か所の高齢者福祉施設は知立団地内に位置する、昭和老人憩いの家である。保健施設は、市の北部に大規模保健施設として保健センターと小規模保護作業所として「かたれあワークス」が複合施設として設置されている。また、その他社会福祉施設である西丘文化センターは、知立小学校区の北部に整備されている。

(1) 小規模福祉施設

ア 施設状況

小規模福祉施設は計5か所あり、総延床面積は2,811.08㎡となっている。

昭和老人憩いの家は（所在地：昭和6丁目）は、60歳以上の人を対象に、レクリエーションや趣味活動として利用されている。

老人福祉センター（所在地：西町草刈）は、福祉体育館内にあり、娛樂室 集会室、浴室、訓練室、健康相談室、会議室から構成されており、高齢者の相談など、福祉の増進を図るための施設となっている。

身体障害者福祉センター（所在地：西町草刈）は、福祉体育館内にあり、訓練室、作業室、集会室、図書室から構成されており、相談や創作的活動など身体障がい者の福祉の増進を図るための施設となっている。

いきがいセンター（所在地：八ツ田町泉）は、高齢者いきがいセンターと障がい者ふれあいセンターの複合施設で、高齢者の方々の就業などや障がい者のふれあいの場として、講座室・会議室・作業室・和室などから構成されている。

西丘文化センター（所在地：西丘町西丘）は、近隣地域における住民の生活の改善及び向上を図るための各種の事業を行う施設として、昭和57年に開館し、面積は230㎡、構造は鉄筋コンクリート造2階建となっている。1階は生活改善室、相談室、2階は会議室、教養娛樂室で構成されており、貸室利用や様々な講座を開催している。

図表2-88 小規模福祉施設の施設状況

施設名	所在地	開設年度	延床面積
昭和老人憩いの家	知立市昭和六丁目1	昭和48年度	105.30㎡
老人福祉センター	知立市西町草刈10-5	昭和56年度	965.96㎡
身体障害者福祉センター	知立市西町草刈10-5	昭和56年度	512.34㎡
いきがいセンター	知立市八ツ田町泉43-1	平成22年度	997.00㎡
西丘文化センター	知立市西丘町西丘32-1 外9	昭和57年度	230.48㎡
合 計			2,811.08㎡

イ 建物状況

昭和老人憩いの家が最も古く、経過年数は41年となっている。最も新しい施設は、いきがいセンターで、経過年数は4年となっている。

また、構造は、西丘文化センターはRC造（鉄筋コンクリート造）、老人福祉センター、身体障害者福祉センターはRC+S造（鉄筋コンクリート造+鉄骨造）、昭和老人憩いの家、いきがいセンターはS造（鉄骨造）となっており、全ての施設において耐震性能を有している。

バリアフリーへの対応状況は、昭和老人憩いの家は全ての項目に非対応、老人福祉センターは道路から入口までの車いす対応スロープと点字ブロックに対応、身体障害者福祉センターといきがいセンターは、全ての項目で対応、西丘文化センターは障がい者用トイレに一部対応し、道路から入口までの車イス対応スロープ、自動ドアに対応している。

図表 2-89 小規模福祉施設の建物状況

施設名	代表建築年度	経過年数	構造	耐震性
昭和老人憩いの家	昭和 48 年度	41 年	S造	有
老人福祉センター	昭和 56 年度	33 年	R C造+S造	有
身体障害者福祉センター	昭和 56 年度	33 年	R C造+S造	有
いきがいセンター	平成 22 年度	4 年	S造	有
西丘文化センター	昭和 57 年度	32 年	R C造	有

図表 2-90 小規模福祉施設のバリアフリーの状況

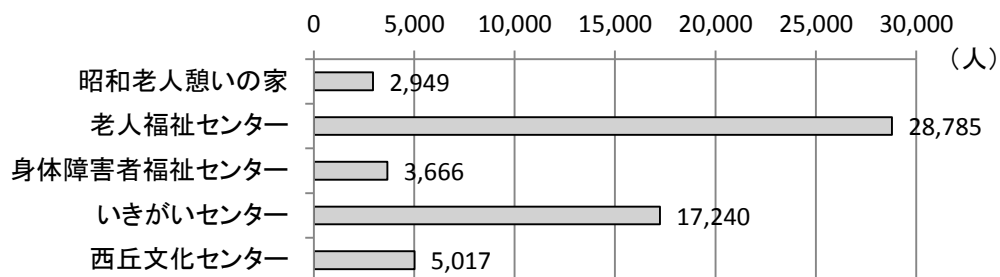
施設名	車イス対応エレベータ	障がい者用トイレ	車イス対応スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック
昭和老人憩いの家	—	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
老人福祉センター	—	非対応	対応	非対応	非対応	対応
身体障害者福祉センター	—	対応	対応	対応	対応	対応
いきがいセンター	対応	対応	対応	対応	対応	対応
西丘文化センター	非対応	一部対応	対応	対応	非対応	非対応

(注) 車イス対応エレベータの「—」は、平屋のため対象外を意味する。

ウ 利用者数

平成 23～25 年度の 3 か年の平均利用者数は、5 か所の平均が 11,531 人で、最も利用者数が多い施設は老人福祉センターの 28,785 人、最も利用者数が少ない施設は昭和老人憩いの家の 2,949 人となっている。

図表 2-91 小規模福祉施設の利用者数



エ 運営状況

運営状況は、運営方法は直営又は指定管理、年間運営日数は各々で異なっており、運営時間も西丘文化センターは 9 時から 21 時、他の 4 施設は 9 時から 17 時となっている。

図表 2-92 小規模福祉施設の運営状況

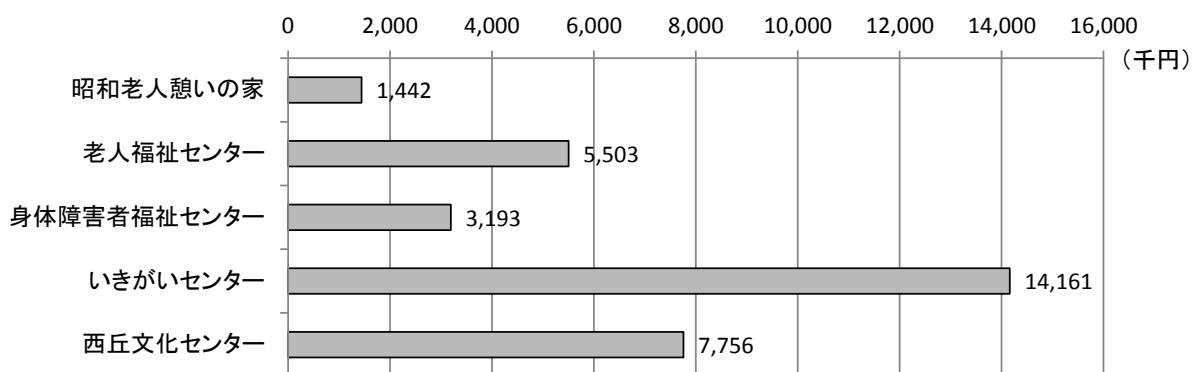
施設名	運営方法	年間運営日数	開所時刻	閉所時刻
昭和老人憩いの家	直営	304 日	9:00	17:00
老人福祉センター	直営	307 日	9:00	17:00
身体障害者福祉センター	直営	307 日	9:00	17:00
いきがいセンター	指定管理	295 日	9:00	17:00
西丘文化センター	直営	287 日	9:00	21:00

オ コスト状況

① 施設維持コスト

1年当たりの施設維持コストは全体で3,206万円、平均は641万円となっている。また、施設維持コストが最も高い施設は1,416万円のいきがいセンター、最も低い施設は144万円の昭和老人憩いの家となっている。

図表2-93 小規模福祉施設の施設維持コスト（平成24～26年度平均）

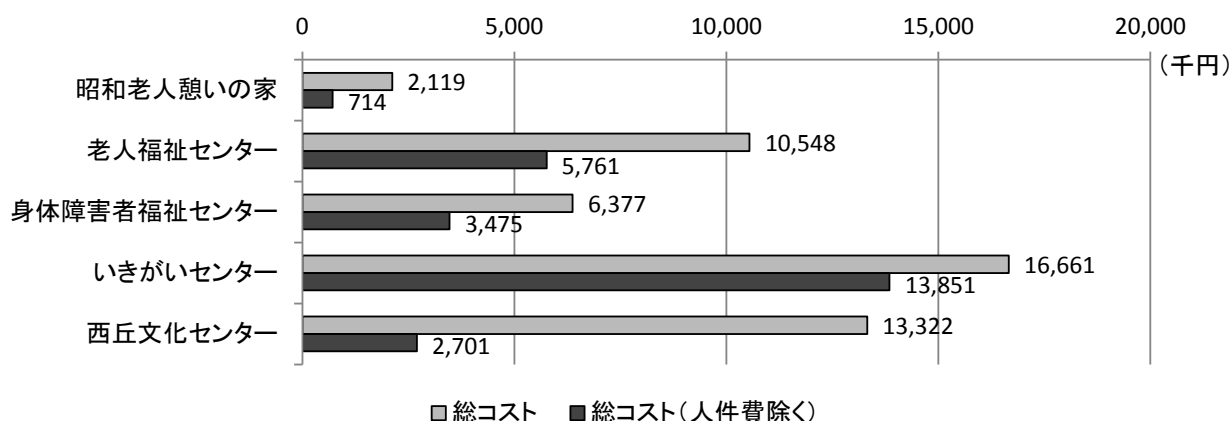


② 総コスト（施設維持コスト＋施設運営コスト）

1年当たりの総コストは全体で4,903万円、平均して1か所当たり981万円となっている。また、コストが最も高い施設は1,666万円のいきがいセンター、最も低い施設は212万円の昭和老人憩いの家となっている。

なお、1年当たりの人件費を除く総コストは全体で2,650万円、平均して1施設当たり530万円となっている。また、コストが最も高い施設は1,385万円のいきがいセンター、最も低い施設は71万円の昭和老人憩いの家となっている。

図表2-94 小規模福祉施設の総コスト（平成24～26年度平均）

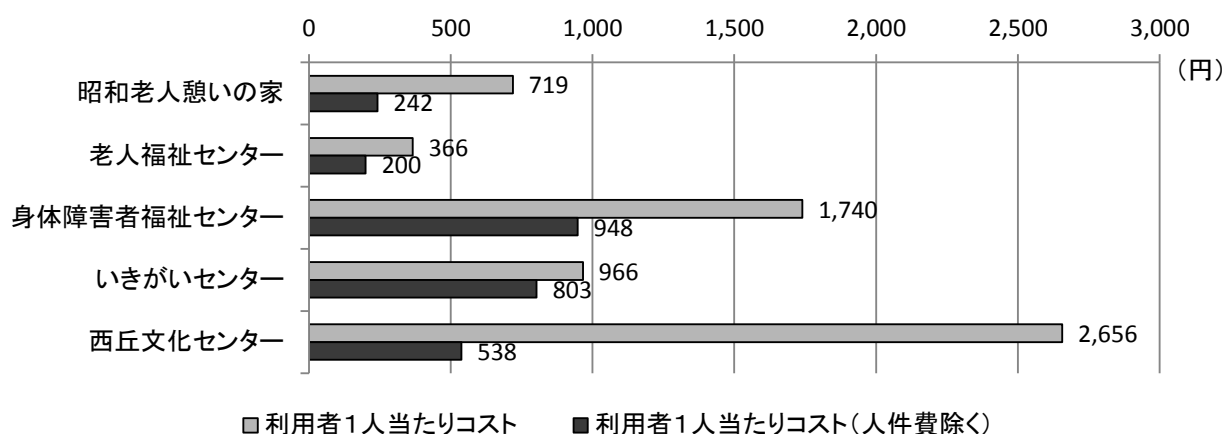


③ 利用者1人当たりコスト

利用者1人当たりのコストの平均は、1,289円となっている。また、コストが最も高い施設は2,656円の西丘文化センター、最も低い施設は366円の老人福祉センターとなっている。

なお、利用者1人当たりの人件費を除いたコストの平均は、546円となっている。また、コストが最も高い施設は948円の身体障害者福祉センター、最も低い施設は200円の老人福祉センターとなっている。

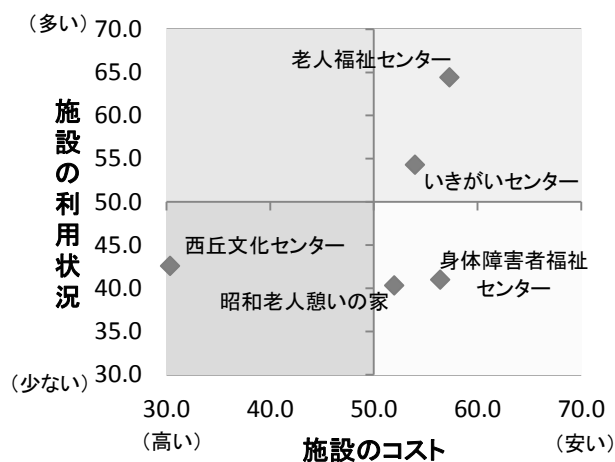
図表2-95 小規模福祉施設の1人当たりコスト（平成24～26年度平均）



カ 分野別の公共施設の評価

西丘文化センターは、同種施設の中で比較するとコストの偏差値が低く、利用状況の偏差値も低い施設であると評価されるため、コスト削減対策や利用率向上のための利用促進策が必要である。

図表2-96 小規模福祉施設の評価



(2) 大規模福祉施設（地域福祉センター）

地域福祉センター（所在地：ハツ田町泉）は、応接室、会議室、訓練室、健康相談室、作業室、和室、集会室、調理実習室から構成されており、高齢者などの活動する場所を提供している。

地域福祉センターは、年間5万人程度の利用があり、利用者1人当たりのコストは802円/人となっている。管理形態として、指定管理者制度を取り入れている。

図表2-97 地域福祉センターの状況

施設名		地域福祉センター					
従たる施設の場合、主たる施設名		-					
大分類	保健・福祉施設		中分類	障害福祉施設	施設番号	48	
所管部課		長寿介護課					
1 土地データ							
所在地 (小学校地区)	知立市ハツ田町泉43 (ハツ田小学校)			敷地面積	6,152 ㎡		
				うち借地面積	- ㎡		
2 建物データ (複数棟の場合、建築年月・建築構造・階数は主な建物データによる。)							
構成施設	地域福祉センター、作業棟						
複合・併設施設	-			建築年度	平成5 年度		
建物構造	鉄筋コンクリート造	延床面積	2,909 ㎡	総取得費	996,751 千円		
階数	3 階	うち借用面積	- ㎡	避難所指定	指定避難所		
3 管理運営データ							
利用状況※1	H23年度 48,298 人	H24年度 48,469 人	H25年度 47,903 人	平均利用者数 48,223 人	管理形態 指定管理(管理料)		
ファシリティコスト (H24～26年度) (施設コスト) ①施設維持コスト 建物を良好に保つために要する経費 + ②施設運営コスト 公共サービスを提供するために要する経費	内 訳		金額 (円)	内 訳		金額 (円)	
	収 入	利用料等	-	支 出	人件費 (賃金含)	2,810,292	
		国 費	-		修繕料	1,642,533	
		県 費	-		火災保険料	32,551	
		その他	333		維持管理委託料	13,178,193	
		市費 (一般財源)	38,689,904		敷地借上料	-	
	合 計※2		38,690,237		工事請負費	3,426,725	
	施設外観				その他維持費	-	
					小 計※2	21,090,294	
					②施設運営コスト	人件費 (賃金含)	702,573
						光熱水費	6,136,565
				その他委託料		-	
				その他運営費 (事業費)		10,760,805	
	合 計 (①+②)			17,599,943	38,690,237		
	コスト計算※3	利用者1人当たり		市民1人当たり		延床面積1㎡当たり	
		802 円/人		550 円/人		13,300 円/㎡	

(注)※1、2、3は図表2-19の注と同じ

(3) 大規模保健施設（保健センター）

保健センター（所在地：桜木町桜木）は昭和 58 年度に開館し、建物の延床面積は 2,274 m²、鉄筋コンクリート造、地上 2 階地下 1 階建てである。

保健センターは、乳幼児、未就学児、成人、高齢者を対象とし、市民の健康の保持及び増進を図るための保健施設である。建物内には複合施設としてかとれあワークスが設置されている。市民 1 人当たりのコストは 2,113 円/人となっている。

図表 2－98 保健センターの状況

施 設 名		保健センター				
従たる施設の場合、主たる施設名		-				
大分類	保健・福祉施設	中分類	保健施設	施設番号	49	
所管部課		健康増進課				
1 土地データ						
所 在 地 (小学校地区)	知立市桜木町桜木11-2 (知立小学校)			敷 地 面 積	3,406 ㎡	
				うち借地面積	- ㎡	
2 建物データ（複数棟の場合、建築年月・建築構造・階数は主な建物データによる。）						
構 成 施 設	保健センター					
複 合 ・ 併 設 施 設	かとれあワークス(51)			建 築 年 度	昭和58 年度	
建 物 構 造	鉄筋コンクリート造	延 床 面 積	2,274 ㎡	総 取 得 費	383,500 千円	
階 数	2(1) 階	うち借用面積	- ㎡	避 難 所 指 定	指定無し	
3 管理運営データ						
利用状況※1	H23年度	H24年度	H25年度	平均利用者数	管理形態	
	- 人	- 人	- 人	- 人	直営	
施設外観  ①施設維持コスト 建物を良好に保つために要する経費 ＋ ②施設運営コスト 公共サービスを提供するために要する経費	内 訳		金額（円）	内 訳	金額（円）	
	収 入	利用料等	-	支 出	人件費（賃金含）	7,025,729
		国 費	-		修繕料	761,228
		県 費	-		火災保険料	-
		その他	-		維持管理委託料	9,364,198
		市費（一般財源）	148,680,846		敷地借上料	-
	合 計※2		148,680,846		工事請負費	10,853,567
	施設外観		その他維持費		-	
			小 計※2		28,004,722	
			② 施設運営コスト		人件費（賃金含）	114,753,574
					光熱水費	2,324,590
					その他委託料	-
					その他運営費（事業費）	3,597,960
			小 計※2		120,676,124	
			合 計（①＋②）		148,680,846	
コスト計算※3	利用者 1 人当たり		市民 1 人当たり		延床面積 1 ㎡当たり	
	- 円/人		2,113 円/人		65,383 円/㎡	

(注)※1、2、3 は図表 2-19 の注と同じ

(4) 小規模保護作業所（かとれあワークス）

かとれあワークス（所在地：桜木町桜木）は、精神障がい者の日中の通所施設として、保健センターの建物内に複合施設としてあり、平成13年度に開館し、延床面積は269㎡、鉄筋コンクリート造となっている。

かとれあワークスは、年間2千人程度の利用があり、利用者1人当たりのコストは6,845円/人となっている。市民1人当たりのコストは170円/人となっている。

図表2-99 小規模保護作業所（かとれあワークス）の状況

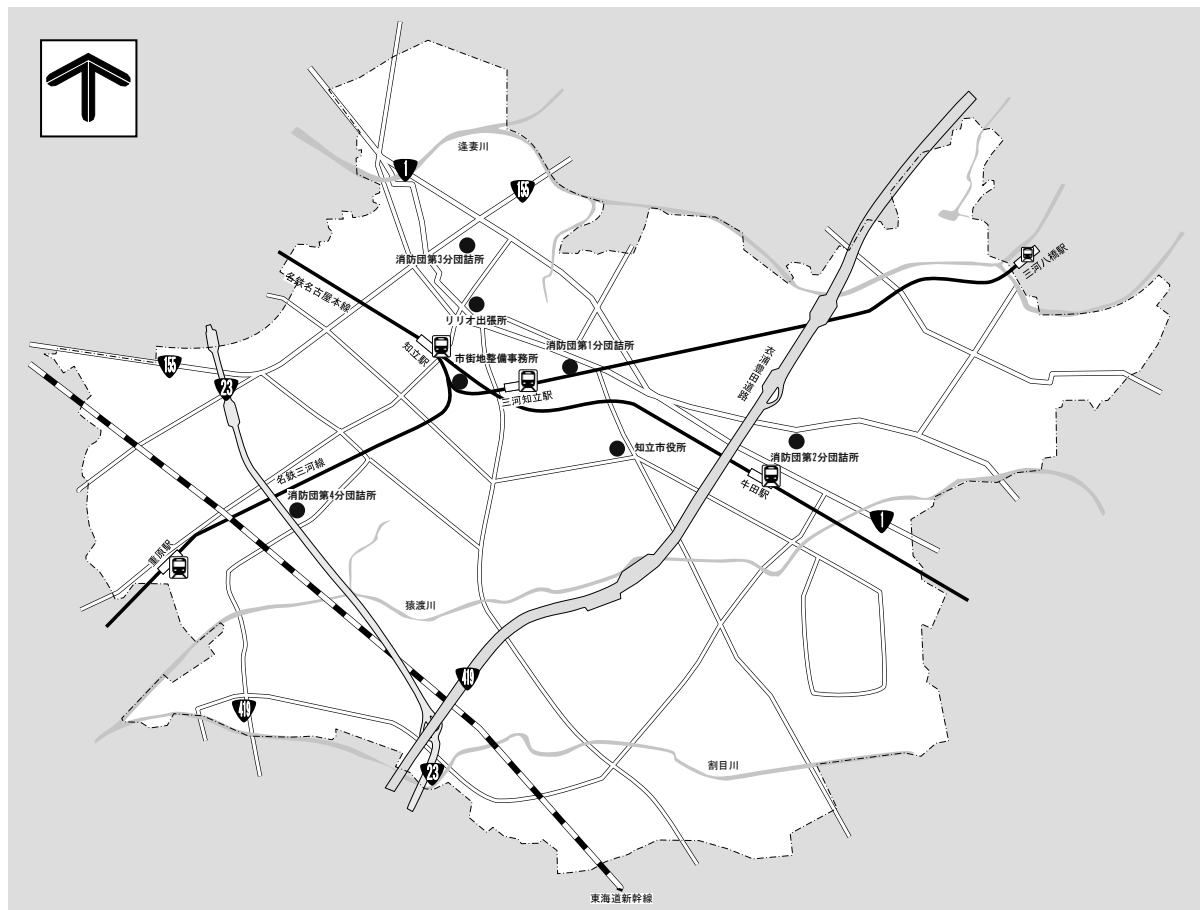
施設名		かとれあワークス						
従たる施設の場合、主たる施設名		保健センター（49）						
大分類	保健・福祉施設		中分類	保健施設	施設番号	50		
所管部課		福祉課						
1 土地データ								
所在地 (小学校地区)	知立市桜木町桜木11-2 (知立小学校)			敷地面積	㎡			
				うち借地面積	- ㎡			
2 建物データ（複数棟の場合、建築年月・建築構造・階数は主な建物データによる。）								
構成施設	かとれあワークス							
複合・併設施設	保健センター(50)			建築年度	平成13 年度			
建物構造	鉄筋コンクリート造	延床面積	269 ㎡	総取得費	- 千円			
階数	1(－) 階	うち借用面積	- ㎡	避難所指定	指定無し			
3 管理運営データ								
利用状況※1	H23年度		H24年度		H25年度	平均利用者数	管理形態	
	1,678 人		1,592 人		1,983 人	1,751 人	指定管理(管理料)	
ファシリティ コスト (H24～26年度) (施設コスト) ①施設維持コスト 建物を良好に保つために要する経費 ＋ ②施設運営コスト 公共サービスを 提供するために 要する経費	内 訳		金額（円）		内 収		金額（円）	
	収 入	利用料等			-	支 出	人件費（賃金含）	702,573
		国 費			-		修繕料	-
		県 費			-		火災保険料	-
		その他			-		維持管理委託料	-
		市費（一般財源）	11,985,660		-		敷地借上料	-
	合 計※2		11,985,660		工事請負費		-	
	施設外観				その他維持費		-	
					小 計※2		702,573	
					②施設運営コスト		人件費（賃金含）	9,124,604
							光熱水費	345,863
							その他委託料	-
							その他運営費（事業費）	1,812,620
							小 計※2	11,283,087
					合 計（①＋②）		11,985,660	
	コスト計算※3	利用者1人当たり		市民1人当たり			延床面積1㎡当たり	
6,845 円/人		170 円/人		44,556 円/㎡				

(注)※1、2、3は図表2-19の注と同じ

10 行政系施設

行政系施設として、市役所の他に知立駅近くの市街地整備事務所とリリオ出張所の2つの庁舎等がある。その他、消防施設として消防団の分団詰所が第1～4までの4か所あり、第1は市の中心部、第2は東部、第3は北部、第4は西部に位置している。

図表2-100 行政系施設の立地状況



(1) 庁舎等

庁舎等は、現在、知立市役所のほかに市街地整備事務所、リリオ出張所の3つの施設が整備されている。このうち、リリオ出張所及び市街地整備事務所は借用施設に設けられた施設であるため、施設状況、建物状況以外の分析（利用者数、運営状況、コスト状況）対象から除外した。

ア 施設状況

庁舎、事務所・出張所（以下、庁舎等という。）は計3か所あり、総延床面積は9,231.15㎡となっている。

図表2-101 庁舎等の施設状況

施設名	所在地	開設年度	延床面積	敷地面積
知立市役所	知立市広見三丁目1	昭和53年度	8,871.00㎡	11,008㎡
市街地整備事務所	知立市堀切一丁目10番地	平成17年度	351.02㎡	126㎡
リリオ出張所	知立市中町中132	平成11年度	9.13㎡	9㎡
合計			9,231.15㎡	11,143㎡

イ 建物状況

知立市役所の経過年数は36年となっている。市街地整備事務所、リリオ出張所は、借用施設内に存在するため、代表建築年度は不明とした。

構造は、全ての施設においてRC造（鉄筋コンクリート造）であり、耐震性能を有している。

バリアフリーへの対応状況は、知立市役所は全ての項目において対応している。市街地整備事務所は手すりのみ一部対応、リリオ出張所においては車イス対応エレベータ、道路から入り口までの車イス対応スロープ、自動ドアについて対応している。

図表2-102 庁舎等の建物状況

施設名	代表建築年度	経過年数	構造	耐震性
知立市役所	昭和53年度	36年	RC造	有
市街地整備事務所	-	-	RC造	有
リリオ出張所	-	-	RC造	有

図表2-103 庁舎等の建物状況

施設名	車イス対応エレベータ	障がい者用トイレ	車イス対応スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック
知立市役所	対応	対応	対応	対応	対応	対応
市街地整備事務所	非対応	非対応	非対応	非対応	一部対応	非対応
リリオ出張所	対応	非対応	対応	対応	非対応	非対応

【知立市役所】

知立市役所（所在地：広見三丁目）は昭和 53 年度に開館し、建物の延床面積は 8,871 m²、鉄筋コンクリート造地上 6 階、地下 1 階建てで、事務室、会議室、議場、食堂、倉庫で構成されている。

知立市役所の市民 1 人当たりのコストは 2,120 円/人、延床面積 1 m²当たりのコストは 16,815 円/m²となっている。

図表 2-104 知立市役所の状況

施 設 名		知立市役所					
従たる施設の場合、主たる施設名		-					
大分類	行政系施設	中分類	庁舎等	施設番号	52		
所管部課		総務課					
1 土地データ							
所 在 地 (小学校地区)	知立市広見三丁目1 (猿渡小学校)			敷 地 面 積	11,008 ㎡		
				うち借地面積	- ㎡		
2 建物データ（複数棟の場合、建築年月・建築構造・階数は主な建物データによる。）							
構 成 施 設		庁舎、現業棟、新現業棟、バス車庫、自転車置場、喫煙室					
複 合 ・ 併 設 施 設		-		建 築 年 度	昭和53 年度		
建 物 構 造	鉄筋コンクリート造	延 床 面 積	8,871 ㎡	総 取 得 費	1,122,311 千円		
階 数	6(1) 階	うち借用面積	- ㎡	避 難 所 指 定	指定無し		
3 管理運営データ							
利用状況※1	H23年度	H24年度	H25年度	平均利用者数	管理形態		
	- 人	- 人	- 人	- 人	包括委託		
ファシリティ コスト (H24～26年度) (施設コスト) ①施設維持コスト 建物を良好に保 つために要する 経費 + ②施設運営コスト 公共サービスに 要するために 要する経費	内 訳		金額 (円)	内 訳			
	収 入	利用料等	-	① 施設維持 コスト 支 出	人件費（賃金含）	6,607,856	
		国 費	11,960,034		修繕料	2,748,092	
		県 費	-		火災保険料	102,867	
		その他	4,961,040		維持管理委託料	14,930,654	
		市費（一般財源）	132,242,207		敷地借上料	-	
	合 計※2		149,163,281		工事請負費	17,192,298	
	施設外観				その他維持費	-	
	小 計※2				41,581,767		
				② 施設 運営 コスト	人件費（賃金含）	33,702,408	
					光熱水費	23,254,440	
					その他委託料	26,694,396	
					その他運営費（事業費）	23,930,270	
				小 計※2		107,581,514	
				合 計 (①+②)		149,163,281	
コスト計算※3	利用者 1 人当たり		市民 1 人当たり		延床面積 1 ㎡当たり		
	- 円/人		2,120 円/人		16,815 円/㎡		

(注)※1、2、3 は図表 2-19 の注と同じ

(2) 消防施設

ア 施設状況

消防施設は計4か所あり、総延床面積は365.49㎡となっている。

図表2-105 消防施設の施設状況

施設名	所在地	開設年度	延床面積	敷地面積
消防団第1分団詰所	知立市山町北引馬野3-1外1	平成17年度	93.60㎡	269㎡
消防団第2分団詰所	知立市牛田町西屋敷93-1	昭和56年度	88.29㎡	244㎡
消防団第3分団詰所	知立市桜木町桜木139-4	平成3年度	88.56㎡	79㎡
消防団第4分団詰所	知立市東上重原三丁目74	昭和57年度	95.04㎡	157㎡
合 計			365.49㎡	749㎡

イ 建物状況

消防団第2分団詰所が最も古く、経過年数は33年となっている。最も新しい施設は消防団第1分団詰所で、経過年数は9年となっている。

また、構造は、全ての施設においてS造（鉄骨造）であり、耐震性能を有している。

バリアフリーへの対応状況は、全ての施設の全ての項目が非対応となっている。

図表2-106 消防施設の建物状況

施設名	代表建築年度	経過年数	構造	耐震性
消防団第1分団詰所	平成17年度	9年	S造	有
消防団第2分団詰所	昭和56年度	33年	S造	有
消防団第3分団詰所	平成3年度	23年	S造	有
消防団第4分団詰所	昭和57年度	32年	S造	有

図表2-107 消防施設のバリアフリーの状況

施設名	車イス対応エレベータ	障がい者用トイレ	車イス対応スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック
消防団第1分団詰所	—	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
消防団第2分団詰所	—	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
消防団第3分団詰所	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
消防団第4分団詰所	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応

(注) 車イス対応エレベータの「—」は、平屋のため対象外を意味する。

ウ 運営状況

運営方法は直営で、各分団詰所の年間運営日数100日程度となっている。

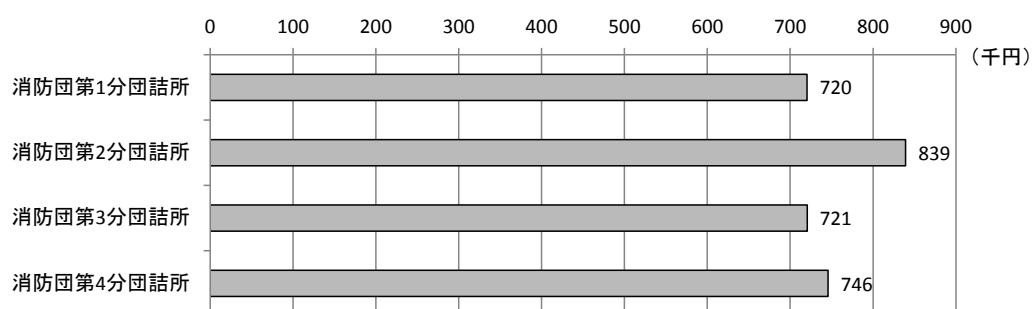
運営日数の内訳については、ポンプ点検が月2回程度（年20回）、イベント・式典（出初式、年末警戒、春季警戒パトロール、入退団式、水防訓練、防災訓練、観閲式など）が年20回程度、観閲式訓練が年10日程度、操法訓練が年50日程度となっている。

エ コスト状況

① 施設維持コスト

1年当たりの施設維持コストは、全体で303万円、平均すると76万円である。最も高い施設は84万円の第2分団詰所、最も低い施設は72万円の第1分団詰所と第3分団詰所が同程度である。

図表2-108 消防施設の施設維持コスト（平成24～26年度平均）

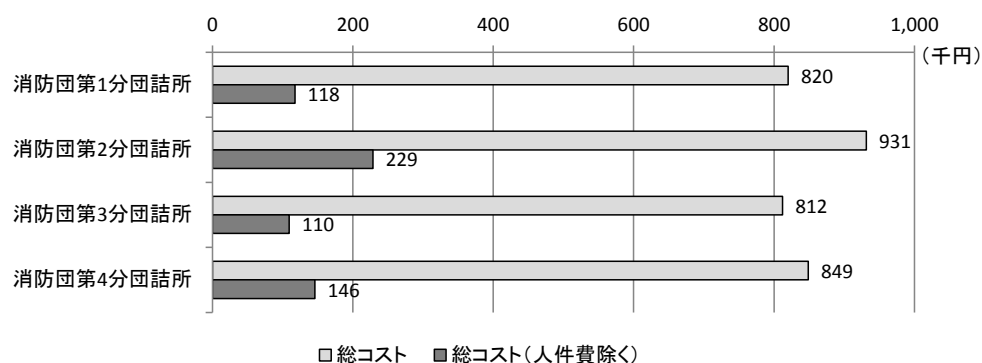


② 総コスト（施設維持コスト＋施設運営コスト）

1年当たりの総コストが最も高い施設は93万円の第2分団詰所、最も低い施設は81万円の第3分団詰所となっている。

なお、人件費を除く1年当たりの総コストが最も高い施設は、第2分団詰所の23万円、最も低い施設は第3分団詰所の11万円となっている。

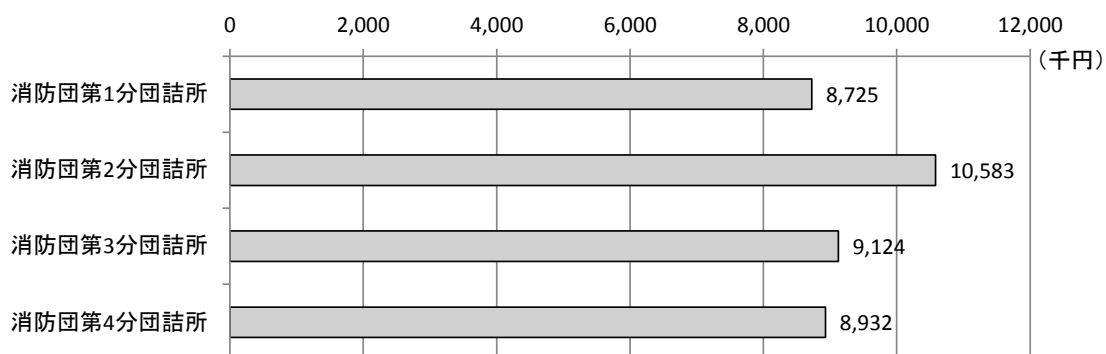
図表2-109 消防施設の総コスト（平成24～26年度平均）



③ 延床面積 1㎡当たりのコスト

延床面積 1㎡当たりのコストの平均は、934 万円となっている。また、コストが最も高い施設は 1,058 万円の消防団第2分団詰所、最も低い施設は 873 万円の消防団第1分団詰所となっている。

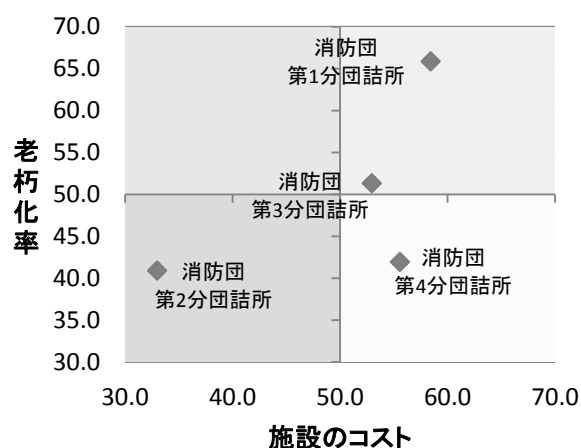
図表 2-110 消防施設の 1㎡当たりコスト（平成 24～26 年度平均）



オ 分野別の公共施設の評価

第2分団詰所は、コストの偏差値が低く、老朽化の偏差値も低い施設であるため、老朽化対策とともにコスト縮減対策が求められる。

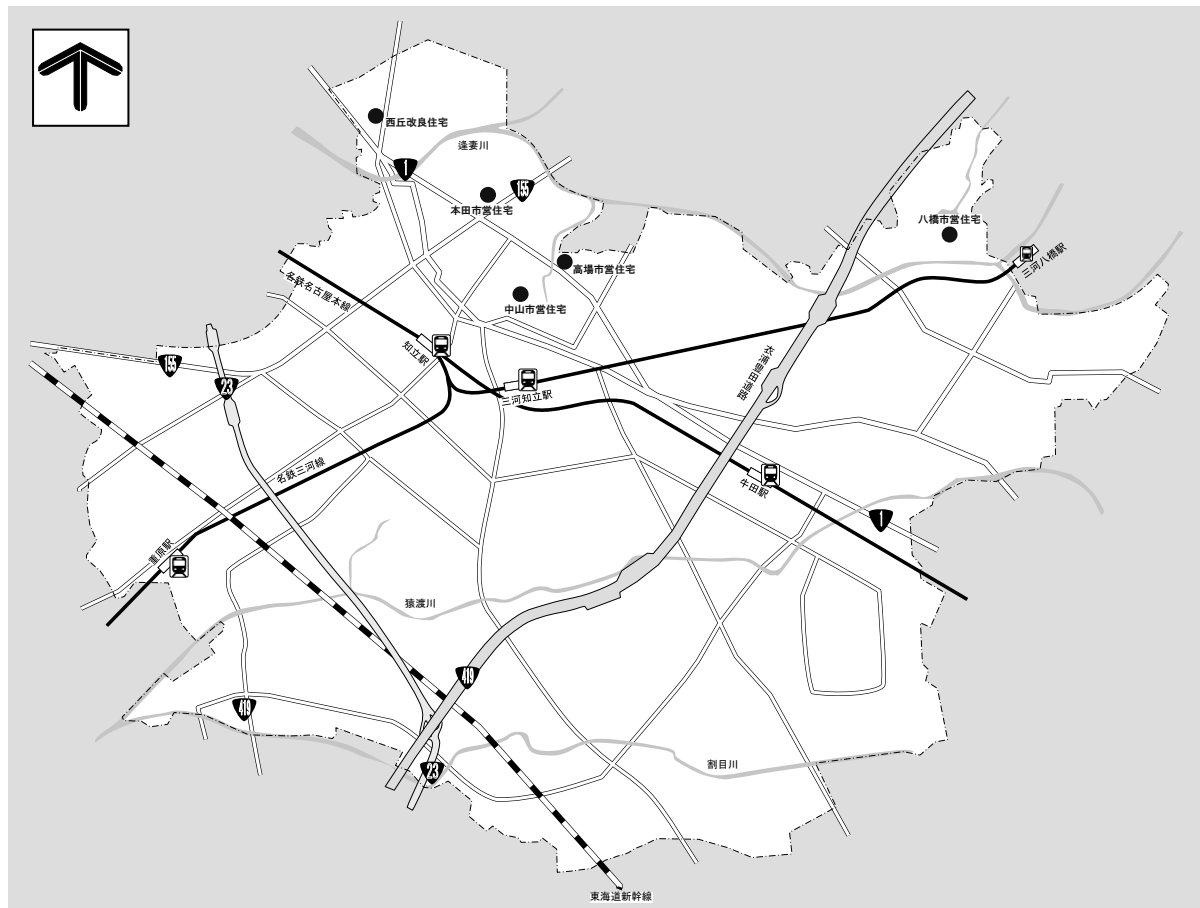
図表 2-111 消防施設の評価



1 1 公営住宅

市内には、5か所の公営住宅があり、市の北西部に集中している。知立小学校区内には、西丘改良住宅、本田市営住宅、高場市営住宅、中山市営住宅の計4か所が設置されている。残る1か所は、八橋市営住宅であり、市の北東部に位置している。

図表 2－1 1 2 公営住宅の立地状況



(1) 公営住宅

ア 施設状況

公営住宅は計5か所あり、総延床面積は10,523.49㎡となっている。

図表2-113 公営住宅の施設状況

施設名	所在地	開設年度	延床面積
中山市営住宅	知立市中山町東狭間 11-3	昭和46年度	1,301.34㎡
八橋市営住宅	知立市八橋町山田谷 8-81	昭和55年度	4,684.47㎡
本田市営住宅	知立市西町本田 119	昭和47年度	427.46㎡
西丘改良住宅	知立市西丘町地内	昭和60年度	2,513.22㎡
高場市営住宅	知立市山屋敷町高場 5-1	平成24年度	1,597.00㎡
合 計			10,523.49㎡

イ 建物状況

中山市営住宅が最も古く、経過年数は44年で、最も新しい施設は高場市営住宅で経過年数は3年となっている。また、構造は高場市営住宅がRC造（鉄筋コンクリート造）、その他はPC造（プレキャストコンクリート造）であり、耐震性能を有している。

バリアフリーへの対応状況は、車イス対応エレベータは高場市営住宅のみ対応、道路から入口までの車イス対応スロープは高場市営住宅が対応、八橋市営住宅が一部対応している。手すりは全ての公営住宅にて対応しているが、障がい者用トイレ、自動ドア、点字ブロックは全ての公営住宅において非対応となっている。

図表2-114 公営住宅の建物状況

施設名	代表建築年度	経過年数	構造	耐震性
中山市営住宅	昭和45年度	44年	PC造	有
八橋市営住宅	昭和54年度	35年	PC造	有
本田市営住宅	昭和46年度	43年	PC造	有
西丘改良住宅	昭和59年度	30年	PC造	有
高場市営住宅	平成23年度	3年	RC造	有

図表2-115 公営住宅のバリアフリーの状況

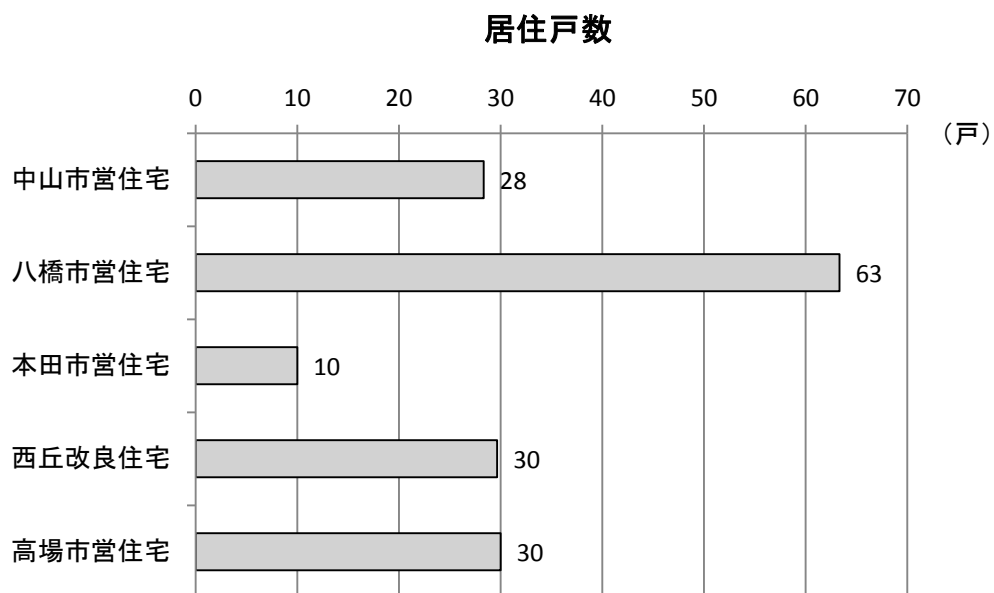
施設名	車イス対応エレベータ	障がい者用トイレ	車イス対応スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック
中山市営住宅	非対応	非対応	非対応	非対応	対応	非対応
八橋市営住宅	非対応	非対応	一部対応	非対応	対応	非対応
本田市営住宅	非対応	非対応	非対応	非対応	対応	非対応
西丘改良住宅	非対応	非対応	非対応	非対応	対応	非対応
高場市営住宅	対応	非対応	対応	非対応	対応	非対応

ウ 入居戸数

平成 23～25 年度の 3 か年の平均入居戸数は、5 か所の平均で 32 戸となっている。

入居戸数が最も多い施設は八橋市営住宅の 63 戸、最も少ない施設は本田市営住宅の 10 戸となっている。

図表 2－116 公営住宅の入居戸数

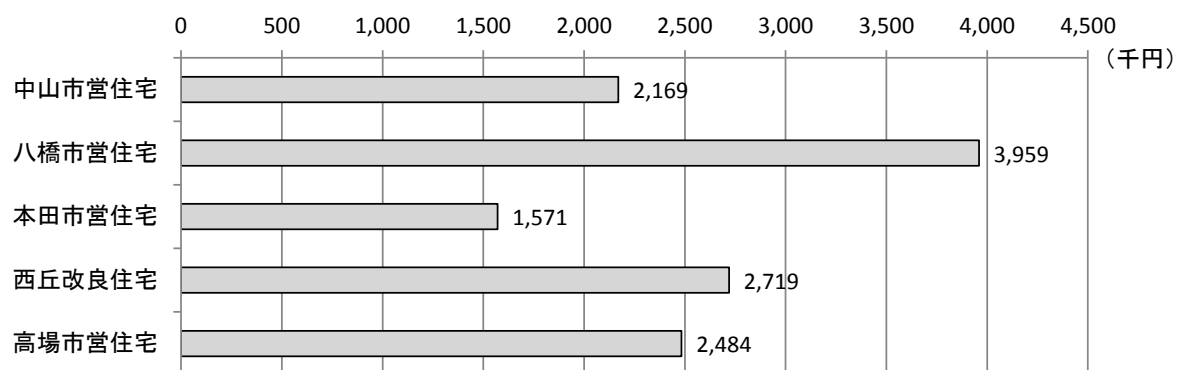


エ コスト状況

① 施設維持コスト

市営住宅の施設維持コストは全体で 1,290 万円、平均は 258 万円となっている。また、施設維持コストが最も高い施設は 396 万円の八橋市営住宅、最も低い施設は 157 万円の本田市営住宅となっている。

図表 2－117 公営住宅の施設維持コスト（平成 24～26 年度平均）

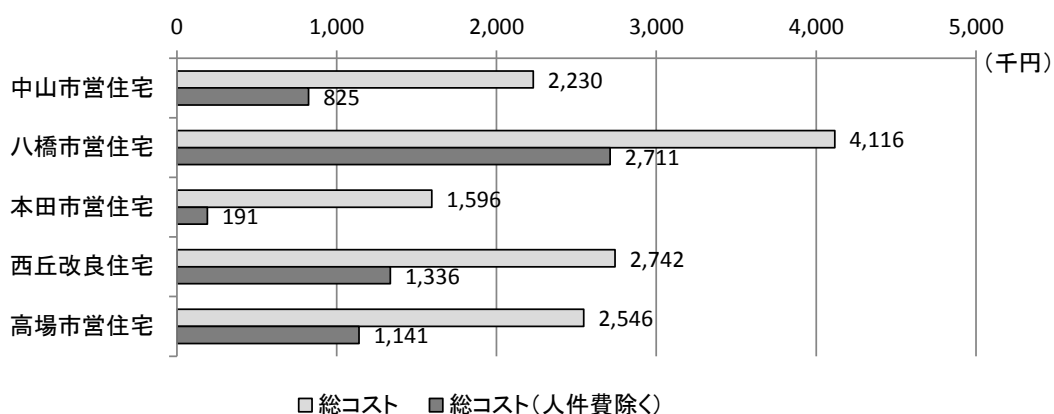


② 総コスト（施設維持コスト＋施設運営コスト）

市営住宅の総コストは全体で1,323万円、平均にして1か所当たり265万円となっている。また、コストが最も高い施設は412万円の八橋市営住宅、最も低い施設は160万円の本田市営住宅となっている。

市営住宅の人件費を除いた総コストは全体で620万円、平均にして1か所当たり124万円となっている。また、コストが最も高い施設は271万円の八橋市営住宅、最も低い施設は20万円の本田市営住宅となっている。

図表2-118 公営住宅の総コスト（平成24～26年度平均）

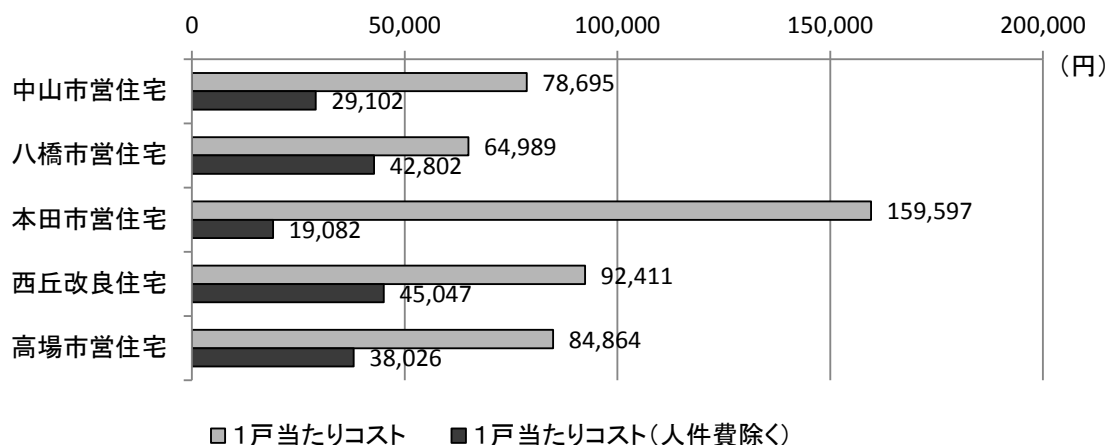


③ 1戸当たりコスト

1戸当たりのコストの平均は、9.6万円となっている。コストが最も高い施設は16万円の本田市営住宅の、最も低い施設は6.5万円の八橋市営住宅となっている。

1戸当たりの人件費を除いたコストの平均は、3.5万円となっている。コストが最も高い施設は西丘改良住宅の4.5万円、最も低い施設は本田市営住宅の1.9万円となっている。

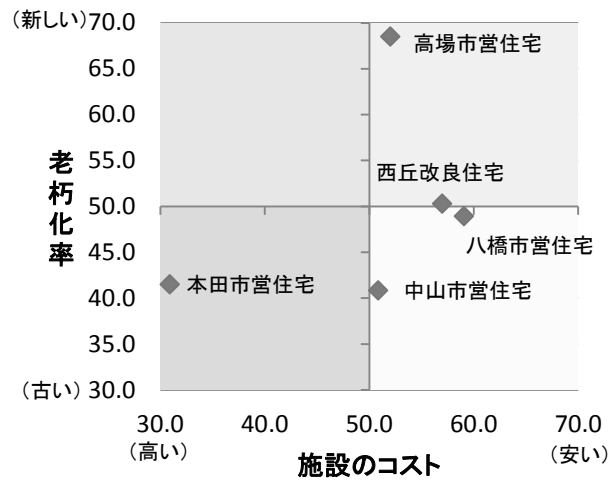
図表2-119 公営住宅の1戸当たりコスト（平成24～26年度平均）



オ 分野別の公共施設の評価

本田市営住宅は、コストの偏差値が低く、老朽化の偏差値も低い施設であるため、老朽化対策とともにコスト縮減対策が求められる。

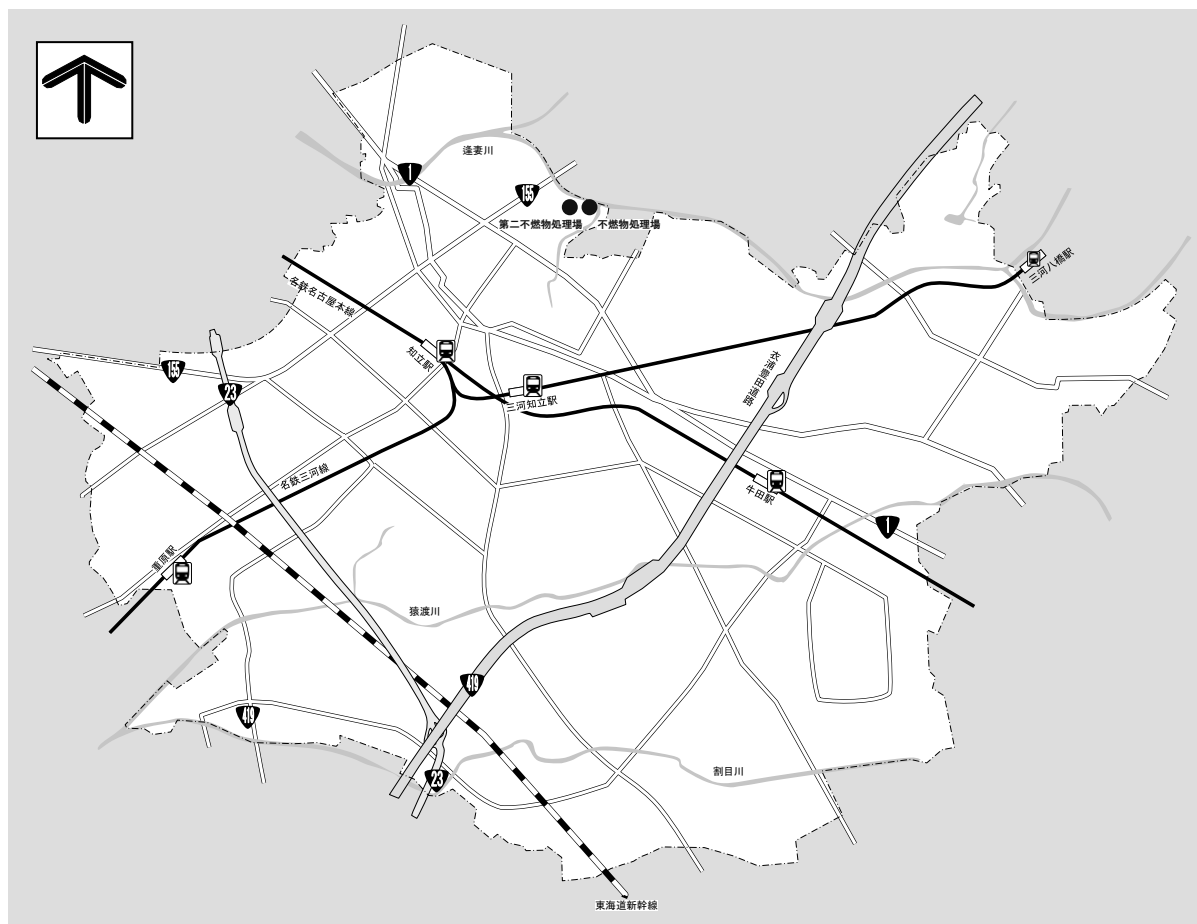
図表 2－120 公営住宅の評価



1 2 供給処理施設

供給処理施設としては、不燃物処理場と第二不燃物処理場が市北部の逢妻男川沿いに隣接して設置されている。

図表 2－1 2 1 供給処理施設の立地状況



(1) 不燃物処理場

ア 施設状況

不燃物処理場は計2か所あり、総延床面積は140.92㎡となっている。

不燃物処理場は集積所、第二不燃物処理場が最終処分場となっている

図表2-122 供給処理施設の施設状況

施設名	所在地	開設年度	延床面積	敷地面積
不燃物処理場	知立市山屋敷町見社1	平成10年度	85.00㎡	11,180㎡
第二不燃物処理場	知立市山屋敷町見社・板張	昭和62年度	55.92㎡	12,073㎡
合 計			140.92㎡	23,253㎡

イ 建物状況

不燃物処理場の経過年数は23年、第二不燃物処理場の経過年数は27年となっている。また、構造は全てS造（鉄骨造）であり、耐震性能を有している。

バリアフリーへの対応状況は、両施設とも全ての項目において非対応となっている。

図表2-123 供給処理施設の建物状況

施設名	代表建築年度	経過年数	構造	耐震性
不燃物処理場	平成3年度	23年	S造	有
第二不燃物処理場	昭和62年度	27年	S造	有

図表2-124 供給処理施設のバリアフリーの状況

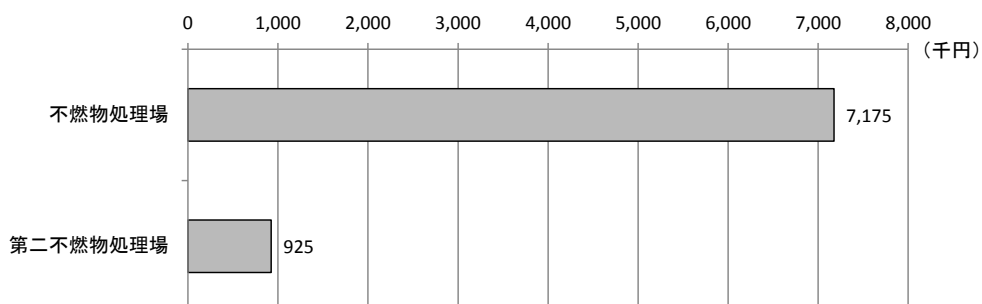
施設名	車イス対応エレベータ	障がい者用トイレ	車イス対応スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック
不燃物処理場	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
第二不燃物処理場	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応

ウ コスト状況

① 施設維持コスト

施設維持コストは、不燃物処理場が718万円、第二不燃物処理場は93万円となっている。

図表2-125 供給処理施設の施設維持コスト（平成24～26年度平均）

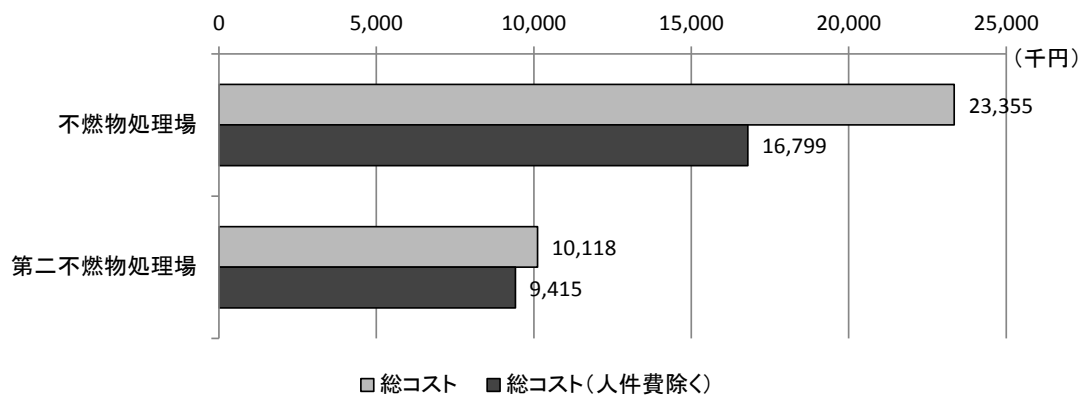


② 総コスト（施設維持コスト＋施設運営コスト）

総コストは、不燃物処理場が2,336万円、第二不燃物処理場は1,012万円となっている。

なお、人件費を除いた総コストは、不燃物処理場が1,680万円、第二不燃物処理場は942万円となっている。

図表2-126 供給処理施設の総コスト（平成24～26年度平均）



【不燃物処理場】

不燃物処理場は、年間 8 万人程度の利用があり、利用者 1 人当たりのコストは 301 円/人となっている。その他委託料の項目が 1,500 万円以上の金額となっているが、不燃物の収集業務の委託費が含まれているためである。

図表 2-127 不燃物処理場の状況

施 設 名		不燃物処理場				
従たる施設の場合、主たる施設名		-				
大分類	供給処理施設	中分類	供給処理施設	施設番号	64	
所管部課		環境課				
1 土地データ						
所 在 地 (小学校地区)	知立市山屋敷町見社1 (知立小学校)			敷 地 面 積	11,180 ㎡	
				うち借地面積	- ㎡	
2 建物データ (複数棟の場合、建築年月・建築構造・階数は主な建物データによる。)						
構 成 施 設	倉庫、現業棟					
複 合 ・ 併 設 施 設	-			建 築 年 度	平成3 年度	
建 物 構 造	鉄骨造	延 床 面 積	85 ㎡	総 取 得 費	8,608 千円	
階 数	1 階	うち借用面積	- ㎡	避 難 所 指 定	指定無し	
3 管理運営データ						
利用状況※1	H23年度	H24年度	H25年度	平均利用者数	管理形態	
	74,832 人	77,559 人	80,325 人	77,572 人	包括委託	
ファシリティ コスト (H24～26年度) (施設コスト) ①施設維持コスト 建物を良好に保 つために要する 経費 + ②施設運営コスト 公共サービスを 提供するために 要する経費	内 訳		金額(円)	内 訳		
	収 入	利用料等	47,220	① 施設維持 コスト ② 施設 運営 コスト 出	人件費(賃金含)	6,555,999
		国 費	-		修繕料	618,387
		県 費	-		火災保険料	1,036
		その他	14,500		維持管理委託料	-
		市費(一般財源)	23,292,952		敷地借上料	-
	合 計※2		23,354,672		工事請負費	-
	施設外観				その他維持費	-
					小 計※2	7,175,422
					人件費(賃金含)	-
					光熱水費	224,534
					その他委託料	15,314,527
					その他運営費(事業費)	640,189
					小 計※2	16,179,250
					合 計(①+②)	
コスト計算※3				利用者 1 人当たり		市民 1 人当たり
	301 円/人		332 円/人	274,761 円/㎡		

(注)※1、2、3 は図表 2-19 の注と同じ

【第二不燃物処理場】

第二不燃物処理場は、市民1人当たりのコストは160円/人、延床面積1㎡当たりのコストは201,445円/㎡となっている。その他委託料の項目が750万円以上の金額となっているが、第二不燃物処理場の浸出水を適正に管理する業務の委託費などが含まれている。

図表2-128 第二不燃物処理場の状況

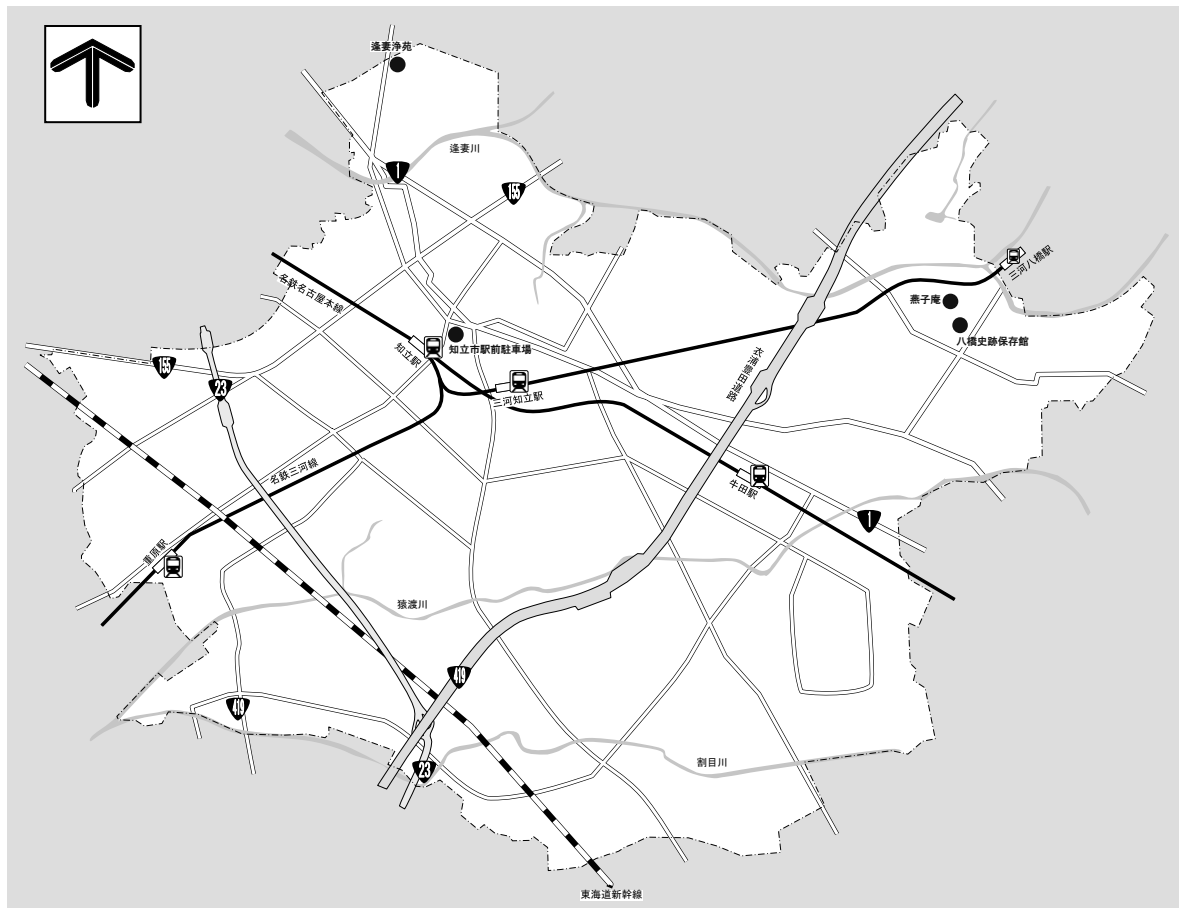
施設名		第二不燃物処理場					
従たる施設の場合、主たる施設名		-					
大分類	供給処理施設		中分類	供給処理施設	施設番号	65	
所管部課		環境課					
1 土地データ							
所在地 (小学校地区)	知立市山屋敷町見社・板張 (知立小学校)			敷地面積	12,073 ㎡		
				うち借地面積	- ㎡		
2 建物データ (複数棟の場合、建築年月・建築構造・階数は主な建物データによる。)							
構成施設	事務所、機械室						
複合・併設施設	-			建築年度	昭和62 年度		
建物構造	鉄骨造	延床面積	56 ㎡	総取得費	5,100 千円		
階数	1 階	うち借用面積	- ㎡	避難所指定	指定無し		
3 管理運営データ							
利用状況※1	H23年度	H24年度	H25年度	平均利用者数	管理形態		
	- 人	- 人	- 人	- 人	包括委託		
ファシリティコスト (H24～26年度) (施設コスト) ①施設維持コスト 建物を良好に保つために要する経費 + ②施設運営コスト 公共サービスを 提供するために 要する経費	内 訳		金額 (円)	内 訳	金額 (円)		
	収 入	利用料等	-	支 出	①施設維持コスト 人件費 (賃金含)	702,573	
		国 費	-		修繕料	221,550	
		県 費	-		火災保険料	1,032	
		その他	-		維持管理委託料	-	
		市費 (一般財源)	11,280,919		敷地借上料	-	
	合 計※2		11,280,919		工事請負費	1,162,920	
	施設外観				その他維持費	-	
			小 計※2		2,088,075		
			②施設運営コスト		人件費 (賃金含)	-	
					光熱水費	1,532,548	
				その他委託料	7,500,400		
				その他運営費 (事業費)	159,896		
				小 計※2	9,192,844		
			合 計 (①+②)		11,280,919		
コスト計算※3	利用者1人当たり		市民1人当たり		延床面積1㎡当たり		
	- 円/人		160 円/人		201,445 円/㎡		

(注)※1、2、3は図表2-19の注と同じ

13 その他

その他の公共施設として、逢妻浄苑は市北西部の県道 54 号豊田知立線沿いに設置されており、知立市駅前駐車場は、市の中心部である知立駅の近隣に位置している。燕子庵及び八橋史跡保存館については、市北東部の三河八橋駅の近隣に位置している。

図表 2-129 その他の公共施設の立地状況



ア 施設状況

その他に分類される施設は計4か所あり、総延床面積は5,692.25 m²となっている。

知立市駅前駐車場（所在地：知立市新富一丁目）は、駅前に立地し、駐車可能台数は246台となっている。

逢妻浄苑（所在地：逢妻町道瀬山）は火葬及び動物などの焼却を行うための施設となっている。

八橋史跡保存館（所在地：八橋町寺内）と燕子庵（所在地：八橋町寺内）はともに八橋かきつばた園内にある施設で、それぞれ展示場、茶室としてかきつばた祭りに訪れる観光客をもてなす施設となっている。

図表2-130 その他の公共施設の施設状況

施設名	所在地	開設年度	延床面積	敷地面積
知立市駅前駐車場	知立市新富一丁目1	昭和60年度	5,100.32 m ²	3,564 m ²
逢妻浄苑	知立市逢妻町道瀬山65	昭和45年度	326.00 m ²	3,847 m ²
八橋史跡保存館	知立市八橋町寺内61-1	昭和61年度	195.35 m ²	218 m ²
燕子庵	知立市八橋町寺内60-1	平成22年度	70.58 m ²	184 m ²
			5,692.25 m ²	7,813 m ²

イ 建物状況

その他に分類される施設の経過年数は、最も古いのが逢妻浄苑で44年、最も新しい施設は燕子庵で5年となっている。

また、構造は燕子庵がW造（木造）で、それ以外の施設はS造（鉄骨造）であり、全てのその他に分類される施設において耐震性能を有している。

バリアフリーへの対応状況は、車イス対応エレベータ、自動ドア、点字ブロックが全ての施設に対して非対応となっている。障がい者用トイレ、手すりは知立市駅前駐車場で対応又は一部対応しており、道路から入口までの車イス対応スロープは逢妻浄苑以外の施設で対応している。

図表2-131 その他の公共施設の建物状況

施設名	代表建築年度	経過年数	構造	耐震性
知立市駅前駐車場	昭和60年度	29年	S造	有
逢妻浄苑	昭和45年度	44年	S造	有
八橋史跡保存館	昭和60年度	29年	S造	有
燕子庵	平成21年度	5年	W造	有

図表2-132 その他の公共施設のバリアフリーの状況

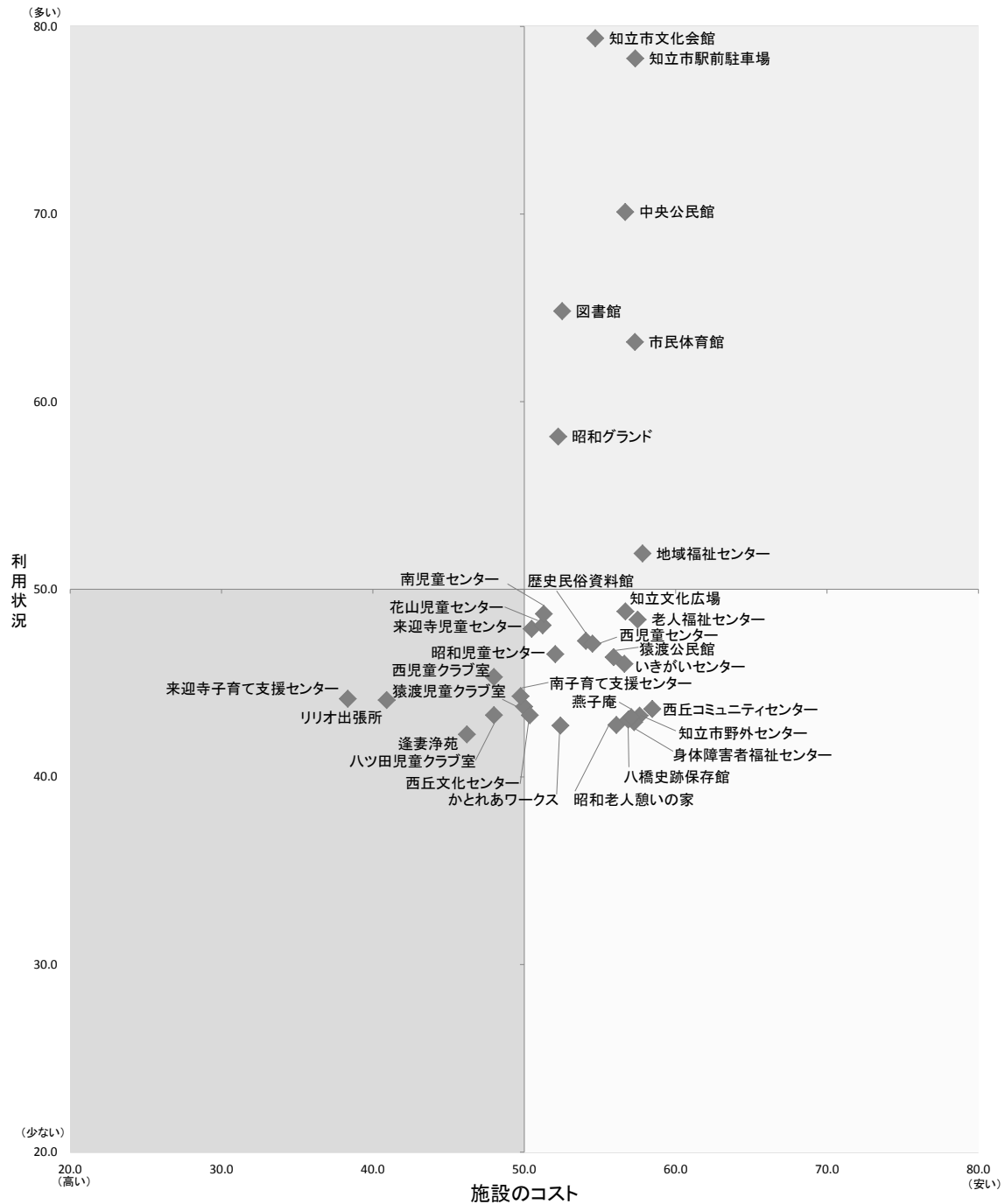
施設名	車イス対応エレベータ	障がい者用トイレ	車イス対応スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック
知立市駅前駐車場	非対応	対応	対応	非対応	一部対応	非対応
逢妻浄苑	—	非対応	非対応	非対応	非対応	非対応
八橋史跡保存館	非対応	非対応	対応	非対応	非対応	非対応
燕子庵	—	非対応	対応	非対応	非対応	非対応

1.4 全施設のポートフォリオ分析

(1) 利用状況

利用者が把握可能な施設について、コストと利用状況の観点から分析すると、来迎寺子育て支援センター、リリオ出張所、西丘文化センターは1日当たりの利用者数が少ない施設であり、かつ、1㎡当たりのコストが高い施設であるため、コスト削減対策と利用率向上のための利用促進策が必要である。

図表 2-133 全施設のポートフォリオ（利用状況）



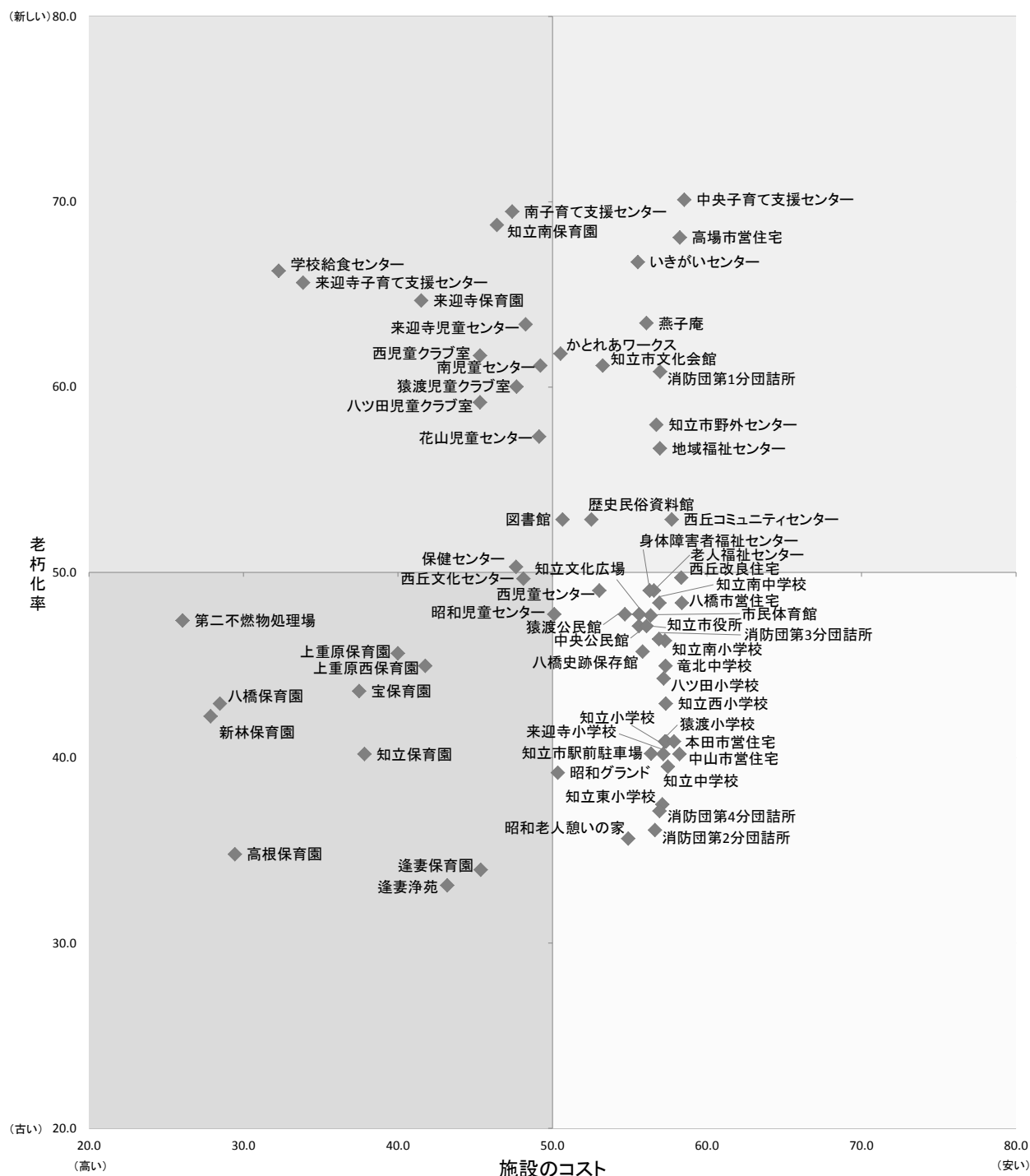
(注1) 利用者が判明している施設のみを対象としている。

(注2) 不燃物処理場は、処分場の埋め立てまでを含めた維持管理コストとなっているため、他施設と比較して非常に高額であり、(17.5, 57.0) の位置にプロットされる。

(2) 老朽化率

全ての公共施設をコストと老朽化率の観点から分析すると、保育園に類する施設の老朽化が進行しており、高コストの施設であることが分かる。しかしながら、子育て支援サービスの提供には人件費が必要であり、やむを得ない側面もあるため、老朽化した施設の改善を図り、施設面でのランニングコスト削減を図っていく必要がある。

図表2-134 全施設のポートフォリオ（老朽化率）



(注1) もやいこハウス、市街地整備事務所、リリオ出張所は、借用施設に設けられた施設のため、比較対象から除外している。

(注2) 不燃物処理場は、処分場の埋め立てまでを含めた維持管理コストとなっているため、他施設と比較して非常に高額であり、(9.2, 50.8) の位置にプロットされる。

